

速記入門ハンドブック

短期速習

速記入門ハンドブック

短期速習

衆議院速記者養成所長

西来路秀男著

衆議院速記者養成所長

西来路秀男著

本書のねらい

★ 短期速習できる速記法

高度な専門速記をわかりやすく説いて、普通筆記より確実に4～5倍のスピードがあがる。しかもおぼえやすい速記法。

★ だれにも利用できる速記法

これで学生諸君は講義ノートの早書取りができ、一般人も私用のメモに、ビジネスマン、秘書、タイピスト、書記、医師、弁護士諸君は文案の起草や文書事務処理の能率化に、ジャーナリスト、スク립ターの諸君は記事取材、記録事務口述筆記、座談会などのまとめに……。

★ 速記の大衆化

文字を書く人全部の能率化、スピード化のために、あらゆる人が速記のテクニックを自分のものとするために……。

★ 速記教授のテキストとして

速記士志望の学習書として、速記教授の教本学習指導要領に……。

★ 本書は、速記のABCからXYZまで、懇切丁寧に解説した唯一の速記入門書です。

ハンドブック社刊

¥150

短期速習

速記入門

ハンドブック

西来路秀男著

ハンドブック社刊

はじめに

なるべく多くの人に速記を覚えてもらいたい……というのがこの本の目的です。そのために、だれにでもすぐ応用ができるように、また、どこから読み始めてもよくわかるように、くわしく解説してあります。

この本の特長は、次の五つの点にあります。

① 学生は講義のノートに、学者は着想や要領の摘録に、ジャーナリストはインタビューや取材活動に、ビジネス・マンは一般の文書事務に、秘書は手紙の文案や伝言のメモに、書記は記録事務に、教師は教案の作成に、医師は患者の容態書きに、弁護士は聴き取り書きや弁論の草稿に、警察官は尋問や報告書の下書きに、自衛隊員は受命伝達に、著述家は創作活動や

筋書きに、家庭の主婦は買物のメモや生活のプランに、一般の人はメモや日記に、すぐ速記が役立つようにくふうしてあります。

②速記に関することは、あらゆる面にわたって、最新のデータによって説明してありますから、速記学習者のテキストないし副読本として最適の本であります。ことに使用度数表は、在来の速記関係書にまったく見られなかったものですが、科学的学習法に欠くことのできないカギとして、最大限の活用が期待されます。

③速記にはいろいろ異なる方式(流派)がありますが、公正な立場から、その選定の基準、方式の現有勢力、方式の系統一覧表、相互影響の関係、検定試験合格者数、速記者の数などを具体的に明示したのは、類書中この本が始めてです。

④この本に説かれてある運用の法則は、最も基本的な原理・原則ばかり

ですから、どの方式にもそのまま適用することができます。従って自分の速記を高速化したい人は、方式や流派に関係なく、どしどし採り容れてスピード・アップしてください。遠慮は無用です。

⑤さらに進んで、専門の速記士になりたい人は、この本の文字式速記法を習っておいて、専門家用の符号式速記法に移ることも容易です。

この本の完成は、ハンドブック社の中安瓚三君の助力に負うところ多かつたことを附記して感謝の意を表します。

昭和三十年中秋

サイライジビデオ

目 次

はじめに	(一)
一、速記のあらまし	(九)
1・速記とは	(九)
2・速記という言葉	(一一)
3・速記の歴史	(一三)
(1) 西洋の速記	(一三)
速記の起源から、ギリシヤ、ローマ、イギリ ス、フランス、ドイツ、アメリカに至るまで	
(2) 日本の速記	(二四)
漢字から、方葉仮名、カタカナ、ひらがな、 フクロ点、ローマ字に至る速記現象と近代の 符号式速記まで	

二、短期速習 文字式速記法	(六九)
符号式と同一原理 同一法則で応用自在	
1・基本的な考え方	(六九)
2・速記の素材符号	(七三)
素音符号と各音記法原則	
3・運用の法則	(八〇)
(1) 位置と関係と連続性	(八〇)
(2) 一線化と使用度数	(八三)
(3) 省略ということ	(八六)
(4) 寓意と暗示	(八九)
4・速記の利用面	(五〇)
5・速記者の数と団体	(五五)
6・どの方式がよいか	(五九)
7・各式の養成機関	(六四)

短期速習
速記入門
ハンドブック

衆議院速記者養成所長
西来路秀男著
ハンドブック社刊

(5) 転換と同形	(一〇二)
(6) 数字の書き方	(一〇三)
4・運用の実例	(一〇三)
5・使用度数順に並べた言葉の表	(一〇四)
三、速記者を志す人へ	(一一一)
1・速記者の生活	(一一一)
2・速記料と速記者の待遇	(一一三)
3・どんな人が速記者に向くか	(一一三)
4・学習の方法	(一一四)
A 符号化の勉強について	(一一四)
B 文字化の勉強について	(一一四)
5・検定試験と採用試験	(一一五)
おわりに	(一一五)

一、速記のあらまし

1. 速記とは

「速記はどんなものか」ということから話をはじめましょう。

「ハヤク(速)カク(記)からソッキ」と思っている人が多いようですが、普通の文字をいくらか速く書いても、それは「速記」ではありません。われわれが「文字を書く速さ」と「話をする速さ」とをくらべてみますと、

★文字を書く速さは(漢字かなまじり文で一分間に)ペンで ているに書いて……二〇〇～三〇〇字鉛筆で 走り書きにして ……五〇～六〇字和文タイプで ……二五字(一人前)～三〇字(優秀者)六〇字(最高記録)ですが

★話をする速さは(漢字かなまじり文で一分間に)

とぎれがちの話……一七〇～二〇〇字
ゆっくりした話……二三〇～二六〇字
普通の 話……二六五～二九〇字
早口 の 話……二九五～三二五字
非常に速い話……三三〇～三六〇字
ものすごく速い話……三六五～四〇〇字
と、なります。(二一頁の表参照)

もちろん、これらはある人のある一瞬間の話のスピードを一つの例につかまえただけです。同じ人でも他の場合にはまた違った速度になることは当然ですが、要するに普通の文字では、どんなに速く書いても、人の話の五分の一か十分の一ぐらしか書き取れないわけです。

ところが、速記で書くと、普通文字の二倍、三倍はおろか、五倍、十倍の速さで、人の話が全部完全に書き取れるのです。それは、物理的に手を速く動かすからではなくて、速記の符号がそれだけ簡単にできていて、手で書く線の量は少くても、言葉のつながりとか、前後関係、語法、語脈などから判断して、ちゃんと読めるようにくふうしてあるからです。

つまり、普通の文字では口でしゃべるほどはやくは書けません。それで「普通の文字では書き取れない速さと、記憶しきれない長さをもった連続的な発言を、普通の文字とはまったく違った特殊な符号で、発音とほとんど同時に書き取って（これを「符号化」という）、あとでその符号で書いたものを普通の文字に書き直す（これを「文字化」という）」のが「速記」で、それをやること（行為・動作）を「速記活動」と言い、そのので

きるウデ（腕前・手腕）を「速記技術」略して「速記術」と言い、その方法というモノ（理論・方式）を「速記法」と言うのです。この二つのもの（「活動」「技術」「法」）はみな「速記」と言われて、相互に混同されていますが、まったく性質のちがったものですから、用語もハッキリ区別して使う必要があります。辞書に

「ソッキ 速記 shorthand, stenograph

普通文字と全然異なった符号によって演説、談話等を書取り、後に普通文字に書直す法」〔平凡社版「大百科事典」〕とあるのは「法」(system, theory, method)のことであり、

「(速記術) 普通文字と全然異なった記音の符号によって、談話・演説などを書取り、後に普通文字に書き直す法」

〔岩波書店版新村出編「広辞苑」〕

とあるのは、「法」と「術」(技術)とが混同されているのだ、ということがわかったでしょう。言葉の使い方としては、

「議事は、速記法によってこれを速記する。」(衆議院規則第二百一条)

としようように用いるのが正しいのです。

2. 「速記」という言葉

「速記」というのは、明治十年代（一八七七一八八六年）にできた言葉で、矢野文雄氏が名づけ親だといわれています。日本の速記の元祖である田鎖綱紀（「源綱紀」ともいった）氏自身は「日本傍聴記録法」と称して、ピットマン式の流れをくむアメリカのグラハム式速記法を日本語にあてはめた方式を明治十五年（一八八二年）に発表しています。そのほか「速記法」のことを

傍聴筆記法 記音学 疾書術 疾書法

ラジオ放送(座談)の速さ

(分速読算字数) (氏名) 郎蔵子
402 浦松 佐美太
384 中島 健秀
370 高 峰

茂隆郎子郎 太一
360 幾た紳
345 水林辺
341 吉辰清平渡
329

一麟一得歩男 凛
318 木 雅利乱寿
307 田汀川
302 戸田
301 佐林永小江黒
299
298

夫郎鳥夫男一男蔵道郎郎畝清
292 好三白郁三壮勝安政 八一 笛
292 野本宗山谷宅崎木山 禧勝
291 中宮正大武大岡鈴蟻木亀西永
282
280
277
277
276
270
269
266
264

蔵郎郎郎人雄声均省郎 彰海
262 鎮三 知太 兼房 夢 三太
260 伊麟 川田 西村 篤
254 刃井 山原 藤 川 西村 多日
250
249
247
246
245
232
230

本今
222
176

捷書法 略書法 略記法 略記術 速書法
 早書術 早書法 早書取 短記法 筆記法
 線状筆記法 言語速写法 ことばの写真法
 言語写真法 言葉の早取写真 話の紙取写真
 写言術 写言学 書言学 速記学 速記術
 などと言っていたこともありませう。

「速記」という言葉は、もともと英語の *Stenography* (shorthand) または *Metalingraphy* (stenography) の訳語で、short は「短く」とか「簡単」とかいう意味、hand は本来「手」という意味ですが、手で書くところから「書く」とか「筆跡」とかいう意味になり、さらに転じて「文字」の意味にも使われています。普通文字の *long hand* (略) *long hand* と言ふ「ロングで書く」などと言います。Steno は、ギリシヤ語の *steno* (狭い) *graphia* は同じくギリシヤ語の *graphia* (書く、彫刻する) から来てしま

3. 速記の歴史

速記の歴史は文字とともに古く、といえます。文字を発明した人間が、普通用いられる定型(印刷体——楷書体)よりもさらに簡単な、ヨリ速い方法(筆記体——草書体)で書くようにするとき、そこには必然的に速記的現象が起ります。そこで、速記以前の速記的現象も含めて、西洋と日本の速記法の起源と発展のあとをたどりながら、速記のほんとうのすがたを明らかにしてみたいと思えます。

(1) 西洋の速記

今から二千四百年ほど前(西暦紀元前四八〇年ごろ)、ペルシヤ王クセルクセス (Xerxes) が、大軍を率いてギリシヤに遠征したとき、命令を速く伝えるために、速記者を使ったという伝説があ

す。ほかに「速記」を意味する英語としては

- ブラッキグラフィー
Brachygraphy 短書法
- ||
(Short)
- フォノグラフィー
Phonography 記音法
- ||
(Sound)
- フレーゼオグラフィー
Phraseography 略句記法
- ライン・ライティング
Line-writing 線書法
- ロゴグラフィー
Logography 略語記法
- ||
(word)
- タキグラフィー
Tachygraphy 速書法
- ||
(quick)

などというのがあります。これらの言葉によっても、速記の目的、手段、方法などがある程度推測されます。ことにライン・ライティングなどは、速記が線状記号によってなされるものであることをハッキリ示しています。

りますが、実物はのこっていません。

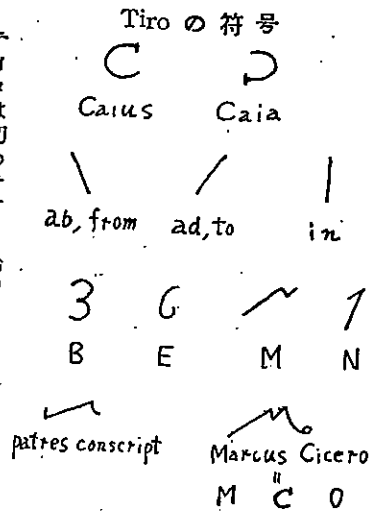
また、西紀前四〇〇年ごろギリシヤの哲学者であり、歴史家であったクセノフォンが、自分の先生であるソクラテスの口述を筆記して出版したという事です。それは三世紀のローマの著述家ディオゲネス・ラエルチウス (Diogenes Laertius) が「クセノフォンは会話をそのまま書きとめた第一人者である」といったというのでよく例に引かれますが、おそらく意味筆記の程度ではなかつたかと思われませう。

ギリシヤの速記 世界で最も古い速記の史料は、ギリシヤのアクロポリス(小高い所という意味)の廢墟から発見(一八八四年)された大理石の破片で、それには簡単な符号で碑文が刻まれている。クセノフォンに献げた言葉や、アリストテレスに献げた言葉であることが判読できたそうである。その符号のことをアクロポリス式といつて

ます。また、同じギリシャのデルファイでも、日常の筆記事務用として考案されたらしい速記符号とその図表が発見されています。この方はデルファイ式といわれています。これらの古代ギリシャ人の書いた速記原本は、現在、ローマのヴァチカン図書館、パリの国立図書館、大英博物館などに実物が保存されています。(Enciclopedia Italiana参照)

ローマの速記 速記の起源を説くものは、だれでも必ず「ティロの速記」(Notae Thronianae)を例に引きます。この有名な最初の速記法は、普通文字を使ったいわゆるタキグラフィで、慣用語や頻出語は頭文字だけを書き、他の言葉と混同されそうなきときは、それを逆さまに書くとか、次の字を書き加えるとかして、その他の字は省略するというやり方でした。また前置詞にはある種の簡単なサイン(Sign)が用いられていました。さらに進んでアルファベットの文字を簡単にし、数

語を表わすのに主な子音の画線だけを一まとまりに書くというような方法も使われていました。



ティロは初めキケロ (Marcus Tullius Cicero 106~43B.C.)の奴隷でしたが、後に解放されて自由人となり、主人キケロの演説を速記したので、最初の速記実務家(速記技術者)として知られています。

紀元前六三年、カティリナの陰謀を摘発するため小カトーが元老院で「カティリナ弾劾演説」を

やった時、ティロはキケロの命令を受けて、院内各所に速記者を配置し、自分も速記に当たったのですが、

「カティリナよ、お前はわれわれの忍耐をいかに長いこと浪費したことか!」

(Quosque tandem abutere Catilina, Patientia nostra?)

と云う冒頭の一句を聞くやいなや、ティロは即座に「QPN」とたった三字で書き取ってしまった、ということが伝えられています。

ローマの速記は、近代の速記法のように音を中心に組み立てたものではなかったから、一語、一語、符号を覚えなければならず、一世紀の中ごろには約五千、後には一万余千もの略符号を覚えなると演説を書き取ることができないので、学習はきわめて困難であり、完全にマスターするには十年もかかったといわれています。それで初めの

ころは、数人の速記者が手わけして、各人の判断で、あるいは合図によって六語ないし八語ずつ演説者の発言についていけるように連続して書いていて、あとでみんなのノートを読み合わせて全体の演説を言葉通りに再現するという方法が採用されていたようです。

しかし、その後多くの人によって次第に改良され、裁判、会議等、公の記録はもちろんのこと、個人的な著述、通信、メモなどにも速記が応用されるようになって、上は皇帝から、下は奴隷に至るまでみんなが速記の研究をしたという速記全盛時代があります。当時の速記者は蠟板に石筆(後には鉄筆)でひっかくようにして符号を書いたものです。

しかし、ローマ帝国の滅亡とともに速記もまた衰滅の一路をたどり、わずかに僧院にそのおまかげが見られるという程度で、十一世紀の終りには

テイロ式もほとんど姿を見せないようになって
ます。この間には速記の符号が暗号の代りに使
われたこともあります。修道院の写字生が人民
(people)をpplと書き、エルサレム(Jerusalem)
の代りにJmと書いたりしたのもこの頃のことで
す。(この頃イソンの「書物の歴史」参照)

中世のこの時代は、速記にとってもまったく暗
黒時代でした。この状態はイギリスの速記が始ま
る十六世紀の末まで続いたのです。

イギリスの速記 一五八八年(秀吉の関白時代)
医学者で考古学者で牧師でもあるティモシー・ブ
ライト博士(Dr Tynothy Bright)は、考古学
の研究中偶然のことから千六百年前に埋没したテ
イロの速記法を発見し、これに自分の考案を加え
て「記号論」(Characterie)という本を著わし
ました。これは近代速記の最初の著書です。この
方式は符号を縦書きにするようになっていたため

か、あまり実用にはならなかったようですが、一
般にはブライト博士は近代速記の始祖とみなされ
ています。

一六〇二年には国教派の牧師ジョン・ウィリス
(John Willis)の「速記術」(Art of Stenogra-
phie) 普通人であればだれでも学び得る簡明な
法則による教授、あらゆる職場に利用できる、簡
単な書記方法」という小冊子が出版されたのです
が、非常に好評で、四十五年間に十四版を重ねま
した。この方式は発音学の原理を初めて英語速記
に適用したもので、最初のアルファベット式速記
法として注目すべき方式ですが、その符号は、V
Zなどはローマ字のままを用い、Aはハ、Eはく
とする程度で、今日の進んだ眼から見ればきわめ
て幼稚なものでした。また、当時の速記者は、一
マペンにインクをつけて書いていたので、大へん
いそがしい思いをしたことでしょう。ただ、ウイ

リスが「ステノグラフィ」(Stenography)と
いう言葉を使った最初の人だとうことは記憶さ
れようとしておきます。

一六二〇年にシェルトン(Shelton) 一六四
六年にリッチ(Rich) 一六七二年にマーンソン
(Mason) とすずれもアルファベットの符号化
に苦心していますが、YとZだけはまだ文字のま
までした。マーンソンの流れをくむトーマス・ガー
ネイ(Thomas Gurney)は一七三七年にロンド
ンの裁判所速記者に任命され、以後その後継者が
その職をついでいます。この人の方式は現存する
英語速記の最古の方式です。今日でもイギリスの
議会その他で使われています。

一七六七年に発表されたバイロン(John By-
ron)の方式では、アルファベット全部が符号化
され、日本の田鎖式系統で今日固定化された感の
あるMが(、Nが)、Tが——などの源流が見られ

るのは、なれぬ他国で知人に会ったような、なつ
かしい気がします。このバイロンを「チャイルド
・ホルドの巡礼」で有名な詩人のバイロン(17
88~12)と同一人物のように説くのは間違えで
しょう。生年を比較してみてください。

オックスフォード大学の哲学教授であったサミ
ュエル・テイラー(Samuel Taylor)の方式は一
七八六年に出版されたのですが、さすがに方式の
基準確立を提唱して世界的名声を博した人の労作
であるだけに、各国語への適用竊案に成功したこ
とは特筆すべきでしょう。すなわち

ペルタンによってフランス語に(一七九〇)
マルティによってスペイン語に(一八〇〇)
ダンツァルによってドイツ語に(一八〇二)
アマンティによってイタリア語に(一八〇九)
ステッガーによってオランダ語に……
ペルシラによってポルトガル語に……

その他、メキシコ、南米諸国等への紹介、翻案も続行行われたようです。

ハンサード・デズイツ(英国議会議録)に速記が採用されたのは一八〇三年以来のことですから、イギリスでは速記が発明されてから二百年ばかりたつてやっと国会の記録が速記によってつくられるようになったわけです。この点、日本では田鎖綱紀氏の発明後八年で、明治二十三年、国会開設と同時に速記が採用されたのですから、時代と条件が違ふとはいへ、やはり多くの人の苦心と努力によって理論と技術が長足に進歩したものだと思ひます。

アイザック・ピットマン(Isaac Pitman 1813~1897)は、ローマ字の形とは全然関係のない、簡単な幾何学的直線や曲線によってあらゆる言葉の音を書き表わすことのできる符号を創案し、その符号の組織と運用の理論を一八三七年に発表

しました——これは後に「速記的英語記音法」(Stenographic Soundhand in English)として出版され、一部四バンスの普及版で広く一般に

読まれたようです——これこそはまさに時代を画する大発明であり、近代的な表音速記法(フォノグラフィック)の出発点ともなった歴史的事件である、と言えましよう。現在世界各国で行われている逐語速記は、多かれ少かれ、直接的にしろ、間接的にしろ、ピットマン式の影響を受けないものはない、と言つてもいいくらいです。ピットマンはその功績によってヴィクトリア女王から騎士の称号を与えられた(一八九四年)のですから、その重要さはおのずからわかるわけです。サー・アイザック・ピットマンは兄弟の援助に恵まれました。ことに末弟ベン・ピットマンは一八五三年アメリカへ渡りシンシナチに速記学校と出版所を設けたのが成功して、百年後の現在もそれが続行つています。

一九一四年、英国議会の新聞記者席で用いられてゐる速記方式の調査をしたところ、一三七名中一二八名がピットマン式、四名がテイラー式、二名がガーネイ式、三名がスローン・デュプロワイヤン式(Sloan-Duployan)であつたとしたことです。これで大体の勢力関係がわかるでしょう。イギリスの速記の歴史をとくたくわしく説明したのは、それが結局日本の速記の前身でもあるからです。今日なんの気もなしに使つてゐる速記の符号が、実は何百年も前のイギリスの速記方式から流れてきてゐる血統の一脈であることを忘れてはなりません。

フランスの速記 フランスでは一六五一年にジャック・コサール(Jacques Cossard)が初めて神学関係の筆記の近代化(線状化)を試みられました。最初の近代速記法として注目に値するのは、クーロン・ド・テヴォー(Coulon de

Thévenot)の「タキグラフィ」(Tachygraphie 1787)です。一七九〇年に発表されたヘルタン(Theodore-Pierre Bertin)の方式は、イギリスのテイラー式をフランス語に応用したもので、フランス全体に普及しました。フランス速記の父と言われているコナン・ド・プレパン(Conen de Prépan)は、一八一三年、各式の長所を採つてフランス語に最も適した速記法を案出しました。一八二七年に方式を発表して一八七〇年まで上院の速記監督をしていたプレヴォ(Hippolyte Prévost)もテイラー式を最も巧みに応用した一人です。プレヴォ式は、その後ドローネイ(Delaunay 1866)の改良が加えられたのでプレヴォードローネイ式(Prévost-Delaunay, 1878)と称されつ

きます。ホーム・ペリ(Aimé Paris, 1822)の直系であるデュプロワイヤン(Emile Duployé, 1867)はプレパン式に多くの改良を加え、デュプロワ

イニ学會式として、フランスばかりでなく、フランス語を使用する國々(たとえば、スイス、カナダなど)に今日も広く用いられています。その概要はラルス (Rancasse) の繪入小百科辭典にも出ていますから、丸善あたりでたしかめてみて下さい。そのほかにもデュイッソン式 (Buisson) カントン式 (Canton)、デュポン式 (Dupont) など、いろいろありますが、みなデュプロワイエ系統のもので、一体にフランス語系の速記方式はみな円の使い方がうまいようで、この点アメリカのグレッグ式にも影響を与えているようです。いまフランスでよく普及して勢力のあるのは、ブリゾオ、デュプロワイエ、プリバマンの三式でしょう。

ドイツの速記 ドイツで最古の速記方式といえは、一六七九年にフランクフルトで出版されたラムゼー式 (Ramsay) でしょう。これはイギリス

が、一八一九年に議会の招きを受けてから、とにかくに元気づいてこれを完成する気になったということです。ドイツとオーストリアにはこの式が普及しています。ガベルスベルグ式はまた各國語に翻案されて、ヨーロッパ諸國へ紹介され、わが國でも衆議院式の中には、若林案以来一部その理論が利用されています。

一八四一年にはシュトルツェ (Wilhelm Stolze 1798~1869) の方式が発表されました。ガベルスベルグ式を基本にして、改良、發展させたものです。初めプロシヤ議會で用いられ、ドイツ議會ハンガリア議會でもガベルスベルグ式と並んで広く用いられた式です。ガベルスベルグ式とシュトルツェ式の理論は英語速記にも導入され、その他の各國語速記にも応用されています。

シュトルツェ式は後に門人によって改良されて、シュトルツェ・シュレライ式 (Storize-Schrey,

のシュルトン式の応用です。一七九六年に發表されたモーゼンガイル式 (Mosengeil) もまた英語速記法の翻案であったようです。モーゼンガイルは一八一九年にさらに第二の方式を發表しています。

元來ドイツの速記法は、英仏系の方式とはシステムが違っていて、英仏系の正田派(幾何派)に対して斜線派(草書派)といわれています。それはドイツ特有の龜の子文字筆記体を利用した斜線の多い符号で、どこか文字式に似た、非常に特色のある符号の体系です。その代表的なのが一八三四年に完成して發表されたガベルスベルグ (Franz Xaver Gabelsberger, 1789~1849) の方式です。ガベルスベルグは新しい速記理念によってドイツ語速記法の上に一新紀元を画したと言われています。彼はバヴアリア國の大臣秘書で、初め私用のために速記法を考案したのです。

1847)として知られています。これの日本語に対する適用試案であるデーゲン式は実用化されずに終りました。

日本の毛利式は、ガベルスベルグ系のファウマン式 (Faulmann, 1875) を日本語に翻案、適用したものです。この方は実用化されましたが、現在はあまり振わないうようです。

アメリカの速記 共和制の布かれたころにはもうテイラー式やガーネイ式がアメリカに紹介されていたといいますが、ヒットマン系の方式は、ロングレー (Longley, 1849)、ベン・シュアトマン (Ben Pitman, 1853)、グランド (Andrew G. Graham, 1858)、リンズレー (Lindsay, 1864)、マンソン (Munson, 1867)、バーナム (Burnz, 1871) などが次々と發表、公刊され、一八八二年には全米で一萬数千人の速記修業者を出したという統計があります。

一八七八年に楢田派のクロス式 (Cross) が発

表され、一八八八年には楢田派の代表ともいうべきグレッグ (Dr. John Robert Gregg) の「淡線速記法」(Light Line Phonography) が出版されました。この方式は自然な運筆のできる曲線(楢田)を主体にして左上から右下に行く線や濃線、位置などは使わないのが特色です。さすがのピットマン式もアメリカではグレッグ式に押され気味ようです。両派の競争意識が激しいので正確なデータが得られず、現在のところ勢力関係の判定はむずかしいのですが、公平に見て五分と五分……高速度の専門速記者にはのれんが古いだけにピットマン式が多く、低速度の速記利用者には出版企業の巧みなグレッグ式が多いところではないでしょうか。日本語に対するグレッグ式の齏業適用は、酒井式、宅間式などがありますがまだ職業的な専門速記者が出るほど高速度化はさ

れていないようです。

一九四二年に N S R A (National Shorthand Reporters Association) が調査したところでは、現在アメリカには、アイザック・ピットマン、ペン・ピットマン、グラハム、マンソン、サクセス及びフルエンシー(ピットマン式)、グレッグ、それにステノタイプ(機械速記)が主な方式で、その他に二十八の雑方式があるということです。アメリカでは速記方式の統一ができてゐるのか、とよく考えるのは、実情を知らないからで、事實はここに述べた通りなのです。客観的に言えば、ピットマン、グレッグ、ステノタイプの三式でオール・アメリカを三分してゐるといふ状態でしょう。

ステノタイプ(機械速記)というのは、アイアランド (Ward Stone Ireland) が一九二二〜一九一五年に創案した印字速記方式のことです。超

小型の特別構造をもったタイプライターで、発音

を聞きながら暗号に似たローマ字記号を両手で打って記録し、あとでその記号を普通の文字に書き直すのです。機械が自動的に何もかもしてくれるわけではなく、手で鉛筆やペンを持って符号を書くかわりに、タイプでローマ字を印刷するわけです。東京裁判のときはじめて実物が日本に紹介され、現在では、同種の機械が日本でもできるようになり、最高裁ではこの印字速記方式を採用しています。

正田派

ピットマン式 (一八三七年) (イギリス)
グラハム式 (一八五八年) (アメリカ)

斜線派

デュプロワイエ式 (一八六七年) (フランス)
ガベルスベルゲル式 (一八三四年) (ドイツ)
シネトルツェルシュレイ式 (一八四七年) (ドイツ)

楢田派

クローヌス式 (一八七八年) (アメリカ)
グレッグ式 (一八八八年) (アメリカ)
印字派—ステノタイプ式 (一九二二、一九一五年) (アメリカ)

要約 古代ギリシャ、ローマ時代に盛

んであった文字式略記法は、中世の暗黒時代に一旦埋没したのですが、十六世末、ブライト博士によってイギリスに復活されました。しかし、普通文字の草化、略体による単語符号の積み重ねは、ついにこれ以上は覚えきれない、いくら努力しても速くは

ならない、という限界点に達しました。

そのとき画期的な速記理論として迎えられたのが、アイザック・ピットマンの「表音速記法」であつたわけです。近代の厳密な意味でいう符号式速記法は、このときから始まったといえます。それ以後、各国で発展して来た速記方式を、符号の形態で区分してみると、次の四つに大別することができます。

ほごです。

その他、導を道、腐を付、譬を辟で代用するもの、冊を□、集を△に復古するもの、東を系、為を为に草化するもの、中国を中、帝国主義を圃、雑誌を結と縮写するもの、広東の有(沒有無)のような方言的地方字なども中国にはあるようです。歴を厂、圃を□と書くのも同じ考えから来ているわけです。

また中国の赤本黄表紙式の小冊子によく見かける帙(冊)張、勸(勸)劬、難(難)難などのように、ちよつと字画の多い複雑なものは何でもおかまいなしにり、又にしてしまうというやり方もあります。法学生が権を权、意を恣、職を私などと書くのもそのためです。

仏教関係では、聴聞筆記や写経の必要上スピードを重んずるせいか、特にこの種の省画、合字が多ようです。これを抄物書(シヨウモツガキ)

とごします。

井(サササテン菩提) 井(ササテン菩提)
ヌ(シテシテ声聞) 言(ヨヨ縁覚)
〇(シシ煩惱) 密(めいめ娑婆)
△(念仏) 社(ジヨウト)
刃(釈迦) 昏(看経) 口(善知識)
文字遊戯、判じものではこんなものもあります。



①音(ワレ) ②唯(タダ)
③足(タルヲ) ④知(シル)

上野伝七

田中十内

一般的なものとしては、目六(録) 三木(参議) 信乃(濃) 美乃(濃) イ三イ(従三位) などというのがあります。漢字を早書きするのにいかに苦心したか、目に見えるようです。しかし、これを笑うことはできません。最近、ある種のプラカードやポスターなどで闘、議を詩、働を仿などと書いているのを見かけます。字とは本来そういう

うものなのではないでしょうか。こう書いてこう読もうという一種の約束ですから、それを使う人たちがお互いに認め合いさえすればそれでいいわけです。ただ、国語正書法(正字法)という問題は別にあります。ここでは書速を話題の中心にしています。これがあとで説明する符号にも非常に深い関係があるのです。

漢字の起源を考えてみましょう。「私」という字は「公」に対するものですが、もとは別図のよう

私 〇私

に書きました
「この禾(い

公 〇公

ね)はこのワ
タクシ(自分

の鼻を指して)のものです」というのが一番上の字であり、「この禾(いね)はワタクシのものである」というしるし(マーク)に〇や△をつけるというのが中の字、下の字で、これが「私」の字の

起りです。「公」という字も、〇や△で(□でもよ

い)この品物(あるまじったもの)を「八」の字で公平に分けるという意味を表わしています。どこまでが絵で、どこからが字か、文字と符号の限界はどこか、だれも正確な断定はできないというのが真相です。私はこれを、約束をする範囲の広狭、通用する社会の大小によって、絵か字か、文字か符号かをきめようと思っっているのです。

以上述べたことは、あとで速記の原理や符号の説明をするときにも引用しますから、覚えておくてください。ここでは漢字を書くスピードの面だけに限定して、他の面にはふれないことにします。話をわかりやすく単純にするために……。

万葉仮名 仮名(〇仮字)とはすなわち「かりな」で、真名(〇真字〇漢字)に対する卑下(やしめ)謙讓(へりくだり)の意にほかならないのです。「万葉集」では国語を表わすために漢字が

假借的に使われています。巻一の最初の雄略天皇の御製を例にとりますと

「籠毛與 美籠母乳 布久思毛與 美夫君
志持 此岳爾 葉採須兒 家吉閑 名告
沙根〔略〕」

とあって、その使われ方は、大体次の三種に分けられるのです。

(一) 義字
正訓 一日、七月ツキ山ヤマ河カハ
義訓 〔白アキ秋金ニシ西〕
〔永世トコシヘ〕往来カヨウ

(二) 音字
正音 阿(ア)伊(イ)譚(ウツン)
三(サン)
略音 則(ソク)吉(キョツ)
全訓 齒(シ)鴨(カモ) 辭(ジ)鴨(カモ)
略訓 足(ソク)跡(アト) 狼(サル)立(タ)テ

(三) 隠語異名
隠語 義之(テシ)手師 十六(シシ)四(シ)猪 山上復有山(ス、イ、ト) 異名 泉郎(アマ)海人(ア) 玄黄(アメツチ)天地

〔岡田正之日本漢文学史〕一五九—一六〇による

カタカナ 「漢字から転化して日本語を写すために用いられる音節文字の一種」(東京堂版「国語教育辞典」)ですが、字形が楷書体で、草書体であるひらがたと区別されます。吉備真備(694~775)の作というのは誤りです。万葉仮名を用いているうちに、その省略体から自然に発達して来たので、ある特定の個人が作り出したものではない、というのが真相でしょう。カタカナとひらがなが分化したのは平安時代以後で、今のような字形に一定したのは、明治三十三年(一九〇〇年)の小学校令で規定して以来のことです。

初期には、例えば保の略字でも「呆早早ロホ小」といろいろあったのです。カタカナの字源を探索して行くと、日本独自の速記観といったようなものが胸の中にフツフツと浮び上ってくるのを覚えます。

今日定説となっているカタカナの字源は、大体

国語をかりごろも(借衣)で包もうと先人がいかに苦心したことか……これにくらべたら、後で述べる速記のあの手この手など、まだまだ「序の口」にも達していないと言わざるを得ません。もちろん、複雑なものがいいとは限りませんが……。なお、絶塔、布本のように、借音借訓を混用する手法も「万葉集」にはいくつも見られます。「目的のためには手段を選ばず」ありとあらゆる手段を講じてくようをこらした祖先の態度を、速記の場合にも失わないようにしましょう。

万葉仮名は、あるときは音で読み、あるときは訓で読むために、一連の文章となって表われた場合、書いた本人以外の者には読めないということが起り得るわけです。現に「万葉集」の歌の中には多くの学者の研究にもかかわらず、いまだに読み解き得ないものが残っているのです。この点速記の符号によく似ています。

次のとおりです。こういう省画法は一種の速記といえます。

- ア(阿) イ(伊) ウ(宇) エ(江) オ(於)
- カ(加) キ(幾) ク(久) ケ(介) コ(己)
- サ(散薩) シ(之) ス(須) セ(世) ソ(曾)
- タ(多) チ(千) ツ(川) テ(天) ト(止)
- ナ(奈) ニ(二) ヌ(奴) ネ(禰) ノ(乃)
- ハ(八) ヒ(比) フ(不) ヘ(部) ホ(保)
- マ(万) ミ(三) ム(牟) メ(女) モ(毛)
- ヤ(也) ユ(由) ヨ(與)
- ラ(良) リ(利) ル(流) レ(礼) ロ(呂)
- ワ(〇) フ(乎の草体) シ(二のな) レ(カ)

カタカナは元来漢文を訓読するために用いられたもので、真仮名(万葉仮名)の省画、すなわち画線を少くして書記運動のスピード化をはかることが成立の原因であり、目的でもあったわけですから、そこでカタカナとひらがなの書写時間を比較して

みましよう。

松本亦太郎博士の実験によると、一四ミリ平方内に書き得る仮名文字を最大の速度で書き得た結果は次のとおりです。ただしその時間を一秒の一〇〇分の一(%)として計算したものです。

縦書き
〔カタカナ 二五二・一・六%〕
ひらがな 二八七五・四%

横書き
〔カタカナ 二四三七・二%〕
ひらがな 二九一一・九%

これによって見ると、仮名四十八字を連続的に書く絶対時間はカタカナの方が短い。すなわち、縦書きの場合は一四・二%、横書きの場合は一六・四%カタカナの方が速い。また、カタカナだけ、ひらがなだけの縦書きと横書きの差を見ると、カタカナは横書きの方が三・四%速く、ひらがなは縦書きの方が一・六%速い。そして両仮名の最も有利な書き方であるカタカナ横書きとひらがな縦

書きを比較すると、カタカナ横書きの方が一五・三%速い。単独に書く場合の実験の結果は、カタカナの方が平均一八・八%速いということになります。

野上俊夫博士の実験によると、一秒の五〇分の一をデルタとしてはかってみると、結果は次のとおりです。(ただし、ローマ字はたとえばEを仮名一字に相当するものとして計算して……)

カタカナ 二〇・〇デルタ
一字平均 ひらがな 二四・二デルタ

ローマ字 三二・五デルタ

すなわちカタカナはひらがなより二一%速く、ローマ字より六二%速い。(佐藤隆一著「書の科学及書の教授」)

武政太郎博士の最近の実験でも、同じ結果が出ています。つまり、日本語を記録するスピードはカタカナが一番速いということです。それで、も

し古代ローマの文字式略記法のように文字を使って速記をするのであれば、カタカナが最も有利であるという結論になります。この結論があとで述べる「短期速習」「速記応用法」の素材符号としては、カタカナが最適という論拠となり、前提となるわけです。

それほど優秀な音節文字を「カタカナ」(この片仮名の「片」は片言のカタと同じで不完全の意味)というのはどうでしょう。漢字の簡略体であるという発生的事実は認めるとしても、みずから不完全体と名の必要はどこにもないでしょう。それどころか、今日の言語学、音声学、文字学の知識から言えば、逆に、カタカナこそ漢字に優るりっぱな表音文字であることをあらためて認識すべきではないでしょうか。そしてカタカナの積極的活用をはかりましょう。

ひらがな カタカナをビットマン式とすれば、

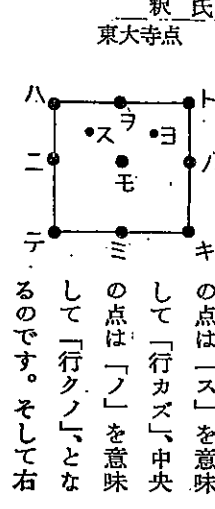
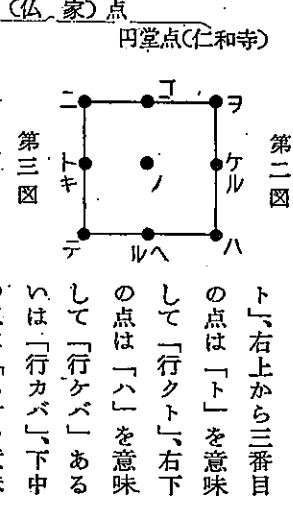
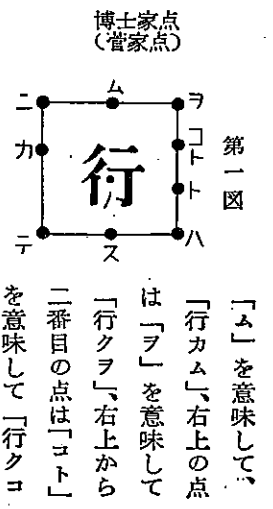
ひらがなはグレッグ式ですね。カタカナが男性の手から生れたのに対して、ひらがなは女性によって育てられたので「女手」といわれています。また真仮名の草化したもの(草体)から生れたので草仮名ともいいます。ひらがなの「平」というのは真仮名(真名)——万葉仮名——漢字)に対して「簡略にしたもの」という意味です。ひらがなは弘法大師(空海)が発明したという説はもろろん誤りで、カタカナと同じく多くの人々によって奈良朝末期から平安朝初期にかけて次第にでき上って行ったものです。仮名を書くときの字体やくずし方の好みなどによって同音でもいろいろなひらがなが用いられたのですが、現在では大体標準を定めて小学校で教えることになったので、いわゆる変体仮名(「ぢ」「よ」など)はあまり用いられなくなりました。

ひらがなの中でも「ひ」「へ」「こ」「か」「け」「の」「

などは、いかにも符号らしい、近代速記法でいう「一音節一画一符号」の理想に近い優秀な文字だといえます。ただ、時計の針と同じ方向に動く運筆は、左横書きの場合、不利なことはカタカナの部で述べたとおりですが、その方向のひらがな十九字のうち「す」の二字が全ひらがな中最も頻度が高いという点が最大の難点になります。

ヲコト点 乎古止点ヲコト止というのは、ある文字に特定の符号的加点をして特殊の読み方をさせ、一般の人には読めないようにして秘密を保とうとしたものです。その方法は、第一図のように、ある文字の四隅とか、上下とか、左右とか、中央とかに加点をする事によって、その字の天爾乎波テニハその他を表わすのです。

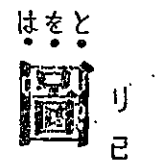
すなわち、左下の点は「テ」を意味して「行キテ」、左中の点は「カ」を意味して「行クカ」、左上の点は「ニ」を意味して「行クニ」、上中の点は



積氏(仏家)点 東大寺点 田堂点(仁和寺) 博士家点(菅家点)

上の「ヲ」と右中の「コト」とを続けて(徳川時代から)ヲコト点と呼ぶようになったのですが、四隅の点をとつてテニハ点ともいったのです。同じテニハ点でも第二図のようなものもあります。第三図のようなのは、左辺三点を下から連呼してテニハ点とよみました。ヲコト点は各家各宗各派でいろいろの違った式があるのですが、大別すると、博士家点(菅原とか清原とか)と釈氏点(仏家—各寺)に分けることができます。このヲコト点の形式を示したものが点図で、「真俗二点集」にかなりたくさん集めてあります。今日伝えられている「点」の種類だけでも三十種以上におよんでいるということですから、実際にはもっと多くのものがあつたわけです。

しまいに、点図がなければ、送り仮名だけ読めても何のことかわからないということになってきたのです。たとえば



上図のように、仮名で「リ」と「己」を書き、点で「と」と「を」と「は」とを示し、これを読むと「はり己とを」となるが、これでは何のことかわからない。それがわかるためには、「は」と「リ」の間に「か」の字を入れて「はかりごとを」と読むので、その「か」の補字を入れるという法則を知らなければ、ただ、点本を見ただけではどうにも読めないということになってきたのです。(この項青木茂作編述「毎日式速記術教範」による)

ここまでくれば、もうりっぱな速記です。もちろん点図はさきに書かれた文字がそこにあって、その文字を土台にして符号を書き込んでいくのですから、純然たる速記ではありませんが、講師の講義を聞きながら記号(調点)を書き込んでいくというその行為は、明らかに速記活動であり、そ

の記音行為に用いられる記号(調点)は、まぎれもなく速記符号であります。つまりこの時代(平安朝)に、古代ローマの速記方式に劣らないものが、すでにわが国ではできていたのです。それが正しく發展すれば大したものですが、後に述べるとように、明治維新の際、一度中断されてしまったことは、まことにおしいことでした。しかし、今のわれわれの速記方式の中には、形をかえてではありませんが、それはいかんなく採り入れられています。たとえばテニヲハを加点で表わすとか、敬語を加点で表現するなどというのは、それを行ってゐる人が意識しているといないにかかわらず、明らかにヲコト点の復活だと見てよいわけです。

ローマ字 ローマ字は、室町末期に、ポルトガル人とともにわが国に伝わって来たものです。江戸時代にはオランダ人によって日本語表記に關係

がもたらされました。今日ではアメリカ、イギリスをはじめとして、西欧諸国との文化の交流に大きな役割をはたしています。そのローマ字を、スピード記録(速記)という観点から見ると、どういうことになるでしょう。

ティロのQPN(一五ページ参照)ではないですが、ブラック・アンド・ホワイトをB&Wと書いたり、株式会社をKKと略したりするのは一種の略記法だといえます。タキグラフィーというのはほとんどそれでした。それと頭字語(MSAとかNHKなど)の問題がありますが、それはいずれあとで本格的に取り上げるとして、ここではもっと素材的な、文字そのもの、日本語を書き表わす手段としてのローマ字を、いかにスピード記録に利用するかということに限定して話を進めます。

毎日新聞(昭和二八・一〇・一朝刊)に、「横

がき仮名文字の研究——読みやすく英仏語よりも便利」と題して、石原忍博士の多年の研究になる「東眼文字」(東大医学部眼科教授時代の提唱)の最新版ともいふべきものが掲載されてきました。それによると、sususunsusと書くかわりにsusと書く、arukuをarkと書けば「簡単で読みやすい」という理念のもとに、別表(一)、(二)のような新文字が考案されたわけです。(後掲四九ページのソクタイプの打ち方と対照すること)

別表の一

オ列	o	(1) 。
イ列	i	(2) ”
ウ列	u	(3) °
エ列	e	(4) †
ア列	a	(5) ×
カ行	ka	(6) ~
キ行	ki	
ク行	ku	
ケ行	ke	
コ行	ko	
サ行	sa	
シ行	shi	
ス行	su	
セ行	se	
ソ行	so	
ナ行	na	
ニ行	ni	
ノ行	no	

別表の二

濁音	ㇿ	ㇾ
半濁音	ㇿ	ㇾ
長音	ㇿ	ㇾ
促音	ㇿ	ㇾ
撥音	ㇿ	ㇾ

濁音は仮名の右肩に①を、鼻濁音は別表の②を、半濁音は③をつけ、長音は仮名の次に④を、促音は⑤を、撥音にはnを入れることとして、拗音は仮名の上に⑥をつけ、その他はローマ字の記号を用いる、という構想です。そして別表三のような運用実例を示した後、「なおこの新仮名が英語やフランス語よりも便利なのは、タイプライターで速記が出来ることである」と付言してあります。もちろん、顔面通りには受取れないにしても、記録のスピード化という点では教えられるところが多いのです。

Wagahai wa neko de aru.
 Wagahai wa neko de aru.
 Wagahai wa neko de aru.

「母音を省略して子音の画線を使う」というのは、近代速記の重要な特色ですが、速記符号の成分——構成要素を考

る場合に、研究すべき余地はまだまだたくさんあるようです。

さて、以上六種の記号(漢字、万葉仮名、カタカナ、ひらがな、平古止点、ロマンズ Romanzi)について歴史的な変遷をたどりながら、速記の原理的立場から、効用を再検討したのですが、日本語記録の速度化は、これとはまったく別の方面から、まるでちがった方法(手段)で推進されることになりました。それがすなわち明治初年の符号式速記法の輸入、翻案であったわけです。これこそ厳密な意味でいう速記の歴史ですから、それ以前の速記的現象とは明らかに一線を画する意味で、文字通り線を一つ入れて次に移ることにしましょう。

田鎖式の発表 明治十五年(一八八二年)田鎖綱紀氏はアメリカのグラハム式(ピットマン系)に基いて日本語速記法を創案し、これを「日本傍ジヤパンネ

聴記録法」と名づけて、時事新報(九月十九日附)一六九号に榎の家元園子という筆名で発表したのです。そして同年十月二十八日に日本橋通二丁目ニの小林という茶亭の楼上で第一回講習会の開講式をあげました。この十月二十八日を「速記の記念日」として、その後毎年日本速記協会では記念会を催しています。

そして十一月一日から六カ月間、神田(午前)と麹町(夜間)の両会場で講習会が開かれたのです。これが日本最初の速記教育であります。その時の十八名の卒業生の中に若林珪蔵氏(後の衆議院速記主任——速記界の最長老)、林茂淳(後の貴族院速記主任——速記界の長老)、酒井昇造(後の衆議院速記者——講談落語速記の功勞者)などがいました。

六カ月たって(翌明治十六年の五月五日に)卒業はしたものの、實力は今日の速記学修者の二、

三カ月目にも劣る程度で、まだ実際に役立つものではなかったということです。それを改良し、くふうして、当時非常に盛んであった政談演説会、學術討論会、仏教、キリスト教の説教などで実地に練習し、約一年の後、どうやら書ける程度にもって行ったのは、発明者田鎖氏自身ではなく、第一回の講習を受けた若林氏、林氏、その他少数の熱心な有志の人々であつたのです。従つて、発明の功は田鎖氏に、実用化の功はその門下生にあると言ふべきでしょう。これらの人、特に若林氏はまた後進の育成にも非常に努力しました。その後日本の速記界では田鎖式またはその系統の方式が主流をなすようになったのも、原因は遠くここにあつたといえるのです。

明治十六年(一八八三年)七月、若林珪蔵氏は「西洋風」の筆記ということから郵便報知新聞に頼まれて、自由新聞に対する記事取消し要求の談

判を一時間あまり速記しました。これが日本で速記が実用に供された最初だといわれています。それがきっかけとなって若林氏は同年十一月から十二月にかけて報知新聞記者矢野文雄(龍溪)氏の「経国美談」(後編)の口述を速記しました(著述速記の初め)。これは翌十七年二月に刊行され、当時のベスト・セラーとして非常に読書人に歓迎されたので、その巻末に「速記法ノ「ラ記ス」として紹介された「西洋速記法(シヨルトハンド)」と「速記法の字体(速記符号)」も、広く一般にその効用を知られ、次第に普及するようになりました。

一方林茂淳氏の方は、明治十七年(一八八四年)一月に外山正一氏の「漢字廢すべき論」を速記して「埼玉教育雑誌」にのせたり、速記入門書を書いたりして宣伝をしながら速記実用化の機運をもり上げて行ったのです。(同氏は後に——明治十九

年八月元老院に書記生として採用され、会議速記に従事したのですが、速記者が官吏として採用された最初の人です。)

明治十七年三月には、若林、酒井両氏が埼玉県の速記に従事しました。これが地方議会速記—会議速記の初めです。

さらに同十七年七月、若林、酒井両氏は出版社の依頼で、当時非常に人気のあった三遊亭円朝の「怪談牡丹燈籠」を人形町末広亭の楽屋で速記しました。これが口演速記のはしりです。この「牡丹燈籠」は読書人の間に大きな評判となり、談話体や口語体でもりっぱな文章が書けるといふ自信を文筆家一般に与えたのです。それが二葉亭四迷の「だ」調、山田美妙齋の「です」調、嵯峨のやおむろの「であります」調、尾崎紅葉の「である」調など、一連の言文一致体小説にある種の影響を及ぼしたことは否めないでしょう。円朝の「牡丹

燈籠」は最近岩波文庫で売り出されましたから、読んでみてくださる。当時の口語が手にとるようにならなくて面白いですよ。

その後、速記は講談落語にも盛んに利用されて「都の花」「百花園」「百千鳥」などの雑誌はもちろんのこと、数百種の単行本が刊行されました。また各新聞にも盛んに講談速記が連載されて、現在の新聞小説の役割を長い間果したものです。内容は低俗であったにしても、文章が庶民に親しみやすいというのが速記物の強味であったわけです。後にはそのコツを覚えた速記者が自分で講談を書くようになりました。その代表的なのが悟道野田玉(村上義三郎)氏、今村次郎氏、大河内翠山氏なとです。

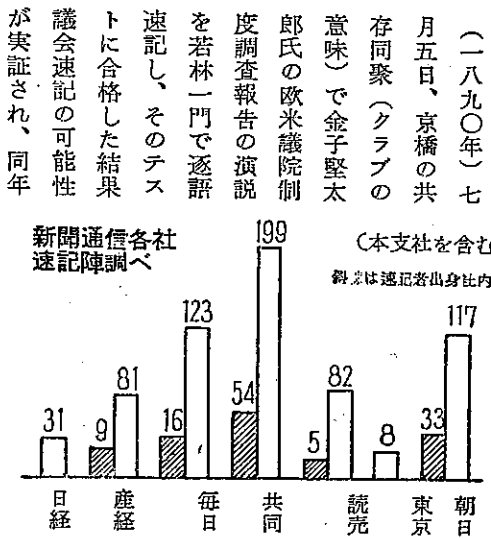
速記は新聞界にも進出し、明治二十年ごろから各社とも競って速記者を雇い入れました。中でも矢野由次郎氏は明治二十八年(一八九五年)に時

事新報社に入り、福沢諭吉氏の「福翁自伝」を速

記したので有名です。同氏はまた明治三十二年(一八九九年)二月、東京大阪間に開通した長距離電話の速記をしました。これが電話速記の草分けです。以後電話速記によってニュースの速度と分量が著しく増加し、明治三十八年(一九〇五年)ごろには、日露戦争の影響もあって、中央紙はもちろん、地方各紙もほとんど全部電話速記を用いるようになりました。記録によると、明治四十五年(一九一二年)当時の電話速記者の数は、五八社で一一四名、大正時代(一九一二—一九二六年)に予約電話制度が実施されてから、第一次欧州大戦を経て急激に増加し、昭和九年(一九三四年)の調査では、九〇社五二五名となっています。最近ではおそらくその倍近くになっているでしょう。中央各紙の主なものだけでも次のとおりです。

〔日本の速記〕誌昭和三十年二月調査)

明治二十三年



全員田鎖式、うち若林氏の門弟が十八名もいたの

ですから、その勢力は推して知るべきでしょう。これによって速記の実用価値が社会一般に認められたわけです。以来今日まで六十五年、一回の欠けることもなく国会議事速記録が揃っているという事は、世界に誇っている事実で、わが國の憲政發達の上にこれが大きな力となったこともまた疑いがないと思います。田鎖綱紀氏はその功によって明治二十七年十二月二十四日藍綬褒章を下賜され、同二十九年五月十三日には、一民間人としては前後にその例のない、年金三〇〇〇円（今日の金に換算して約二十五万円）を終身下賜されるといふ破格の榮譽を受けたのであります。

速記方式としては、当時田鎖式とその系統の改良派以外に実用に供せられたものはなかったのです。ところが明治三十二年（一八九九年）に英人ガントレット (Edward Gaunter) 氏がピントマン式を日本語に適用した新方式「新式日本語速

記術」を發表して注目されました。この式の「オ列」の符号を「ア列」の二倍に書くという着想は、その後の方式に影響を及ぼしています。同式はその高弟森上富夫氏（元衆議院速記者）によって実用化され、現在でもその系統の人によって受け継がれています。あまり普及はしませんでした。

つづいて明治三十八年（一九〇五年）には武田千代三郎氏によって日本最初の単画派方式が發表されました。この方式は実用化されずに終わったのですが、方式理論としては「五十音（二音節）はすべて一線一画に書き表わす」という単画符号の構想を最初に發表したものととして不朽の価値があります。これに対して田鎖式系統は、五十音符号のうち二画以上のものがたくさんあるので複画派と呼ばれるようになりました。ガントレット式と次に表われる熊崎式は折衷派といわれています。

明治三十九年（一九〇六年）には熊崎健一郎氏

によって熊崎式が創案されました。熊崎氏は、熊崎氏が田鎖式で速記実務をやりながらガントレット式的要素を採り入れたもので、熊崎氏自身が時事新報で電話速記に従事していた關係上、新聞通信社方面で広く用いられました。現在もその流派の人に使われています。

次に特筆すべき方式は、大正三年（一九一四年）に發表された中根式（創案者中根正親氏、後継者令弟正世氏）です。同式は熊崎武田両式を折衷した単画方式で、十数年の苦心經營の後、実用化に成功したものです。昭和五年、東京の九段下に中根速記学校が開設され、今年二十五周年の記念式典があるようです。中根式は今日最も勢力のある四大方式の一つで、高等学校方面にクラブ活動の速記方式として普及しています。優秀な実務者もたくさん出ている方式ですから信用していいのですが、入門課程（符号の手ほどき）が終って速

度練習に入るときには、速記実務のできる先輩の經驗談をよく聞いて、できればその人に直接指導をしてもらうと成功の確率はなお高くなるでしょう。一般普及用の速記方式としては一応完成したのですから、こゝらで専門速記者用の高速度速記理論も整備してもらいたいのだと思います。そのためには、森案、石村案などの構想も、もっと大胆に採り入れてみたらどうでしょうか。

大正八年（一九一九年）六月に完成、發表された毛利式は、毛利高範氏が、明治三十二年（一八九九年）「日本短記法」以来、苦心研究の結果、やとつくり上げた方式で、単画派が線の量的減少を追求したのに対して、線の書きやすさを求めて別派を構成したものです。大正九年（一九一〇年）七月には「毛利式日本速記法」が出版されました。この式はドイツのファウルマン式を襲案したもので、日本では例の少い斜線派（草書派）の代表で

す。終戦直後東京裁判で問題になって、その後出版された「原田日記」は、近衛泰子さん（毛利氏次女）が速記したものであることは、有名な話ですから御記憶の方もありません。実用化はされましたが、現在参議院に一人婦人速記者が活躍している以外、あまり高速度の実務家を見かけないのはおしいことです。実用化までに二十年もかかったのは、創案者を助けるよき協力者が得られなかったためでしょう。この式は運用法則としては相当進んだ見るべき研究があるのですが、素材的な五十音符号が複雑で、線量の多いのが欠点です。

大正七年（一九一八年）五月に「議事速記に従事せしむべき速記者の養成を目的」として貴衆両院の速記課にそれぞれ速記練習生の制度が設けられ、両院の速記士及び速記技手が教官となって集団的、組織的な速記教育が始められました。現在

うです。牧式は今でも通信講義録が出ているようです。

通信教育で有名なのは早稻田式（W式）です。川口渉氏（当時早稻田大学在学中）は昭和五年（一九三〇年）三月早稻田式速記法を発表し、翌六年から速記普及会を設けて通信教授を行い、昭和十年（一九三五年）以来早稻田式速記講義録（全九巻）を発行しています。最近では早稻田式速記士養成所もでき、直接教授も行われています。W式は複画派で「熊崎式の現代版」と評してもいいほど両式の間には類似点がたくさんあります。この式は現代最も有力な四大方式の一つです。通信教育で勉強する人は、各地にできている同志会や支部に連絡をつけて、お互に共同練習をしてはげまし合いながら、先輩の実地指導を受けることが大切です。ことに学歴のない独学の人は、符号の練習と同時に、一般教養（ことに国語と英語）の力

の衆議院速記者養成所と参議院速記者養成所はその発展したものです。当時両院の速記課で活躍していた現業の速記者は、大部分が田鎖式系統のものでしたから、両院の速記練習生に教えられる符号も田鎖式（複画派）になったのは当然でしょう。

昭和二年（一九二七年）には大阪の牧泰之輔氏によって牧式（新熊崎式ともいう）が発表され、同六年（一九三一年）には、京都の森卓明氏によって超中根式が発表されました。国字常弘氏（古久保峯吉氏）の国字式が発表されたのも同じ年でした。国字氏は現在広島で寿光式と称する別の新式を発表したようです。国字式は中根式同様単画派ですが、五十音の清音に濃線と加点をやめたのと、キクイッチの尾音を順記にした点などが中根式とちがっています。超中根式も国字式も通信講義録が出されていましたが、現在では中絶したよ

を高めることに努力してください。

昭和十年（一九三五年）には松崎平策氏（元衆議院速記者）の松崎式も発表されました。昭和十八年（一九四三年）に発表された青木茂作氏の毎日（新聞）式はこの松崎式の改良派とでもいうべきものです。いずれも新聞社の電話速記向きに考案されています。

まったく系統のちがった方式では、アメリカのグレッジ式を翻案して日本語に適用した酒井伍作氏の酒井式（昭和八年）（単画派）と宅間清太郎氏のタクマ式（昭和十年）（複画派）とがありますがどちらもまだ高速度の専門速記者が出るどころまでは行っていないようです。日本に珍しい楢円派の実例として、理論的には一見の価値があります。が、実用化するまでには、まだまだ相当の苦心と努力がいるでしょう。

かな速記（文字派）としては、日下部忠次氏の

「写言術」(明治四十三年—一九一〇年)、桜井郷三氏の「片仮名早書法」(大正十一年—一九二二年)、菅原長太郎氏の「速記術応用学生筆記法」(昭和四年)、岩村学氏の「岩村式カナ早書法」(昭和五年)と「岩村式カナ速記法」(昭和七年)、黒川薫氏の「實用カナモジ速記」(昭和十四年)、乙部泉三郎氏(長野)の「泉式ひらがな速記術」(昭和十六年)——これはひらがなの画線の一部をとった符号でかな文字ではない——伊藤勝治氏(名古屋)のイトウ式速記法(昭和二十五年)などがあります。もちろん、専門速記者(職業的高速度逐語速記者)の方式だけが速記法ではないうので、一般の筆記に利用して能率をあげる程度の速記法も確かにあっていいわけです。ただ、それには一定の限界(普通文字を書く速さの二倍—四倍)があることだけはハッキリ知っておく必要があります。高速度用の複雑な理論を覚える煩を省いて、既に親しみの

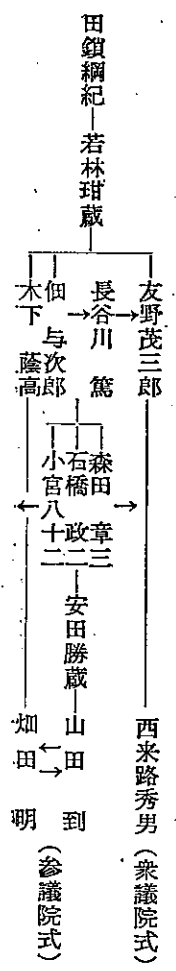
ある仮名を素材符号として用いることは、確かに一つの思いつきであり、それはそれとしてりっぱに存在の理由があるわけですが、それをただくり返して数多く練習しさえすれば、高速度(普通文字を書く速さの五倍—九倍)、超高速度(同十倍以上)の速記もできるかのごとく説くところにウソがあるのです。前にも述べたように「高速度の速記は符号式でなければできない」ということは厳然たる事実です。そんなごまかしをしなくても、文字式には文字式としてのいいところがあり、大衆への普及という大きな使命があるはずですが、教える人も、習う人も、この点をハッキリ認識することによって、現在くり返されている大きなムダと不幸の大部分をのぞくことができるでしょう。人を教える立場にある人は、技術的にも、道徳的にも良心だけはなくしたくないものです。(速記の記号を「文字」というか「符号」というかは異論のあ

る点ですが、この場合は、わかりやすくするために、普通の「文字」以外のはすべて「符号」として考えておきます。(かな速記で高速度の逐語速記(職業的専門速記)ができるものだと思っ、悩んでいる初心の人たちから、速度の伸びないわけを聞かれ、対策を相談されるたびに、義憤を感じざるを得ないので、あえて一言つけ加えておきます。(62ページの速記技術検定試験参照)

現在最も勢力のある四大方式の他の二つ——衆議院(速記者養成所)式と参議院(速記者養成所)式とは、もと田鎖式という同根から出て、同じ流派の人たちによって育成されて来たので、非常に似たところもあり、イトコ同士といってもいい

らしいものでしたが、復画派から出発した両式が単画化を完了するころ(衆議院式は一九三九年、参議院式は一九四七年)には、相互に相当異色のものになったわけです。両式の符号系統を図で示すと左表のとおりです。

昭和十九年、戦争の影響で国会では男の速記者がだんだん不足して来たので、両院とも婦人速記者でこれを補うことになり、衆議院は四月に二名貴族院(参議院の前身)は十二月に五名婦人速記者を採用しました。これで国会開設以来はじめて婦人速記者が議場に姿をあらわすことになったのです。同時に両院の養成所にも女生徒の入所を許すことになりました。現在では衆議院の方が約一



五%、参議院では約四〇%が女性の速記者になっています。それで参議院速記者養成所では女生徒の募集を昭和二十八年以来打切っています。

終戦後（昭和二十二年）両院とも速記者養成所が速記課から独立して記録部の直属機関となり、専任の教授数名によって大量養成が始められました。従来、寺子屋式教育とはまったくやり方が違った学校制度による速記教育が組織的に行われることになったわけです。

これより先、昭和二十一年には米田好兼氏（京都）の米田式が発表されました。これは熊崎系の方式です。また昭和二十五年には田鎖一氏（綱紀氏長男）によって六十七年式（最新田鎖式日本速記法詳解）が発表されました。これを旧田鎖式に対して新田鎖式と呼びます。つづいて同二十六年には山根祐之氏（大阪）の山根式が発表されました。これは国字式系統の方式です。中根式福岡支

部長であった石村善左氏は、種々の観点から中根式を改良し、昭和二十四年に「中根式二十四年式」を発表、五十音表に有鉤線を採用して濃線を廃し、助詞法、インツクキ法その他を实地の経験に基づいて改良したのですが、その後勢いのおもむくところついに石村式へ発展し、昭和二十五年以来石村式福岡速記研究所を設立して直接教授を始め、講義録も出しているようです。

速記関係の機械としては、戦後録音機の発達がめざましく、昭和二十四年には衆議院速記課で復演速記用に日本電氣製のワイヤレコーダーを試用し（現在廃止）、同二十五年には衆議院速記者養成所でアメリカからテープレコーダー（サウンド・ミラー）三台を輸入しました。翌二十六年には参議院速記課で最多忙時の速記の補助として東通工の大型テープレコーダーを使用することになりました。また同三十年、第二十二国会から衆議院速

記課では、特定委員会の難聴時の速記補助に東通工携帯用テープレコーダーを使用しています。録音機は音声を録音し再生するだけで、文字化することはできませんから、速記者の代用にはならな

Sのです。
新聞通信社方面では、昭和二十二年ごろからヘル・シュライバー（テープ式文字電送機）が電話速記と併用されるようになりましたが、そのため速記者がいらなくなったという所はまだどこにもありません。

最高裁判所では、新たに多数の専属速記者が必要になって、急いで大量養成をするため、昭和二十七年に速記官養成所を設け、かねて研究中のソクタイプ（印字式速記方式）による法廷速記が行われることになりました。これはアメリカのアイランドのステノタイプ方式を日本語に翻案適用したもので、昭和十九年に川上晃氏が考案して特

許を得たものです。「ステノタイプ」という名称がすでに登録されていて使えないので「ソクタイプ」ということになったのだそうです。その全貌は、川上晃・佐伯功介両氏共著の「日本ステノタイプ」（日本語速記機械打ち方と読み方）にくわしく説明してあります。それによると

「ステノタイプは小さなタイプライターで、打つ場合音はしない。ボタンは二十二あり、文字はローマ字で出る。記録される紙は細長く、機械の下に入れておき、ボタンを打つと自動的に送り出され、字が写ると折りたたまれて箱の中におさまる。ボタンは両手十本の指でピアノのキーを打つように、幾つでも必要なだけ打てるから、どんな速い話でも速記出来る。また速記したものは誰にでも楽に読める。」

と紹介して、四十九頁のような例が示してあります。

ソクタイプ

★下のノートは、ソクタイプで速記したものである。(左から右へ行かず縦に読む。)

Y O I
H O N
K A K O
Y A K O O
H K

★読み方は、上から良い本木を焼く顔を拭く

＜ボタンの並び＞



★一つの単語が一打ち：ソクタイプでは、一語を一打ちにする。例えば「顔」という語を速記するにはK, A, O三つのボタンを一度に打つ。すると紙の上にはKAOと表われる。ボタンから指をはなせば、紙は自動的に送られる。

緩速度、低速度の場合は正にそのとおりでしょう。高速度(十分間三二〇〇字前後)の場合果してどうか、まだ現実になれども打てるということになるまで行っていないようですから、超高速度(十分間三五〇〇〜三七〇〇字)になってもだれにでも読めるかどうか、具体的に目の前で実証してもらわないことには(専門技術者として)何とも言えません。しかし、アメリカの例もあることです。そこから、やがては、長年にわたる非常な努力の結果、そこに至り得るであろうことは信じられます。手書きの速記では七十数年の累積された経験によって既にそこまで来ているのですから……。ただ、ソクタイプの宣伝に熱中するのあまり、手書き速記がいらなくなってしまおうとか、半年で完成するとか、東京裁判にアメリカの手書き速記者はいなかったとか言われることは、世界の速記界の実情を知る者から見ると、あまりにヤマ気が多過ぎる

ようで、納得がいきかねます。もっと事実を事実として語っても、ソクタイプの長所もあれば、存在理由もちゃんとあるのです。宣伝の場合も(新興勢力は既成勢力を否定したがるのかもしれないませんが)「いまし「おとな」になって説明してもらいたいものです。それでないと常識を疑いたくなりません。われわれはソクタイプの現在の實力も、その有用性も、何もかも知りつくした上で、その速記方式の一つであることを認めているのです。ただ最高裁の場合はバックが大きいというだけです。そのために手書き速記がなくなりもしなければ、一台三万五千円もする機械をだれもかれもがポンポンと買えるとも思いません。また機械が自動的に速記してくれるわけではないのですから、自分で記号(暗号のようなもの)を暗記して機械を操作しその打った記号を自分の知識に正比例して反訳(文字化)する過程が、だれにでもそう簡単にす

ぐできるものとは思えないのです。実体を過大評価しても過小評価してもいけません。お互いに刺戟し、影響し合いながら、今後ますます発展していこうではありませんか。そしてアメリカの速記界がそうであるように、手書き速記者と機械速記者とが一堂に会して、最高の速記技術を公開の席上でフェアに相競争う日が一日も速く来ることを切望してやみません。われわれ手書き速記者には、受けて立つ用意はいつでもできています。ソクタイプの成長を祈り、今後を期待します。

要約 以上述べ来たことは、単なる歴史の羅列ではなく、西洋と日本、大きく言えば古今東西の速記に関するあらゆる方法、考え方を、先人の遺産として受け継ぎ、それを足場として、これからの速記方式を、ヨリ合理的に、ヨリ進歩的に発展させていきたいと思います。その材料を整備す

の意味で、一通り吟味してみたわけです。これだけのものをよりどころとして、これからどういうものができ上がるか、皆さんとともに次の章で考えることにしましょう。

その前に、速記の歴史で取り上げた日本語速記方式の系統一覧図(次ページ)と各式素音符号比較一覧表を巻末に折込みで参考に掲げておきますから、比較対照して研究してみてください。

【参 考 書】

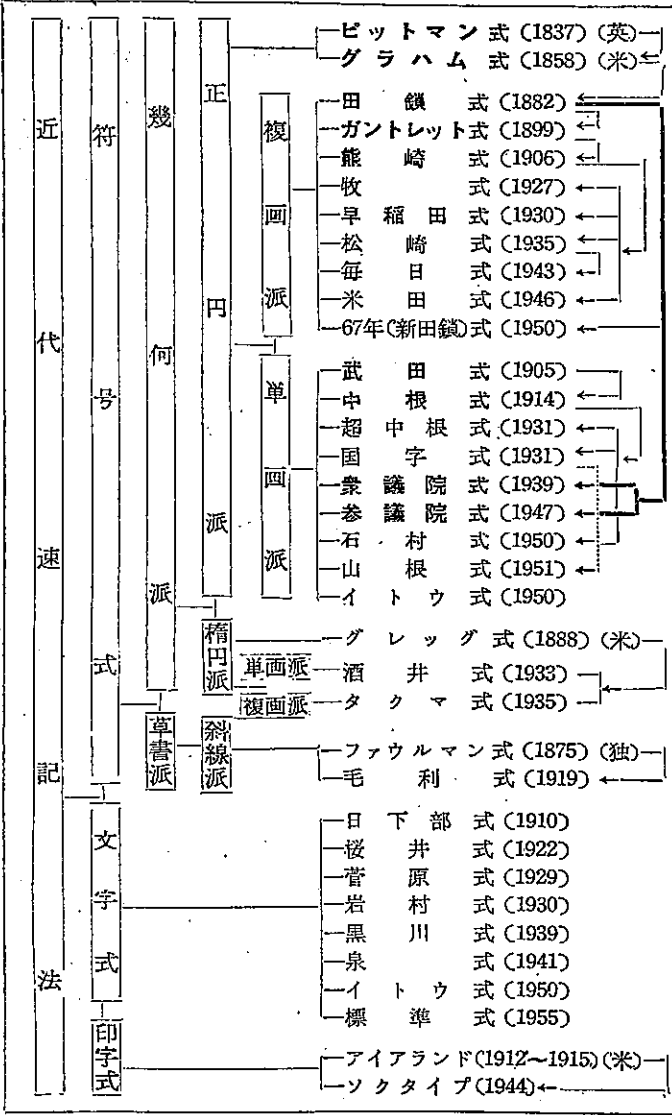
- (1) 浅川 隼編「日本語速記五十年史」(日本語速記協会刊)
 - (2) 武部良明著「日本語速記方式発達史」(日本書房刊)
 - (3) 武部良明著「国語速記史大要」(上)(下)
(日本語速記協会刊)
 - (4) 三角治助編「日本語速記年表」(日本語速記協会刊)
- (1)(2)は絶版、(3)は(上)一五〇円、(下)一五〇円、(4)は二五〇円

4・速記の利用面

個人的に――速記という技術をどういうことに利用できるか、また社会的には――現在どういう方面で速記が使われているか、前の「速記の歴史」でもちょっとふれておきましたが、ここでもう少しくわしく説明しましょう。

個人型の速記 速記の利用面は大きく別けて、三つあると言えます。一つは私用のメモや講義のノートなどに速記を利用して能率をあげようとするもの、速度でいえば分速一五〇〜一六〇字、普通文字を書く三〜四倍の速さ、この程度なら、カタカナを使って、あとで述べる運用法則を適用すれば、数週間の学習で十分その目的を達し得ると思います。「速記は習いたいのが、あのミミズののたかったような符号をおぼえるのがめんどうくさう」

日本語速記方式系統一覧図 (太字各式の符号は折込の表参照)



という人には、「ぜひ文字速記をおやりなさい」とおすすめます。従来の日本ではこの方面が非常に欠けていました。ことに文字を書く機会の多い学生諸君が、速記の初歩を知らないために、無用に苦しんでいるありさまは見るにしのびません。ホンのちょっと時間をさして、この本の七二ページ以下を読んでいただければ、すぐ役に立つ速記のあの手この手が、あます所なく公開されています。何式、かに式でなく、その場ですぐ応用ができますから、ためしてみてください。この程度の速記の応用をアメリカでは個人型 (Personal style) の速記といっています。日本でも今後大いに普及させねばならないのはこの面の速記で、これを意識すれば「一般大衆の速記」とでも言いましょうか。この「速記入門」を書いた大部分の目的も、実はここにあるわけです。「速記はやさしい」というのは、この面——速記の応用とどうことをい

タイプストといっています。口述の契約、手紙、命令、伝言、文書の起草などに使われています。普通の文字を書く速さの五〜六倍から七〜八倍ぐらいの速さで、ゆっくりした話は速記できますが、速度の制限のない会議や座談会の速記はできません。欧米ではこの程度の速記が非常に普及していますが、日本ではほとんど使われていません。人を使う費用が高ければ、少数の人で能率の高い仕事をするようにくふうされるのでしようが、日本の現状では、人はいくらでもあまっていて安く使えるせいか、急ぎの仕事は人数をふやすことによって間に合わせるといふ傾向があるので、欧米流のステノグラファー(口述級速記者)の需要はまったくないといつてもいい状態です。このステノグラファー (Stenographer) をただ「速記者」と訳するために、どんな速い話でも速記できるのかと思つて、アメリカのステノグなみの

つたので、これはだれにでも、すぐできます。

事務型の速記 もう一つの利用面は、事務型 (Business style) の速記、すなわちビジネス・マン、秘書、タイプスト、医者、著作家、ジャーナリストなど、職業的専門家の文書事務——字書き作業を手早く終らせ速度化するもので、大体十カ月ないし一年あまりの学習によって二五〇〜二六〇字の分速で速記ができるようになります。延べ時間にして最低四〇〇時間の練習が必要です。この程度ならどんな方式でも書けるようになります。いわゆるセミ・プロといったところですね。話す方の人が、こちらの手もとを見ながら、かげんをして間に合うようにしゃべってくれば、相当速さのある話も、苦勞せずに要旨が書き取れます。この程度の速記を職業にしてタイプストをかねているものを、アメリカではステノグ (Stenographer) の略) といい、イギリスではステノ

給料で雇った低速度速記者に、会議(株主総会や委員会など)でも、講演でも、座談でも、何でも速記させようとするところに無理があるのです。そういう高速度の速記は、ほんどうの専門速記者でなければできません。

記録型の速記 もう一つは、専門速記者(くわしく言えば Shorthand Reporter) 用の速記で、アメリカではこれを記録型 (Reporting style) の速記と言っています。これは最高速度(分速三六〇〜四〇〇字)の速記ですから、だれでも、どの式でも、簡単にできるといふものではありません。ことに前に説明した文字式速記法では一分間三六〇〇字の速記は絶対にできません。速記の符号は、一度おぼえこんでしまうと、途中で他の方式のおぼえなおすことは非常に困難ですから初めに選ぶときによほど気をつけてかからないと、あとでくやんでも追いつかないことになりま

す。話す人は、書き取る方にはおかまいなしにしゃべりますから、会議、講演、座談、裁判などの逐語速記はすべて記録型の速記だと言えます。この型の高速度速記に熟達するには、毎日数時間休まず練習して、二年ないし三年はどうしてもかかりません。衆議院速記者養成所では、修業年限二年半で一〇分間三六〇〇字を一応の目標にして専門的な訓練を実施していますが、入所してから卒業するまでに二五〇回以上の技術試験（練習テスト）があるというだけでもその猛訓練ぶりはおよそ察しがつくでしょう。

では、どんな方面で専門的な職業速記が利用されているか、その主なものを紹介しましょう。

国会の速記 国会の速記者のシャープ・ペンシルにも御時勢はいちじるしく反映する。日華事変のころから国粋調がハバを利かし、古事記、日本書紀、神皇正統記の字や、イフツレメ漫法子、カイカイイ快々的、マンマン漫々

多くなって、早口でブチまくる「徳球型」が主流これに方言が加わると速記者泣かせとなる。その随一はもと大阪三区から出ていた共産党の横田甚太郎氏「ホンならナンボやでエ」にくたらしい池田ちゅう大臣呼んでくれへんか」全編この調子の演説に参ったそうだ。目下の難物は分自党の北吟吉氏。// ページの抜けた百科辞典 // と称され、一席ぶてば、用語は英仏露独、引例は古今東西に及び、諫議大夫、御史大夫の難語のつぎに、クリーグス・ミニスターだの、ライヒス・ウエヤーだのが飛出す。速記者目を白黒。

さて、国会二百六十人の速記者のうち百七十人が二十代、若い連中が圧倒的なワケ：政治のルツボの中で面白いだろうと聞くと、まだ新米君のひとり「海外視察議員サンの演説など、盛んに英語が入って、間違えまいと一生懸命です。納豆（NATO）伊香保（I K A O）死ぬ物資（S I M 物

的と大陸語。太平洋戦争からは枢軸各国やら南方の地名、だんだん見敵必殺、一億玉碎と悲壮になり、マックアーサー元帥進駐後は、もっとも速記に多く使われた字は「民主主義」と「平和」のうたい文句。G H Q の各セクション、人名やアチャラ語でヒト苦勞、それがまた復古調をとりもどし詔勅集、御製、四書五経が現われて来た。しかもそれが舶来語とチャンボン。一例をあげると、第十六国会で某議員の演説「周礼の考え方の中に三刺、三宥、三赦の法という考え方があります。これは四書五経の特に四書までの段階であります。これが、これをデイスカッションいたしますと……」テナ具合。

この間、国会の雄弁術も大いに変わった。永井柳太郎氏、鶴見祐輔氏華やかなころ、対句を使用して文案を練りに練り、声に抑揚をつけた美文調は、速記にはラクだったが、いまや労働組合出身者が

資）コンナ速記をしたら大変です。聞いて楽しむなどマダマダ：「国会の速記はホネらしい。市井の無頼漢」を「イチイのムライカン」と読んだり「フリゲート艦の貸方」を「タイホウ」とやったりするクオイカ予算式議員さんもアトをたためそうだから。（昭28・11・7朝日新聞夕刊「青い実」）

新聞・通信・放送関係の速記 現代の新聞では「速記なしには紙面が埋まらない」といわれるくらい速記の利用度は高いのです。予約電話、専用電話線で各地から送られて来る記事（ニュース）を電話口で速記するので俗に電話速記といわれています。社によって、連絡部、通信部、地方部と名前がちがっても、やる仕事の内容は大体同じで、地方版、座談会、訪問、国会取材、国際電話等、すべて速記者の活動分野です。洞爺丸、紫雲丸などの事件が起れば、その経過や死傷者の氏名などは全部電話によって連絡部で速記されるわけで

す。引揚者の場合もそうです。その他天気予報、株式、乾蘭、生糸、織物、魚、肉、野菜、穀物、ムムなどの相場ものだけで二十何種類かあります。その他、スポーツもの（団体とか、野球、相撲、拳闘、競馬等）等、速記は報道関係の最先端であり「耳」と「手」であるともいえます。

著述速記 雑誌の座談会が速記で書かれたものであることは、だれでも知っているでしょうが、最近では著書にも速記が利用されています。その消息を読書新聞は次のように伝えています。

口述にも得手不得手があるが、多数の聴衆に向って高い所から語る講演と違って、速記者一人を前にして述べてゆくのは気分もラクだろうし、構想のノートができていれば、次々に浮かぶ考えと速記の筆の運びがうまくマッチして進行もスムーズにゆくだろう。

最近ある出版社から聞いた話だが、ある経済学

者に日本経済論を依頼、この人は国会議員という多忙な職務にある人でもあり、普通にいっても半年はかかる著述を、口述速記により一回約二時間延べ十七時間で終え、それに手を加えてもらって出したという。

読者の評判も、分り易くていいという声が多く、このテスト・ケースの成功によって、今後でも「口述著書」を企画してゆきたいと抱負を語っていた。その本の場合、速記料は初版の印税から差引く契約で、七百余枚の原稿を五百枚に削ったロスが出たが、思ったほどコストも高くつかないというし、労力も節せられ、第一多忙で書下ろし執筆の余裕が少い人などにとってこいのやり方だろう。（昭29・3・29日本読書新聞「有題無題」）

福沢諭吉の「福翁自伝」とか、東京裁判で有名になった「原田日記」が速記によって出来上ったことは前にお話しましたが、外国でも、ドストエ

フスキイの「罪と罰」から「カラマーゾフの兄弟」にいたる諸作品は、アンナ・グリエウナ夫人の速記したものであることは有名な話です。またアプトン・シンクレアの一時間二〇〇〇字という驚異的創作も、速記者の協力があればこそできるので、H・G・ウェルズなどは、邸内のいたる所（廊下から便所にいたるまで）に数名の速記者を待機させておいて、想の浮ぶに従っていろいろなテーマをその場で口述し、あとでそれをもとにしてあれだけの大量の著述をなしたとげたといいことです。この方面での速記の利用は今後ますます多くなっていくものと予想されます。

5・速記者の数と団体

現在、日本全国にはどのくらい速記者（職業的専門家）がいるか、ハッキリした数はつかめないので、昭和二十八年十月二十八日に、速記

発表七十周年記念として出版された「日本速記者名鑑」（日本速記協会刊）によると、次のようになっています。

職域別速記者数	男	女
衆議院	一三三	(一四四) 二九
参議院	三三	(七) 五〇
府県議会	九	(三) 一八
市議会	二四	(一九) 四
新聞通信社	七五	(七六) 五〇
その他	三三	(一六) 一五
合計	一五六	(二二七) 二四九

居住地域別速記者数

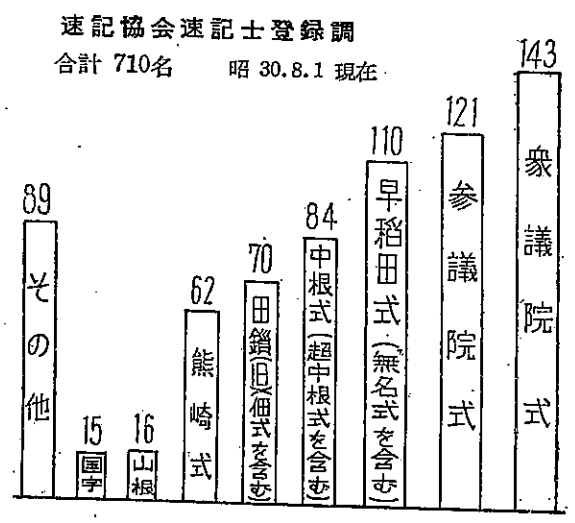
東京	四五四	千葉	三九
大阪	一一八	埼玉	三七
福岡	一一〇	兵庫	三六
北海道	一〇三	広島	三一
愛知	七一	長崎	二八

神奈川 五五 静岡 二七
 京都 四九 宮城 二六
 (その他 三八二) 合計 一五六六名

調査もれとその後の増加を見込んで、全国で大体二千名ぐらいのものでしよう。八千八百万人に対して二千人といえば、四万四千人に一人ですから、職種としてはまことに人数の少い部類に属するわけです。同じ速記協会の調査で、昭和十四年十一月現在で一二五六名、同じく昭和八年十月現在で八八一名ですから、増加率は相当高くても絶対数は大して多くないといえます。

わが国唯一の速記者の全国的統一団体である日本速記協会(東京都千代田区永田町参議院内)の速記士証をもらって登録されたものは、各式別に分類すると、大体次のようになっていきます。

もちろん、これは協会の資料によったので、私見は少しも加わっていないものであることを念の



ために申し添えておきます。具体的な個人の名前も、勤務先も、住所も、全部わかっています。

ただ、速記を職業として生活していながら、速記協会には加入していないという人も相当数あり

ますから、その差が前の速記者数との開きとなつてあらわれているわけです。これが次に述べる速記技術検定試験の合格者数と正比例していることも注意していただきたい点です。アメリカでは、五千人ないし六千人の職業速記者のうち全国速記者協会(NSRA)の会員は約二千人ということですから、率においてはほぼ同じだといえます。

6. この方式がよいか

これから速記を習おうとする場合、一番迷うのは、どの式にしたらよいかということでしょう。それは、その人の目的、資格条件(学力、経済力、年齢、居住地)等にもよるので、一概には言えません。大体次のような「選択の基準」はだれにも当てはまるのではないのでしょうか。

- (1) 国会にその式の速記者がいるか。
- (2) 新聞、通信社にその式の速記者がいるか。

- (3) その式に速記技術検定試験合格者がいるか
- (4) その式の実務者(専門速記者)の数は?
- (5) その式を習った人の評判は?
- (6) 自分の習う目的と条件に合っているか。

以下、この順に説明をしていきますから、皆さんも自分で実際について確かめてみてください。

(1) 国会の速記者が速記技術の最高水準を示すものであることは、何もわが国に限ったことではありません。アメリカでも、イギリスでも、フランスでも、議会制度の発達した国ではみなそうです。それは速記というものが言論の自由な時と所に栄えるものだからです。一國の政治経済、法律社会、文化等、あらゆるものが反映する言論の府では、無制限に最高度の速記技術が要求されます。従ってそこには自然に優秀な速記者が集ってくるわけです。もちろん、優秀な速記者は国会以外にもたくさんいますが、全体としてのレベルを問題

にすれば、やはり永年の伝統があるだけに、一応
国会をマークするのは当然でしょう。だからこそ
各式とも、国会の速記者採用試験に合格者を出す
ことが、その方式の実用性、有用性を示すものと
して、懸命の努力をするわけです。個人としても
速記を習うからには、一度は国会のヒノキ舞台を
ふんでみたいと望むのもムリはないのです。ただ
実際は、衆参両院とも大部分はその速記者養成所
の出身者（衆議院の場合は速記者一三名中一一
三名が衆議院）ですが、旧田鎖式、熊崎式、中根
式、早稻田式、国字式、ガントレット式、毛利式
なども、少数ながら現にその方式の人が速記士と
して国会で活躍しています。ここでもちょっと注意
しておきたいことは、その方式の宣伝のとおり、
はたしてその式の人が国会に現にいろかどうか、
具体的な氏名を確かめるまでは信用ができないほ
どカラ宣伝をするものが多いというのも事実で

外には公的に技術水準を証明するものは何もなか
ったのですが、以後だんだんその真価が知られて
きて、最初は年一回（十月）東京だけでやったの
が、昭和十四年からは大阪でも毎年（五月）やる
ようになりました。また、初め（一回～一回）
は認定試験（二五〇〇字のデアル体と二八〇〇字
のデアリマス体）だけであったのが、技術の向上
につれて昭和十七年の十月（東京試験）から高度
試験（三〇〇〇～三二〇〇字）も始まり、さらに
学習者の増加とともに昭和二十四年九月の東京試験
（第二一回）からA級（三二〇〇字）、B級（二九
〇〇字）、C級（二六〇〇字）とクラス別けも整備
され、試験地も東京大阪のほかに、名古屋、福岡
京都、高松、仙台、広島、鹿児島、長野、富山、
神戸と全国に広がってきました。今日ではABC
検定のほかに、甲（三三〇〇字）、乙（二二〇〇字）
（丙一七〇〇字）、丁（一五〇〇字）の初心者向き

す。だから、だまされないうためには、印刷局から
発行している「職員録」などでその氏名の在否を
調べた上、念のため両院の事務局に照会してみる
くらいの慎重が必要ですよ。「十五字式……」な
どのような悪質な広告にひっかからないためにも
この点特に気をつけてください。

(2) 東京、大阪の有名な新聞社や都道府県庁の所
在地にある有力な新聞社には、たいてい何人かの
速記者がいるはずですから、その人を知らなくて
も、編集局に速記者を訪ねて、個人的に相談する
のも一つの方法でしょう。その便のない人は、こ
の続きの(3)以下をよく読んで自分で、判断をして
ください。

(3) 昭和十一年の十月から、各式合同の日本速記
協会が速記技術の検定試験を行うことになりました。
それまでは、貴衆両院の速記者採用試験に合
格することが唯一のウデだめしの機会、それ以

の奨励試験も同時に行われ、受験者も、東京では
一回に三〇〇名を越す盛況です。この検定試験は
大体衆参両院の速記録を、午前一回、午後一回、
十分間ずつ朗読し、それを符号で速記したものを
後にA級は二時間十分、B級は二時間以内に普通
文字に書き直して提出し、その答案のミステーク
字数が二回平均して二%以内なら合格です。この
検定試験のA、B級にパスすれば、速記協会の速
記士証がもらえる規定になっていますから、この
試験にどれほど受かっているかということがその
方式の実力を示す有力なバロメーターになるわけ
です。合格者の多い式ほど先輩も多く就職も楽で
す。C級以下は、まだ練習中のもので、専門の速
記者とは認められませんから、A、B級検定試験の
実績をお目にかけます。これも速記協会の資料を
そのまま公開するだけで、私見は少しも加わって
いませんから、そのつもりでごらんください。

速記技術検定試験合格者一覽表(第一回)第七九回(現在)

式別	級別	A級(高度)	B級(認定)	式別合計
衆議院		一一四(4)	二〇六(42)	三二〇
参議院		九九(2)	一七九(16)	二七八
早稲田	(無名式を含む)	六五(3)	一一一(35)	二四六
中根	(無名式を含む)	二二(1)	一一九(37)	一四一
国字	(超中根式を含む)	三(2)	二五(20)	二八
田鎖(旧)	(個式を含む)	四(2)	二三(22)	二七
山根		—	一六(0)	一六
米田		四(0)	二(0)	六
深堀		二(0)	四(0)	六
熊崎		—	六(2)	六
イトウ		一(0)	三(0)	四
松崎		一(0)	二(2)	三
岩村		—	三(0)	三
石村		二(0)	—	二
級別合計		三一七(14)	七八一(181)	一〇九八
			総計	

A級B級合格者延べ人員の多いものから順に並べました。同一人がB級A級をパスしたのも、同じ級を何度もパスしてダブっているものも含んでいきますから、合計は実人員より多くなっています。カッコ内の算用数字は、検定試験がABCに分れる以前の、高度試験の合格者をA級と同等の技術水準と認めてAに合算し、同じく認定試験の合格者をB級と同等の技術水準と認めてBに合算した内訳の数です。前に衆・参・早・中を四大方式といった意味がこれでわかるでしょう。五八ページの協会速記士登録者数と比較対照すれば、方式選択の基準はおのずから明らかになると思います。衆参両院の速記者養成所は、国費で国家公務員である教授が速記者を養成しているのですから、合格者が多いのは当然でしょう。この表も自慢のために掲げたのではなく、速記界の現状を正確に知っていただきたいと思ったからです。

毛利	二	二(2)	二
泉	二	二(1)	二
牧	二	二(1)	二
三浦	一	一(1)	一
不明	三	三(0)	三
その他	二	二(0)	二
級別合計	三一七(14)	七八一(181)	総計
			一〇九八

文字式は、シロウトの速記応用法としては有効ですが、速記を専門の職業とするには適しないことは、この表が何よりも雄弁に物語っています。方式としての自信があるならば、検定試験ぐらいやすやすとパスするはずです。それも受からないとすれば、口実は何とあらうとも、そんな速記方式は習わない方が安全だ、と言わざるを得ません。ただし、目的がノートやメモをとる個人型程度にあるとすれば文字式で十分ですし、見方によれば

むしろ文字式の方が労力が少なくて効果が多いといえます。この点誤解のないように願います。ただ、最初に文字式を習って、やっているうちにだんだんおもしろくなってきて、本格的に速記をやろうとするときに、符号式をまた習いなおすというのではたいへんですから、同じ文字式を習うにしても、途中で符号式にのりかえのきく、関連性をもった方式が一つぐらいあってもよくはないか、というのがわたしの考えであり、この本の七二ページ以下がその具体的な例です。これを「標準式」と名づけます。

(4)その式の実務者がどれくらいいるかということとは、上の表と五八ページの速記協会速記士登録者数を対比して考えていただければ一目瞭然ですから説明を省略します。これにもれたものが仮にあったとしても、それは大勢を動かすほどのものではないと断言できます。同じ式の先輩がいないと

就職その他何かにつけて苦勞をしますよ。

(5)その式を習った人の評判はよいがどうか——日本速記協会刊行の「日本速記者名鑑」に載っている各式の個人について、一人一人あたってみてください。その結果が具体的な答えをあなたに与えてくれるでしょう。

(6)どの式を選ぶかということは、実はその人の速記を習う目的と条件のいかんによってちがってくるのです。字を書く速度の二倍か三倍になればよいのだったら、話は簡単です。どんな方式でもちよつと練習すれば、普通文字を書く速さの二倍や三倍にはすぐなります。それ以上の速さになると、文字式では何年やっても不可能で、しまいに結局符号式になってしまふという事実だけはハッキリと知っておいていただきたいのです。

衆参両院の速記者養成所は専門速記者になるには一番確実な近道ですが、募集人員や年齢、学歴

等に制限があるし、通信教育はしていないので、地方在住の人は、だれでもというわけにはいきません。(3)の表に出ている方式のうち、直接経験者に指導してもらえらるる学習に便宜なものを選ぶのが最も賢明です。それもできないとすれば、通信教育(講義録)によるほか方法がないわけですが、その場合も必ず近くの同志と連絡をとって、共同練習を数多くするようにくふうすることですね。速記の勉強だけは一人ではむずかしいものと覚悟してください。相手の言うことを手早く書き取るのが目的ですから。

7. 各式の養成機関

▽衆議院速記者養成所(東京都千代田区永田町五) 毎年一回二十名(うち女子三名)募集。二月中旬に願書を受け、三月末に入所試験。受験資格は高校生、二十歳未満。試験科目は、国語・英語・社

会(一般社会・時事問題)、適性(簡単なテスト)の四科目。学科試験合格者には厳重な体格検査があり、面接で最後の及落がきめられます。入所後は学用品・教科書など全部支給され、授業料もありません。その上手当(月額一五〇〇円以上)も支給されます。それだけに志願者も多く(三十年度は男二六・六、女八五・三の競争率)、訓練もきびしいので夜学やアルバイトとは両立しません。修業年限二年半、卒業後外部の一般受験者と一しよに速記課の採用試験を受けて、合格すれば速記士補(初任給本俸九千円)に任命されます。地方議会、報道関係(新聞・通信・放送・雑誌)方面に就職する最短コースでもあります。

「速記の学習」「速記の練習」「速記の自習」「速記の教習」(各一冊一〇〇円)季刊研究雑誌「衆友」一部入〇円、試験問題等は「入所の手引」(郵券五〇円)を同所内衆友会宛申し込めば送ってくれます。

▽参議院速記者養成所(東京都千代田区永田町一)の1▽募集要項その他大体前記衆議院と同じですが女子は募集しません。また参議院では現在速記者の採用試験を一般(外部)に公開していませんから、同院の速記者になりたい人はぜひともこの門をくぐる必要があります。ここも競争率は十五人に一人ぐらいです。ここでは一般に頒布する速記関係出版物はないようです。

▽裁判所書記官研修所養成部速記部(東京都文京区湯島切通町一)▽ソクタイプ(速記機械)による裁判速記者の養成をしています。修業年限二カ年、資格高校卒以上男女二十一歳未満。試験は学力検査(国語・社会・理科・数学・英語・作文)知能検査、適性検査、性格検査、体格検査、それに口述。合格者は四級職公務員として採用、寮の設備があり滞在費支給。授業料不要。学用品支給。卒業後は裁判所速記士補(六級一号)として採用さ

れ、全国各地の裁判所に配属されます。詳細は同所あて照会してください。

なお、ソクタイプ速記研究会へ東京都渋谷区千駄ヶ谷四の七八九で一般の人にも教えています（授業科月六〇〇円）。地方の有志のためには通信による教育も行っています（教授料六〇〇円、練習機二〇〇〇円、ソクタイプ三五〇〇〇円）。

▽中根速記学校へ東京都千代田区神田神保町三の四九段下ビルへ入学資格は高校卒業または同等以上の男女、年齢の制限はなく、新学期は四、九月ですが、毎月初めに補欠募集もします。修業年限は、本科一カ年、研究科一カ年で、朝の部（九～一二時）と夜の部（五～八時）があります。地方の人のために校外生制度があって通信教育もしてします。入学金は二〇〇〇円、月謝一〇〇〇円です。各地に中根速記協会支部があり、高校速記部のクラブ活動もなかなか盛んです。毎年夏全国高校速

記競技大会を東京で開いています。

最新版「中根式速記」(三三〇円)、月刊雑誌「中根式速記」(一部五〇円)

▽早稲田式速記普及会へ東京都新宿区戸塚町一〇五三二通信教育コースはW式速記講義録(全九巻一九〇〇円、一巻二五〇円、入会金五〇円)を初等科、普通科、研究科、各三カ月で終了し、あと各地の支部、同志会で共同練習をして仕上げをします。学歴、男女、年齢の制限はなく、別に早稲田式速記士養成所(予科六カ月、本科二カ年、研究科六カ月、入学金五〇〇円、月謝五〇〇円)もあり、昼間部(一〇～一二時)と夜間部(六～八時)にわかれ、これも四人に一人の競争率です。

「速記読本」(初等科)(文法科)(高等科)(各冊一部一三〇円)月刊「早稲田速記新聞」(一部三〇円)

▽渋谷タイピスト学校速記部へ渋谷区美竹町九は西尾利信氏指導。早稲田式渋谷分教場ともいう。

▽佐竹速記塾へ東京都豊島区椎名町六の二三八六佐竹康平氏指導。早稻田系無名式という。

▽佃速記塾へ東京都杉並区馬橋二ノ一〇〇〇戦前麴町の富士見町にあった塾の後身で、萩谷哲夫氏(元衆議院第三速記課長)の指導。個人教授をやっています。田鎖系佃式。

▽実務学会へ東京都渋谷区千駄ヶ谷五の八五六資格は男女、学歴、年齢を問わない。基礎科二カ月、毎週月、木。練習科四カ月、毎週水、土。両科とも午前部(九～一一時)夜間部(六～八時)の別があります。日本語速記術の創案者田鎖綱紀氏の長男田鎖一氏が指導。六七年式田鎖新式。

▽毛利式速記研究会へ東京都渋谷区原宿一七〇の二六〇穠積武子氏指導。

▽京都速記研究所へ京都市左京区内鹿ヶ谷寺の前町九七中根式。森卓明氏指導。いわゆる超中根式表象法。

▽中根式速記京都研究会へ同下京区七条御領町三一〇岩谷貞代氏指導。

▽米田速記記録研究所へ同下京区岩上通四条下ル〇熊崎系米田式。直接、通信、米田好兼氏指導。

▽大阪速記研究所へ大阪市住吉区内粉浜東之町一〇四〇中根式森派。瀬戸豊氏指導。教室(福島区上福島南二丁目一七七福泉寺内)月、水、金、(夜間)。

▽山根速記学塾へ同都島区都島北通一〇国字系山根式。山根祐之氏指導。

▽田辺速記塾へ同東住吉区田辺本町二の一九〇熊崎式。高山三郎氏指導。

▽高嶋速記研究所へ同阿倍野区昭和町西一〇二〇田鎖系佃式。高嶋作郎氏指導。

▽牧速記術研究所へ大阪府豊中市野田七六〇熊崎系牧式。牧泰之輔氏指導。

「牧式速記法」(七〇中)(下)

▽神戸速記学校△神戸市中山手六丁目▽熊崎式と
中根式。大西田鶴子氏指導。

▽イトウ式△名古屋市千種区田代町楠一九八▽創
案者伊藤勝持氏指導。

▽国字速記学塾△広島市吉島本町一の六五三▽国
字式創案者国字寿光氏指導。

▽石村速記研究所△福岡市天狗松四五▽二十六年
式。創案者石村善左氏指導。

「二十六年式速記叢書」第一巻(第二巻)

▽岩村式カナ速記協会△東京都豊島区要町三の二

○▽創案者岩村学氏。通信講座。この式からさら
に速度をあげて専門速記者になりたいと思う人は
深堀式に転ずると関連があつて便利でしょう。深
堀義輝氏(東京都江東区亀戸町一の二三〇)に照
会してください。

▽泉式△長野局区内北石堂町二六九▽創案者乙部
泉三郎氏指導。

▽「日本の速記」△東京都千代田区永田町参議院内
日本速記協会機関誌。月刊一部五〇円。速記界の
動きが一読してわかるので重宝です。

以上で予備知識として必要なことは大体説明し
ましたから、いよいよ本論に入ることになります。

速記用具について

速記をするのには、別に特別な道具はいりませ
ん。鉛筆数本と普通の半紙が五、六帖あれば、そ
れで十分です。筆記用ノートは、すべてかえつ
て損です。ただ、鉛筆は、普通の筆記に使うもの
では堅過ぎて書きにくいから、2Bぐらいのがい
いでしよう。それを軽く動かして、紙の裏に跡が
つかない程度に書いてください。シャープ鉛筆な
ら削る心配もなくてラクですが、あまり強く押え
ると、芯が折れてまごつきまします。紙はザラザラし
た安物の方がかえって書きよいですね。

二、短期文字式速記法

符号式と同一原理、
同一法則で応用自在

1. 基本的な考え方

「速記」といへば、「書いて書いて書きまくる
もの」と思っている人が多いようですが、実際は
その反対で、できるだけ書かないように、書かな
いように、とくふうして、しかも書いたと同じよ
うに読める、というのが近代速記法の実態です。
というのは、書く線の量を少なくするほど速く書け
る方法はないからです。物理的な手の運動の速さ
は、どんなに練習しても、人の二倍にも三倍にも
なるといふものではありませんが、アタマの回転
の方は、訓練によって五倍〜一〇倍の速さに達す
こともわけなくできます。そこに現在の進歩し
た速記法の根本的な考え方があつるわけです。だか

ら最近の速記法では、手先の器用・無器用など問
題にしていません。

現在、四十代、五十代の速記者が速記を習った
ころ——今から約三十年前には、日本に近代速記
法ができてから四十数年たったので、その間
に発展してきた成果を教えられた当時の新人から
見ると、先輩の速記ぶりは、気の毒なくらい手を
速く動かして多くの線を書いていたものですが、
その後三十年間の速記の進歩は、その前の四十年
間をはるかにしのぐもので、往年の若手速記者が、
今は次のような感想をもらしています。

「私は昭和三年に速記を習ったが、当時四、五
十の人といっしょに仕事に行くと、わきで大きな
字で盛んに鉛筆を振り廻し、パッパッと紙をめく

るのでうるさくて困ったことがあった。私のほう
はちょこちょここと書き綴り、落着いて悠揚せまら
ずやっている。先輩に対して、何だか悪いような
気がした。最近、某社から速記の依頼があり、代
理に新人に行ってもらった。あとでその係りの
人からこういう話を聞いた。『この間速記に来た
若い人の横で見えていたが、鉛筆の動きが大変に
ぶい。所々止まることもあり、抜かすのではない
かと思われる。あれでは言った通り書いているか
どうか疑問だ。そこに行くと、あなたは絶えず流
みなく書いていて、手は休まない。時には話が終
っても、しばらくは筆が動いていることさえあ
り、安心感がある』という。これはシロウトの悲
しさで、最近、符号が非常に簡単になったことを
知らないことから生れた見方である。』(東京速記
士会刊「速記時報」第一号)

ゼネレーション(世代)が一つ違うこと、ま

いうことをハッキリ知ってもらいたいのです。何
度同じ言葉がくりかえされても、ゴティネイと同
じ字を何へんでも書いていたのでは、言葉の速さ
にはとても追いつけません。それで適当に省略し
て、思い出すのに必要な最小限度の線だけ書くの
には、文字の觀念にこだわってはいけません。
五十音符号さえ簡単にしてあげば、あとは何でも
書けるはずだ、と思っっているのは、自分でほん
とに高速度の速記をしたことがないか、したくて
もできないからです。それでは「速度」という怪
物の正体はつかめていません。速記のできない方
式の創案者によくこの「書けるはず」型の文字論
者がいますが、自分では高速度の速記ができない
からその欠陥に気がつかないのです。そういう論
者に教わる人こそ気の毒です。創案者自身は、机
の上で「書けるはずだ」と思っただけでも、実際に
はスピードが出なくて書けないという例は、有名

で書かないで遊んでいるように見えるほど符号
の簡単化の方は進んで来たのですが、手を動かす
速さは少しも速くはならず、逆にむしろおそくな
っているくらいです。それはなぜかといえれば、運
用される符号の線量がそれだけ少なくなっているか
らです。つまり速く書くことのできるカギは、手
の運動にあるのではなく、符号の簡単化、すなわ
ち画線の減少を補う頭脳の回転の方にあることが
これでわかるでしょう。最近、話す速さがますます
速くなり、内容がいよいよむずかしくなってい
るので、手で書く速記ではダメだ、アタマで書く
速記でなければならぬといわれるのも、そこに
理由があるのです。みなさんもそのつもりで文字
や符号を運用してください。

それには、速記の符号を固定したものと考えず
に、前後関係や言葉のつながり、位置などを利用
して、わかりきったことは書かないでも読めると

な方式にもいやになるほどたくさんあります。そ
こで私は言いたいです。何式の人でも、あなた
がほんとうに高速度、超高速の速記をしたいな
ら、これから説明するあの手の手の、どの一つ
でも、用いないですませるわけにはいかないでし
ょう。五十音符号がいくら簡単になっても、
それだけでは速記はできないのです。孤立した個
々の音ではなく、音のつながりとしてどういう言
葉が一番よく使われるか、そのコンビネーション
(結合)の研究がよくできていて、それが簡単に
書けるようになっていなければダメです。これが
実用化されるかどうかのわかれ目です。五十音符
号などは単なる材料に過ぎません。野菜や肉や魚
や卵・貝、粉や油やみそ・しょうゆ、砂糖や塩や
酢・みりんなど、いくら上等な材料がそろって
いても、それだけではうまく料理はできません。そ
の料理をつくる方法と腕前が問題なのです。だか

ら五十音符号などは基本でも何でもなくて、それはただ材料であるというだけです。もちろん、材料は精選しなければなりません、材料がいくらよくても、それだけでうまくいこうがいただけるとは限りません。同じ材料を使っても、でき上った料理の味はまるで違います。そこにウデがあるのです。こんなりくつばかり並べられても、みなさんには迷惑でしょうから、早速料理の方にとりかかるとにします。

2・速記の素材符号

速記をするのに必要なものは、まず素材符号です。専門の職業速記者は極度に簡単化された符号を使っていますが、それを暗記するには相当な労力がいりますから、ここではそれは敬遠して、一般の人が今からでもすぐ応用のできるカタカナ・ひらがな・ローマ字を符号の代用品として使うこ

とにします。ただ、字そのままでは速記に不便ですから、草化(略筆)、省画(字形の一部省略)に便利なように、四六音を次ページの表のとおり組みかえて、「素音符号」と名づけます。あらゆる音の素になるという意味です。(イとヨは運筆を便にし、ツはまん中の点だけ、トとネは最後の点を省略、テとンは最初の線・点を省略、ミは数字、ウ・エ・オ・スはローマ字を転用)

このほか、画(ストローク)の少ない漢字はそのまま使えます。専門家と同じ符号も使います。文字には見られない位置や関係も符号として活用するのです。だから、速記はやればやるほどおもしろくなってきます。皆さんも、「速記の歴史」の中(二四ページ以下)に紹介してある文字や符号で、「これは材料として使える」と思うものがあつたら、遠慮せずにとしどし活用してください。そのためにくわしく書いておいたのですから――

素音符号表

ア	イ	ウ	e	o
カ	キ	ク	セ	ソ
サ	シ	S	テ	ー
タ	チ	ト	ネ	ノ
ナ	ニ	フ	ヘ	ホ
ハ	ヒ	ム	メ	モ
マ	ミ	ユ	レ	ヨ
ヤ	リ	ル		ロ
ラ	リン			
ワ				

〔練習〕 アイウエオ順に十回、イロハ順に十回、次に四六音が一分間に三回書けるまで練習してください。それができるようになったら次へ進みます。(6)促音の書き方、(9)R尾音の書き方参照。

〔各音記法原則〕

(1) 左から右へ横書きする。テニヲハ・動詞の語尾等は小さく右下に書く。前の符号の終りの線を次の符号の書き始めの線に共用できるものは続けて書く。句読点は書かないで文節ごとにわかち書きをする。

カ+o ヲ= カ
仮名を 横に 書く。

Ue/ ヌ 7
上野に 行くこと。

T 高 ヴ 肥
天 高く 馬 肥ゆ。

コモ es 十ロ
モンモンセンス ナイロン

(2) 濁音の書き方——右肩に点を一つ打つ。次の符号を続けるときは、その点の位置から小さく書く。(ダイ・ズは例外、ヂ・ヅは用いなく。)

ケバダ マホ
原子爆弾 マンボ

マ/ ヲサ、モ
まず第一に 予算の問題

ガ' Tキ ゴ
ガス 電気 ゴム

オガ' 7ガ' ick
音楽と文学 ジクザグ

(練習) 言語、大学、銀座、バス、ズボン、ぐず、はず、穂積、逗子、伊豆、国府津、どろ、ねずみ、バンド、土手、額縁、図画

(3) 半濁音の書き方——右肩に小半円を書く。

ピ^oボ バ^oベ
ピンポン バンとベン

バ^oS バ^oqア
バス バイブ

ホ^oS1 ピ^oキ
ポスト ベンギン

(練習) ピンチ、ポンプ、パンプス、プトマイン、ルンペン、ペンス、ぱくつく、ぼんネオパン、ピンク、パンテオン、ボンボロベスト、ベガサス、ペンキ、テンビ、モンベ、テンボ、ペテン、ピカドン、ベケ、ペソペテン、ピアノ、ピント、ハンペン

(4) 尾音(ン)の書き方——書き終りを右上に少しはねる。(シン、トン、レンに注意)

アセ シン =セ
安全 新聞 人間

カレ セカ コラ
閑遊 散会 混乱

ウテ くら トホ
運転 訓練 とんぼ

カ ねカ りベ
面子 年間 ルンペン

(練習) 眼科、天下、学問、音波、電信、機運、解散、森林、門人、簡単、真実、困難、専門、閩門、泉下、現下、山間、潜函、先祖、免租、減刑、典型、全権、権限、半減

(5) 長音の書き方 書き終りの線または主要な線を長く書く。eiの尾音をもったものは長音として扱う。

戦争 平和 憲法
郵便 衛生 政府
高等 算数 コーヒー
戦争 定員 太平洋

(練習) 計画、公定、放送、政權、憲政、政治、航空、停電、抵抗、登校、送別、学生相当、抗争、労組、高層、空想、自由思想、遠洋航海、通路清掃、労働代表、輸送対策

(6) 促音の書き方 交差並行または接着させる。この原則はマツ・カツ・ツマ・ツカ等ツ音の省略にも適用する。

国家 出版 雑誌 速記
鉄鋼 決定 熱心 実話
いつて マック ミッキー 折角
カツレツ 松山 高松 大塚

(練習) 国旗、決算、目下、徹底、實際、設計、拙劣、雑音、熱烈、決心、決意、突然、突破口、一方、結果、実施、撤廢、失敗、浜松、松島、松本、やって、なつて

(7) 疊音の書き方 一音のときは書き終りに近い線上に加点、二音のときは下方に加点、次の符号を点の位置から書く。三音以上のときは上方に横線を引く。濁音一音の疊音は右肩に二つ点を打つ(つまり普通の濁音と同じ形になる)。

ハ 母 母に 鏡 届く どのどしどし
進む 係り ますます 日比谷 馬場
ごたごたと 人工衛星、人工衛星

(練習) ただ、だんだん、いろいろ、ぼつぼつ、区々、人々、カンカン、パンパン、くぐぐれも、ボンボン、ボタンボタンと

(8) 拗音の書き方 右下にヤ・ユ・ヨを小さく続けて書く。(シヨ・ジヨ・チユー・チヨ・シヨ)は例外、くわしい用例は後で示します。

ヤ ュ ヨ 吉 吉 吉
ヤ ュ ヨ 沖 仁 仁
ヤ ュ ヨ 中 大 大
(ヤ-) (ヤ-) (ヨ-)

(8) のつづき

場所 教員 無茶 批評 承知 無茶 税務署 養成所 警察署

中国 第十三条に 明朝

(練習) キャッチ、客観、茶屋、週間、校長
長老、感情、東条、支所、上長、当所、山
脈、奇妙、首相、蔵相、文相、労相、外相
交渉、涉外、象徴、商工、多少、行政、気
象台、事務所、刑務所、ヒューズ、シヤム

(10) その他の記号 漢字、万葉仮名、カタカナ、ひらがな、ワコト点、ローマ字、算用数字(アラビア数字)など、画線が少なくて音韻を表わすのに便利なものは、何でも使用する。素材符号だけでなく、単語符号にも使う。たとえば次のように……。

…える
イチ
ジュー十分
ジュニアベン

ビー
コクに
キニ 苦しい九州

セ
ンチ
チュウカ
ハチヤカマシイ
八幡(ヤハタン)

又
また
サンマ
ロクク
リ ムツカシイ

(9) R (ラリルレロ) 尾音の書き方 書き終りに小円をつける。類推できるラ行の各音は同じ形に書く。ただし、知らない言葉や固有名詞にはル以外は使わない。この応用は判断力があるが、効用は絶大。

ソ 聯 ネール アルコール ユーモア
すり 見る なる 車 笑う
アップル 丸ビル メリヤス 營利
モラル おり いる 鳥取 ルール

(練習) あらゆる、コーラス、伸びる、おどり、総理、法理、毛利、氷、無理、暴利、ビリ、モルモット、ホルモン、ボール投げ

(総合練習) もうこれでどんな言葉(発音)でも一応速記することができます。まだ始めたばかりですから、あまり速くは書けません。これらの材料を使って、運用の法則さえうまく適用すれば、だれでもすぐ普通文字を書く速さの二倍や三倍には簡単になれます。

- 1 初めにまず自分の名前を書いてみましょう。
 - 2 次に父と母の名。
 - 3 兄弟姉妹の名、祖父母の名、親戚の人の名。
 - 4 先生の名、友人の名、知人の名。
 - 5 自分の住んでいる都道府県市町村字の名。
 - 6 知っている地名。国名。地名。
- どうです。うまく書けましたか。まだ無理ですか。では、あらためて運用の法則(書き方の「あの手」「この手」)を伝授しましょう。
- 符号さえ簡単なら、あとは練習次第でどんな速い発言でも書けると思っっているのは間違いです。

3・運用の法則

材料はそろいました。いよいよごちそうを作る段取りになったわけです。サテ、それでは――。

(1) 位置と関係と連続性

速記の対象になる言葉は、必ず一定の長さのつながりをもっています。なぜなら、どんなに速い発言でも、その言葉だけポツンと発音されて、あと何にも続いて発言されないならば、われわれは何も速記などと苦勞をしなくても、今までにすでに知っている普通の文字で書き取ればいいのです。ところが、それを書いている間につき言葉を書かれる。それを追っかけて忘れないうちに書きとめようとあせっているのに、またその次、またその次と話されたらどうでしょう。それでもうお手あげですね。そこで何かうまい方法はないも

のかしら、ネゴの手でも借りたナと思うでしょう。それ、それ、そこに速記の必要なわけがあるのです。それを速記の連続性と言います。初めに定義した「速記とは――普通の文字では書き取れない速さと、記憶しきれない長さをもった連続的な発言を……」というあの言葉をいま一度思い出してみてください。そこに速記の本質があるのです。

だから、普通の文字で書くように、孤立した記号で一つ一つの音を追いかけていたのでは間に合わないほど速い発言でも、言葉のつながり（連続性）を利用して前後関係で読めるようにくふうすれば、いくらでも速く書けます。しかも、その法則はすこぶる簡単です。たとえば、山登りをしてる状態を考えてみてください。すでに通ってきたふもとの方（過去）は、はるか下の方にあり、これから登って行く頂上（未来）は上の方に

でしょう。それをそのまま速記に應用するのです。すなわち、左から右へ横書きする場合、当然書くと予想される位置よりも下の方に書いてあげば、それは過去であり、「……ッタ」の語尾をもつ言葉である、ときめるのです。また、当然そこに書かれるものと思っている所よりも上の方に書いてあげば、それは未来であり、「……ロウ」の語尾をもつ言葉である、ときめれば、ここに一つの法則が確立されたわけです。アッタ、カッタ、サッタ、ナッタ、ハッタ、マッタ、ヤッタ、ラッタ、ワッタ、アロウ、カロウ、サロウ、

タロウ……と、いくらでも應用ができます。符号を忘れたら普通の字でもかまいません。この法則で書いてもらいなさい。

東京行
大阪オ
京都ヤ

東京に 行った。
大阪に おった。
京都に やった。



ウ、カロウ、サロウ、

タロウ……と、いくら

でも應用ができます

符号を忘れたら普通

の字でもかまいます

ん。この法則で書いて

どうです、読めるでしょう。動詞だけでなく、

この法則は他の言葉にも適用できます。

実際の運用にあたっては、思い切ってスポット

やってみる事です。「これでいいのかな」「も

っとうまい書き方があるのではないか」などとた

めらってはいけません。そういう反省は後でゆっ

タッタ十四。 イヤまったくだよ。
 送った子供。 一旦きまったく以上。
 大山三郎 石井八郎 石蔵崎
 イロウ

この調子で応用はいくらでもできるのです。

アタマ(知識—判断力)さえ進んでくれば、
 類推のきくものはなんでも同じ符号で簡略化する
 ことができます。その点が文字と違うのです。そ
 の最も典型的なのが人間関係を示す後略法です。
 人間関係で一番問題になるのが「長」です。議長、
 会長、社長、校長、学長、総長、部長、局長、課
 長、所長、署長、場長、市長、町長、村長、いく

らでもありませんね。音はちがっても、長官、知事、
 大臣、頭取、元帥、等、等、ヘッド(頭)を意味
 するものは、最初の、それを連想し得る言葉さえ
 書いてあれば、あとはすべて一つの符号ですみま
 す。

明治天皇 総理大臣 文部大臣 労働大臣
 衆議院議長 京都府知事
 参議院議長 名古屋市長
 ローマ法皇 アイゼンハワー大統領
 ネール首相 ナポレオン皇帝

簡単ですね、ただ、最初に書いてある字で完全に
 思い出せないものはだめです。たとえば「宮」だ
 けでは、宮城だか、宮崎だかわかりませんし、「福」
 だけでは福島だか、福井だか、福岡だかカイモク

見当がつかないから失敗します。また京都府知事
 か京都市長かも迷うようでは、十分な適用とは言
 えないのです。つまり頭で補いができればその分
 だけ手の方の負担が軽くなるわけです。

人間関係ではまだあります。今度は下に書きま
 す。点を打つのが原則で、その点の所からテニヲ
 ハその他次にくる符号を書き出します。

労働者 新聞記者 日本人
 衆議院議員 アメリカ人
 イギリス人 インドネシア人 ドイツ人
 インド人 イタリア人
 裁判官 大学生に 第三者を
 失業者は 結核患者も

(2) 一線化と使用度数

、頭さえ進めば、運用は無敵だという意味がわか
 りますね。話を元にもどしましょう。

速記に使う個々の素材(文字や符号)は、でき
 るだけ簡単化した方が有利です。簡単化の極致は
 一画(ワン・ストローク)にすること、すなわち
 一線化です。一音節を一つの線であらわすのが単
 画派ですが、今日の進んだ速記法では、五十音符
 号のいかににかかわらず、使用度数の多い二音節、
 三音節も一線化し、さらに多音節(三音節以上)
 の単語も一線化されているものが相当あります。
 それはいずれも使用度数の多いものばかりですか
 ら、素材にカタカナを使う人も、次にあげるよう
 な言葉は、りくつを離れて一線化された符号を用
 いる方が得です。五十音に關係ありませんから、
 何式の人でも利用できます。

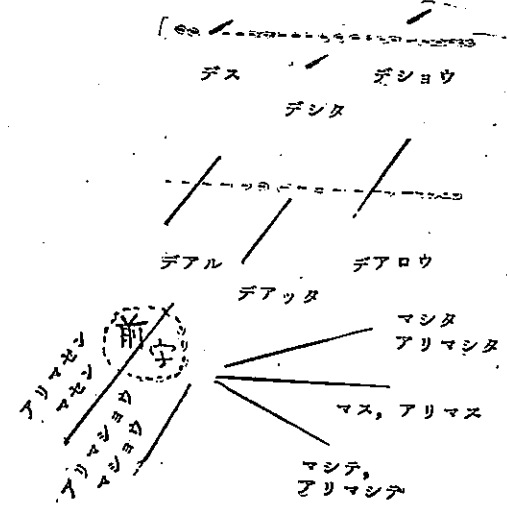
研究を打消せば「研究マセン」という日本語はない

キ	3	✓	研究いたしました
来マシタ	見マシタ	シマシタ	
キ	3	✓	研究いたして
来マシヨウ	見マシヨウ	シマシヨウ	
キ	3	✓	研究して
来マセン	見マセン	シマセン	
ク	ク	ク	研究した
来ない	見ない	しない	研究したい

これよりほかに読みようがないでしょう。
次に変化した形を説明します。

のですから「研究いたしません」と読めるのです。
アリマスとゴザイマスの変北は、まったく同形
でただゴザイマスの方に加點一つしただけでわか
ります。シマスとイタシマスは同形では読みわけ
ができませんから、シマスの方にシをつけて区別
します。前の言葉からの続きでマス・アリマス・
思ヒマス・イタシマスは同形でも相互に決して間
違いません。ナイとマセヌは長さだけの差です。
こういう動詞の変化はまだいくらでもあります
が、一例にとどめて先を急ぎます。
何を一線化するか、といえは使用度数の多いも
のを優先的に一線化するのです。
国語研究所の「語彙調査」(昭27・5)による
と、スル、イル、アル、コト、ナル、モノ、コノ、
的(〇〇的という接尾語)、コレ、ソノが、この順
で使用度数の多いベスト・テンになっています。
〇ルは前に説明したように小円をつけることで解

一番下のマス、アリマスの変化についてはちよ
つと説明がいろいろありますが、この符号ほど言葉の連続
性の神秘さ、おもしろさを感じさせるものはありません。
マス、アリマスだけでなく、思ヒマス、



ト思ヒマス、イタシマス、ゴザイマス(加點)と
いくとおりでも読ませて間違いが起らないから不
思議でしょう。これらの言葉をゴテイネイに一々
書きわけている人がいるとしたら、その人は言
葉の連続性というものがわからず、その利用と
いうことに気がついていないのですね。論より証
拠、ためしてみましよう。

マ	マ
賛成いたします	マナリマス
マ	ク
賛成と思ひます	イマス
マ	ク
賛成者があります	オリマス
マ	ク
賛成者もござります	デアリマス

使用度数順位表

順位	一面	社会面	地方版	均
1	政問委経会国民内政関	府議員済議民主閣治係	員合挙方務後査校区場	員題府合挙係済件定議
2		事委午大搜問午大学関	件員後学査題前会校係	委問政組選関経事決会
3			昨関支大問教会候決事	地調現社労大專民会代
4		策働会会挙官表表定令	表生楽事査社合国掃育	方査在会働会務主社表
5			発学音検調会組全引教	年係部会題育社補定件
6				
7				
8				
9				
10				
11	政労社国選長発代決司			
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

このまま符号式へつながる書き方ですから、練習すればいくらでもスピードが出て来ます。
朝日新聞東京本社「熟語使用度数調査」(昭25・2)によると、新聞の第一面、社会面、地方版の各面に使用された熟語(漢字二字連続)を、使用度数の順に二十位まで取り上げた比較表は、次のようになっています。

前字

的 具体的 消極的 積極的

この人 好み 好まない

その 図書館 花園 その時

することもできます。言うことができると思います。

決しました。コトは昔から使われているので使えます。コレは小田をつけたコトと同じもので間違はなく読めます。残るのは的とコノとソノですが、これは次のように書きます。的はまたデキにも使います。

レバ、ネバ、ナケレバも使用度数が多いので、レの符号を使って次のように書きます。

前字

れば あれば なれば ありますれば
ますれば

ねば 言わねば せねばならぬ やらねば
ならない

なければ しなければならぬ 進まなければ
なりません

行かなければならない

ナラヌはン、ナラナイはナイ、ナリマセヌはマセヌと同じに書いても間違いなく読めます。これは

国語研究所の「語彙調査」でも、委員(1)、問題(2)、政府(3)の三語はまったく同じ順位です。これらの言葉が簡単に書けなければ速度は出ないわけですが、これを全部一線化することはとてもできません。そこで他の法則が必要になってくるわけです。

もちろん、実際には、二字単語で終るものではなく、さらに複合されて、地方―労働―委員―会とか、多数―国―集団―保障―制度とか、財団―法人―国際―商業―会議―所―東京―総会―運営―会というように、一口では言えないほど長く続けられる場合がしばしばあります。これをどう簡単化するかというところに高度の理論操作があるわけです。それを以下順を追って説明しますが、上の表の一面は国会関係、社会面と地方版は新聞通信社関係の速記に多く使われる言葉です。

(3) 省略ということ

省略(ハブク)ということとは、必要最小限のものだけ書いて、あとは書かないで済ませます。書いてあるのと同じように読む——読めるようにするという方法で、速記の眼目、カンジン、カナメの法則といってもいいほどのものです。

言葉の方でも、デパートメント・ストアがデパートになり、パーマネント・ウェイズがパーマで通用し、「オハヨウゴザイマス」が「オス」に つまってもわかるのですから、MSA、NHK、ユネスコ、ララ、日教組、全敏連というよう なやり方が速記の方にもあっているわけ です。

省略のしかたはいろいろありますが、大別すると次の三つになります。

(1) 独立してある部分だけ抜き書きするもの。

▽最初の音だけ抜き書きする方法

カ	ケ	サ	セ	カ	カ	カ	カ	カ
簡単	経済	賛成 産業	専門	考え	考える	考えた 考えて	考えます	考えない
キ	キ	リ	ロ	く	く	く	く	く
賃金	民主	臨時	労働	比べ クラブ	比べる	比べて 比べた	比べます	比べない
シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
質問	答弁	しかし	すなわち	尋ね	尋ねる	尋ねた	尋ねて	尋ねない
セ	ヒ	ラ	ワ	シ	ハ	ナ	ヌ	
世界	必要	ラジオ	われわれ	願	望	初め 始め	並	並

▽最初の音と最後の音だけを抜き書きする方法

S _ク	ハ _ク	ホ _ク	ホ _ク	ホ _ク	ホ _ク	ホ _ク	ホ _ク	ホ _ク
すべから く	運び、ぶ	施さ	減らす	明らか	明らかに	期か	期かに	いかに
シ	シ	ヤ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
みずから	専ら	やがて	喜び、ぶ	あまねく 危く	過ち あながち	誤り	表わす	改め
ク	ク	カ	カ	ウ	ウ	ウ	エ	オ
煩わす	及ぼし	にぎやか 俄かに		伺	疑	促す	運び 選ぶ	おおむす
S _二	シ _二	シ _二	シ _二	オ	オ	ノ	ノ	シ
速かに	静かに	僅かに	結び、ぶ	驚か	おのずから	おらぬ		さしつかえ

(2) 交差、接近、附着等、前後関係を利用して抜き書きするもの。

(3) 特定の印をつけて抜き書きするもの。

以下、この順に説明します。これは普通文字による筆記にも、どんな符号式速記にも、例外なく適用できる法則ですから、ナニ式、カニ式にとらわれず、最大限にこれを活用して、速記のダイゴ味を満喫してください。ただ、この方法は使用度数の多い言葉に限って用います。従って話の内容が違えば、同じ省略形の記号が前後関係によっていろいろに使えます。たとえば、同じビだけで美術とも、ビタミンとも、ビルディングとも読めるのです。その詳細は次のとおりです。

(1) 早(S) 慶(K) 明(M) 法(H) 立(R) 東(T)、政・経・法・文・理・工・農・医等でだれでも知っているもの。すなわち——

〔下のような例は、普通に行われていることで、別に速記というほどのものではありませんが、御参考までに——〕

M...Member Monday Master	cat...kt
Majesty Marquis Marshal	cook...kk
Milltia Monsieur	cloud...klu
L...Lady Latin Law	stenography...stngrf
London Liberal Lord	philosophy...flsf
l...litre lira line	photogreph...ptgrf
lake land latitude	my...mi
league left length	system...sstm
	sympathy...smpt

T=TVA P=PTA N=NHK

B=BCG G=GHQ M=MSA

'today	tod	tomorrow	tom	yesterday.....	ysd
'Sunday.....	sun	Monday	mon	Tuesday.....	tus
'Wednesday.....	wed	Thursday.....	tur	Friday.....	fri
'Saturday	sat	month	mo	year.....	y
'January	jan	Feburary.....	feb	March.....	mar
'April.....	apr	May	ma	June	jun
'July.....	jul	August.....	aug	September.....	sept
'October.....	oct	November	nov	December.....	dec
'Dear sir.....	ds	Truly yours	tu	Faithfully yours	fu
'Yours truly	ut	Yours faithfully	tu	Very truly yours	vtu

〔この原則は英文速記に適用できますから大いに利用してください〕

o...o on oh	a...a an and
P...up put post ple	b...be by being but been
q...quick question quite quiet	able ble
r...are our hour	c...century ch
s...is his has	d...day would
t...it the th	e...he
u...you your ew	f...if full from for
v...of have very	g...go going good
w...we with were worm	h...had her
wh...	i...I eye
x...except ex xa ace exe	j...gentleman gentlemen
y...year why	k...can come came
z...was	l...will well all
S...shall should she	m...am him many
	n...in not that

(説明) 母音とサイレント、
語尾の t d m などは原則として省略すること。ただし、語頭の母音は i のほかは省略しません。it...t, is...s, dog...dg right...ri, might...mi, out...ou, cold...kl, some...so などのように省略する語尾の前の母音は省きません。また ea oo のような重母音は、長音なら発音しなう方を省略し、促音なら全部省略します。
eat...ef...l look...lk, foot...fo, feet...fe...l bat...bt, bad...bd, のようにします。
このように、ヒントになる字だけ残して他を略します。

▽終りの音だけ書く方法

経済もケー、警察もケーでは区別がつかないので、警察の方は俗にサツといわれているのを利用して終りの音だけ書きます。ケレドモは最後のモだけで間に合わせます。レバもバに相当する符号だけ書いても省略します。

サ エ サ 矢
警察 警察署 警察官 経済警察

レ エ レ ヤ モ

アルケレドモ デアリマスケレドモ
ダアルケレドモ やったけれども

ナ エ ヌ モ ケ

ナルケレドモ 言ウケレドモ
スルケレドモ 言イマセスケレドモ

ア タ ケ ア

あれば なれば くれれば ありますれば
おれば

(2) 独立して省略する書き方は非常に便利ですが、全部の言葉をその方法ばかりで省略すると、同じ音で始まる言葉はみな同じ形になってしまっ

て、読むときにわからなくなりますから、前の符号を利用して前の符号との関係で区別するようにします。これも非常に応用の自在な便利な方法です。これから、記憶しておいて大いに活用してください。前の符号との関係を手がかりにして読むので、これを符号の関係化と言います。この原則は次のように用います。

点線で書いた円は前の符号という意味で、交差しなければその符号はなり立ちませんから、前に何にも書いてないときは、まず円形を書いてから交差させる必要があります。それでも普通の字を書くよりズツと速いのです。

▽交差して省略するもの

〇 矢 は 矢 リカ

〇〇所 商工会議所 理化学研究所
結核療養所

は 矢 は 矢

職業安定所 証券取引所
最高裁判所 水力発電所

学校 小学校 中学校 高等学校

この通り 御承知の通り
その通り 銀座通り

通り

その通り 銀座通り

(練習) 費用の節約、消費節約、物資の節約、一朝一夕、一石二鳥、徹頭徹尾、引渡し、明渡し、

受渡し、示威運動、大衆運動、大運動、反対運動、猛運動、陳情運動、暴利取締、風俗取締、取締役実施に関する件、計画に関して、センチメンタリズム、ジャーナリズム、するのではない、のでは

経費節約 物価調節 一生懸命 徹底的に

波す 運動 取締

それに関して
これに関する

ナショナリズム ヒューマニズム
イズム マルキシズム ソーシャルイズム

○であります するのであります
おるのでは 見るのであります

▽接近して省略するもの

(説明) 敬語の語尾の变化はこの方法を用います。右肩にサはサレ、右下にサはサレル。右肩にタはラレタ・セラレタ・ワレタ。右肩にテはラレテ・セラレテ・ワレテ。右肩にマス(横3ミリ直線)はラレマス・セラレマス・ワレマスと前後関係で判読できます。書き終りのすぐ傍の点はレル。

K KK GK SK
会社 株式会社 合資会社 相互会社

られ せられ
られる せられる
らるる せらるる

「われた 知られて
見られぬ 考えられぬ
感ぜられる 研究せられず

1/4 2/4 3/3 4/4 1/2

第一四半期 第二四半期
ルイ十三世 エリザベス二世

▽附着して省略するもの

(説明) 前の言葉で後に来る言葉を予想し得るものは、前の言葉だけ書いて、後の言葉は短直線の符号にするか、または後の言葉のうち思い出すのに最も便利な音をあらわすものを前の言葉のどこかにくっつける。猫も(杓子も)、杓子(定規)、火を(見るより明らか)、木によって(魚を求める)

年束手当 割当 この時あたり 差当り

国際 国税付加税 経済九原則
この三原則

組合 共済組合 協同組合 労働組合

行政協定 自由競争 豊臣秀吉 徳川家康

より 福岡より 広島便り
これによりまして
それによって

東京より、ハワイ便り、これによって、
命によりまして、すると思ふ、なると思ふ、
であると思ふ、防衛三法、経済学博士、工学博士
理学博士、農学博士、法学博士、湯川博士、アイ
ンシュタイン(ア)博士、資本主義、共産主義、
帝国主義、軍国主義、大陸政策、宥和政策

労働三法 教育三法 医学博士 文学博士

主義 政策 社会主義 食糧政策 刑事政策

いいか悪いか すればするほど
するかしらないか すればするだけ

アメリカ側 ソ連側 中共側
日本側 中国側

カナ カシ 品川 大川
神奈川 香川 利根川

信貨必罰 国有鉄道 天然記念物
専売公社

(説明) この方法は、運用する人の知識程度に比例して、類推のきく限り、いくらでも拡大適用ができます。反対語以外にも活用してください。
(練習) デコ(ボコ)、チグ(ハグ)、ムチャ(クチャ)、左顧(右盼)、最後(通牒)、大阪なら(大阪)、機械なら(機械)、なれば(なるほど)

(8) 特定の印をつけて省略するには、次のような方法を用います。

▽国名、官庁名、都道府県名、都市名、政党名、公共団体名等は、すべて思い出すのに都合のよい最初の音だけ書いて、その上の方に横に3ミリぐらいの直線を引いてあらわします。初めの音が同じで間違いやすいときは、もう一音つけたすか、点を打つか、面の少い漢字を使って区別します。本式の速記符号や速度化したカタカナが思い出せないときは、普通の字を書いておかまいません。これは応用の範囲が広く、効力絶大の便法ですから、特によく練習して実用化してください。

アジアはアの右肩に加点、アフリカはアにフを交差、アジア・アフリカ会議はアの右肩に点を打ってフをアに交差した後、その上方に横短直線を引く。すべてその伝で省略します。

石川県 福井県 長野県	東海地方 静岡県	山形県	東北地方 青森県 秋田県 岩手県
愛知県 岐阜県 三重県	大阪府 近畿地方	宮城県 福島県 関東地方 東京都	神奈川県
京都府 滋賀県 兵庫県	奈良県 和歌山県	山梨県 栃木県 茨城県	埼玉県 群馬県
中国地方 鳥根県 鳥取県	広島県 岡山県 山口県	千葉県 北信越地方 北陸地方	新潟県 富山県

検察庁 交通公社 電電公社	通信電話公社 電電公社	四国地方 徳島県	香川県 愛媛県 高知県
ニューヨーク ワシントン	ロンドン パリ	九州地方 福岡県	佐賀県 熊本県 長崎県
朝日新聞 朝日新聞社	毎日新聞 読売新聞	大分県 宮崎県	鹿児島県 北海道 北海道
鳩山内閣 吉田内閣	現内閣 前内閣	自由党 民主党 社会党	無所属 緑風会 無所属 クラブ

ソ 木 カ 大 文	ア イ イ イ い
総務省 外務省 大蔵省 文部省	アメリカ イギリス アルゼンチン インド
厚生省 農林省 通商産業省	オランダ オーストラリア オーストリア
労働省 建設省 人事院	ベルギー ベルギー
会計検査院 経済審議庁	スイス スペイン スウェーデン
印刷庁 東京都庁 中小企業庁	フランス ブラジル
防衛庁 警視庁	ソ連 ソビエト連邦 ロシア

上に横棒を引いただけでは思い出しにくいもの
 —つまり読みにくいものは、きわ立たせる意味
 で大きな円で包みます。長い音の言葉を簡略化す
 るのに便利です。この方法も適用の範囲は広大、
 ◎ 公定価格、○に進は進駐軍用も同じ用法。

(練習) アレキサンドリア、ドストイェフスキー

サ	ロ	リ	ア
サンフランシスコ	リオデジャネイロ	ネオデジャネイロ	ネオデジャネイロ
ロサンゼルス	ブエノスアイレス	ブエノスアイレス	ブエノスアイレス
フ	ル	ス	マ
チャーチル	ルーズベルト	スターリン	マルクス
ク	コ	ト	ト
インフレーション	デモンストレーション	デモンストレーション	デモンストレーション
コンクリート	コンクリート	コンクリート	コンクリート
シ	ロ	ク	ク
五カ条の御誓文	六大都市	九牛の一毛	十大政綱

(4) 寓意と暗示
 文字や符号を速く書くためには、画線を少くしたり、位置や前後関係を利用して省略したりすれば、ある程度目的を達しうるのでありますが、それだけではあらゆる言葉を簡略化することはできません。そこで、ほかに何か方法はないだろうかというので考え出されたのが寓意とか暗示とかいう間接表現法です。
 今まで説明した方法は、みな直接音韻をあらわす一つ一つの線や点があったのですが、寓意とか暗示とかいうのは、一つ一つの線条で音を表現するのではなく、全体としてのまとまった形で「あるもの」や「あること」を連想させる類推作用の法則です。知識の程度が進み、語彙が豊富になればなるほどこの方法は有効です。語法、語脈、語感も活用して次のように用います。

二本線 一本線 二本線 二本線 二本線
 日本 表日本 裏日本 北日本 西日本

鉄道 困る 困るう 当らずといえずとも遠からず
 困った 困るう

しめ うえ(ag nobo) うちアン
 した(sg kuda) ください

法律案 議案 成案 建議案 決議案

(説明) 上から順に——棒が二本だからニホンのラインをマークとしてつけているのを連想してください) 右はその変化と応用形。二段目の左端はレールが二本長く引いてあるから鉄道(これが短いと日本になるから注意)その右は小さな丸だからコマル。それが下ったり上ったりでコマッタ

コマロウ。右端は、小さな丸に当ってはいないが、遠く離れてもいないから「当らずといえども遠からず」。三段目の左端は昔から手紙などに使われているシメ。次には下にあるからシタ、下はまたサゲ、サガともクダとも読むから、下にルを書けばサゲル・サガル、クダル、サイを書けばクダサイ。またテ・タを下に書けば、前のテニヲハがライであるかガであるかによってサゲテ・サゲタ、サガッテ・サガッタと判読できるのです。この点、人間のアタマの働きは想像以上の力をもっていますから、ためしにやってみてごらん下さい。同様に、上にルを書けばアガルかノボル。テ・タを上に乗ければ、助詞(テニヲハ)のいかんでアゲテ・アガッテ、アゲタ・アガッタとちゃんと読めるから不思議、さらに上にマスを書けばアゲマス、下にサルを書けばクダサルと読めることは当然至極な論理の帰結だといえましょう。同じりくつで、ソノ

の内に点が打ってあればソノウチ、丸の内に点があればマルノウチ、山の内に点ならヤマノウチ、当分の内に点ならトープンノウチと読むことはもう小学生にもできるでしょう。マンジュウヤアンの内側にはアンがあるのを転用して、法律アン、議アン、成アン、建議アン、決議アン、原アン、懸アン、法アン……とはどうです。ふざけてゐるではありません。大まじめに点一つでこれらの案を全部間に合わせてしまおうというのですからスゴイでしょう。

そればかりではありません。下の例をごらんください。右の肩に点を打てばカタリ方リホーで、憲法、民法、商法、三法、六法、立法、なんでもこれで片づけられると聞けば、法科の学生ならずとも、書く手がある一本ふえたような気がしはしませんか。こういう方法は、くふうさえすれば、どんな専門的な部門にもみな適用できます。

かた ホー	新潟	山形	極東方面	施政方針	
憲法	民法	刑事訴訟法	民事訴訟法	国際公法	
立法	文法	労働法	経過法	成文法	
昭和	証明	消費	証拠	奨励金	

前の例の一番下は、もう説明しなくてもわかりますね。小さいからショーを音の方に転用してショワ、シューメイ(メで間に合わせる)、シヨート、シューコ、シューレイ(レで間に合わせ

る)。——これの適用範囲を拡張すれば、シューナン、シューコーといくらでも拡がりますが、そこまではあぶないから使いません。こういう法則はみな適用の限界があります。適用の範囲をむやみに拡大して行くと、書くのは書いたが読めないという現象が起ってきます。そこでここに例示したもののぐらゐに限定して使えば、すでに実験済みのものはかりですから、間違ひはありません。この法則はおもしろいので、とかく乱用されがちですが、行き過ぎにならないよう特に気をつけてくだ

一天俄かにかき曇り

大粒の雨がポツリポツリと落ちてきた。

X X X

チヨは ころには
ウッは であつた
ウッし 記が盛ん
ウッと 講談の速
ウッ結ぶ。 昔(明
ウッし。 治時代)、

おもしろい符号が使われていました。今でも語り草になつてゐるのは、上図のような符号です。まるで判じものですね、こうなるともう記音法とはいえなくなりませす。しかし、次のような程度であれば、まだ音との結びつきがあるので、暗示によつて判読することができます。

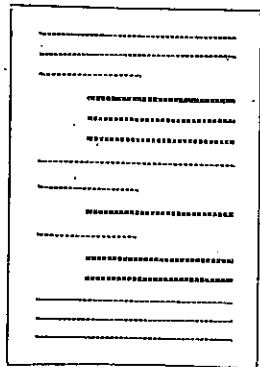
アセ97

アメリカにおいても、イギリスにおいても、フランスにおいても

国産の帽子、国産の洋服、国産のくつ。

オネスト・ジョンならオネスト・ジョン

一問一答で言葉のやりとりをするときは、一人の区別を書いているひまがありませんから、書き始めの位置とそのあとの続け方を次のように區別して人のかわつたことを暗示します。座談のよ



(5) 転換と同形

うに三人以上になれば番号がいろいろあります。

アイダ(間)をカンと書き、ヤブサカ(吝)をリンで代用すればウンと速く書けます。こういう方法もごく少数の言葉に限定して使えば大へん有効です。これは古く明治年間にも一部の実務家の間に行われていた実例がありますが、何でもこの式で適用範囲を拡大し過ぎると、某式のように非常に誤訳が多くなりますから、せいぜい十数語に限定して使ってください。実験によれば、前の二語のほか、カタリホー、ミナミリナン、クニニコ

ク、セメリセキ、ミナトリコーなどは間違ひなく読めます。

また方言を利用してエをイで代用することもできます。つまり、アエ、カエ、サエ……をアイ、カイ、サイで代用するのです。これは字に書くとき区別のできない地方もあるくらいですから、文法の知識さえハッキリしていれば、間違ひなく使えます。またシとスも共通に同じ形で書いても正しく読めます。ただ、知らない言葉や固有名詞には用いない方が安全です。

カ	カ	カ	カ
間(あいだ)	この間	間柄	間柄
ヤ	ヤ	ヤ	ヤ
やぶさか	大和国	南アメリカ	南アメリカ
ア	ア	ア	ア
あえ手	貯え	押え	押え
あえ相	え	え	え
言え	かえれば	言いかえれば	言いかえれば

さらに、進んで(特に使用度数の多い言葉に限り)語順を転換して書くとき非常にスピードの増す書き方があります。ただし、この辺から速度の關係で純粋な符号式でないときあまり効果がありませんが、参考として示しておきます。本職の速記者はこうまでして速度化に苦心しているものと実情を知っておいていただきたいのです。この辺がシロウトとクロウトのわかれ目になります

申し述べ	申し述べます
申し上げ	申し上げます
申し上げる	
工場	生産工場

同じに書いて違って読める 同形異読が可能
なところを方式としての真面目が発揮されるので

(6) 数字の書き方

すが、あまり専門的になり過ぎて、皆さんには迷惑かもしれませんから、この辺で話をもとにしましょう。

数字は算用数字(アラビア数字)をそのまま使えます。その方が有利だからです。武政太郎博士の「漢数字とアラビア数字の書記時間の比較研究」(「倫理教育研究」第六巻第四冊、昭2・10月)という報告によると、「漢数字よりもアラビア数字が速く書けるということが明かになった」そう「平均一字の落筆と空筆時間を比較してみると、平均一字の落筆時間においては、漢数字とアラビア数字の書記時間は殆ど差がない。しかるに、平均一字の空筆時間には両者の書記時間に著しい差がある。すなわち落筆においては、漢数字の平均一字の書記時間は三四〇・三シグマであり、

アラビア数字のそれは三三九・八シグマであつて、その差は僅かに〇・五シグマ、すなわち一分の一秒の差にすぎない。それゆえ一〇字を書いても、両者の間には五シグマの差を生ずるだけである。それなのに空筆においては、漢数字の平均一字の空筆時間は二〇八・五シグマであるのに、アラビア数字のそれは僅かに九〇・〇シグマである。換言すれば、アラビア数字を書くときには一字における画と画との間の平均ポーズの所要時間が漢数字のそれよりも僅少で、漢数字の所要時間の四割三分にすぎない」という事実を明らかにされています。これは注目に値する研究で、速記専門家のいわゆる「離筆の不利」が実験的に証明されたわけですから、つまり漢数字とアラビア数字で書写する時間を比較すると、ペンが紙についている時間はほとんど差がないのに、一字から一字へ書き移る時間はアラビア数字（算用数字）の方が

はるかに短いというのです。

また石井庄司氏の実験によると、人によって落筆時間に差ができるのは、姿勢や鉛筆の持ち方にもよるといふことですから、これから数字の書き方を練習するかたは、その点特に注意してください。鉛筆はごく軽く持って、下の紙にあとがつかない程度に軽く動かすのがコツです。

具体的な書き方は次のとおりで、0から9までは普通の算用数字そのままですが、十百千万億の位どりに速度化のカギがあるわけです。これは他の符号と切り離しても使えますから、方式や符号のいかんにかかわらず、どしどし利用してスピード・アップをしてください。メモにはことに便利です。

(説明) 十・百・千・万・十万・百万・千万・億・兆などの単位は、符号を使った方が0をいくつも書かないですみますから便利ですが、ケタがと

一位 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 十位 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 百位 1 2 3 4 5 6 7 8 9
百 一百
 千位 1 2 3 4 5 6 7 8 9
千 一千
 万位 1 2 3 4 5 6 7 8 9
万 一万

十万位 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 百万位 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 千万位 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 億位 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 兆位 1 2 3 4 5 6 7 8 9

ばないでズッと続いているときは、一々単位符号をつけなくて普通の書き方をした方が有利です。四段目の億位は、3ミリぐらいの斜短直線を交差させるのが原則ですが、交差させにくいときは、一億、四億、七億、九億のように、左下部前方に斜短直線を並行に接近させて書きます。兆は音が同じですから面積や距離の単位の町にも使います。そのときは前後関係で判断するのです。円(ヒ

123 365 1955
 48 66 787 12
 108 606 千四十七 十万円
 69 8 37
 百万円 千万円 八千万円 三百億円
 4.7 2~2
 一兆円のワケ 千円ないし二千円

ン)は使用度数が多いので符号を用いた方が有利です。

▽年月日の書き方 — 何年何月何日、何月何日と続いているときまたは年号のあるときは、数字だけを次のように書きます。年、月、日だけ独立して用いられるときの書き方は次のとおりです。

3/9/1 226 1 1231
 二月二十六日 一月一日 十二月三十一日
 三十年九月十日
 137 大129 23815
 明治三十七、八年 昭和三十年八月十五日
 3 2 9 11
 三年 九月 五日 十日
 3 9 9- 11-
 三カ年 九カ月 五日まで 十日間

▽分数・小数・序数の書き方 — 分数は、分母と分子の間の横棒を省略して数字だけ書きます。小数はコンマといってもテンといっても同じ — 普通の書き方をします。序数の第(ダイ)はすべて点であらわします。ただ、小数のときの点は下の方に、ダイ(第・大・台・代など)のときは中央基本線のまん中に点を打ちます。

1 2 1 5
 2 3 1 4
 二分の一 三分の二 十分の一 百分の五
 6 1 1 1
 千分の六 五万分の一 十万分の一 百万分の一
 0.5 3.1416 1 2
 第一 第二
 第三次 第二次
 第二次大戦 第三次 第十三条
 第二次世界大戦

▽その他の数を中心にした書き方 — ある数とその一つ上の数を続けて言われたときは、右の肩に加点、その次の数を続けて書きます。十の肩に3ミリぐらいの横線を引きます。交差させれば、接着させればチェーンです。

1 2 3 4 5 6
 一、二 三、四 五、六
 7 8 9 10 11
 七、八 九、十 十一、十二
 12 33 1 9
 十二、三、四 三十三、三十四、三十五 一、三 四六月
 909 3 8 3
 四割九分 三分五厘 三週間
 九分九厘

交差させれば「余」または「ツ」「ブ」をあら
 わすことができます。一つ、二つ、三つ……はす
 べて数字の線のまん中に点を打ち、その点の位置
 に次にくる音の記号を交差します。年度はいつも
 数字の上に点を打ち、助詞は点の位置から書き始
 めます。米穀年度、肥料年度、会計年度、昨年度、
 本年度、今年度、明年度なども、前の名詞の上の
 方に加点することによってあらわします。

午前または午後何時何分は、横に引いた直線の
 上または下に数字だけを次の例のように書きま
 す。時、分に相当する記号はなくても類推して読
 めます。あぶないと思うときは、時と分の間に点
 を打てばいいでしょう。

4. 運用の実例

では、以上説明した各種の運用法則(あ
 の手この手)を総合的に適用すると、どう
 いうことになるか——その実例を文字式と
 符号式の両方の速記法で、お目にかけまし
 ゃう。既にある方式の符号をマスターして
 いる人でも、知らない外国語などを速記す
 るときは、この文字式で書いた方が読み誤
 りがなくて有利ですから活用してください。
 い。

文字式から符号式へ移ることも容易にで
 きます。それは文字式と符号式との間に有
 機的なつながりをもたせて、同一原理、同
 一法則によって運用されているからです。
 後に掲げている使用度教表は、その関連性
 を具体的に示しています。

衆議院の条約特別委員会は、きょう午後最後の委員会を
 開いて、各党の代表が平和条約と安全保障条約について討
 論しました。

(文字式)

(符号式)

電産がきょうの電源ストライキを一応中止しました。電産では、常任委員会で検討した結果、けさ8時から続けている40時間連続の電源ストライキを一応延期することによって、全国各支部に指令しました。

エセガキョウ - エセキョウ/Φ ✓

(文字式)

エセキョウ = α - エセキョウ | 毎毎毎毎毎毎

エセキョウ - エセキョウ/Φ = 毎毎毎毎

セセキョウ = W ✓

(符号式)

エセキョウ

エセキョウ → エセキョウ

エセキョウ → エセキョウ

日本航空では、飛行機の数がそろいましたので、来月1日からは、東京と札幌の間に1往復ふやし、更に4月1日からは、東京と福岡の間にも1往復ふやすことにしました。

ニエキョウ = エセキョウ/Φ ✓

(文字式)

エセキョウ = 100% エセキョウ

エセキョウ = 100% エセキョウ ✓

(符号式)

エセキョウ → エセキョウ

エセキョウ → エセキョウ

およそ経済政策の目標が、国民所得を増加させ雇用を増加させる、つまり経済の成長をはかることではなければならないことは、議論の余地のないところである。しかしその目標の達成を急ぐ余り、通貨価値の安定が阻害され、国際収支の均衡が維持できなくなるようでは、結局その目標自体が達成されないことになる。

およそ経済政策の目標が、国民所得を増加させ雇用を増加させる、つまり経済の成長をはかることではなければならないことは、議論の余地のないところである。しかしその目標の達成を急ぐ余り、通貨価値の安定が阻害され、国際収支の均衡が維持できなくなるようでは、結局その目標自体が達成されないことになる。

(文字式)

およそ経済政策の目標が、国民所得を増加させ雇用を増加させる、つまり経済の成長をはかることではなければならないことは、議論の余地のないところである。しかしその目標の達成を急ぐ余り、通貨価値の安定が阻害され、国際収支の均衡が維持できなくなるようでは、結局その目標自体が達成されないことになる。

(符号式)

わが国は古来、諸外国の文化を摂取してきたが、それに伴って、日本語とは系統のちがった言語・文字に接する機会が多かった。そして古くは中国、近くはヨーロッパ・アメリカなどの言語・文字を探り入れた結果、ついに今日の複雑多様な国語が形成された。こうして国語問題は、わが国の文化政策としてどうしても避けることのできない重大問題になってきたのである。

わが国は古来、諸外国の文化を摂取してきたが、それに伴って、日本語とは系統のちがった言語・文字に接する機会が多かった。そして古くは中国、近くはヨーロッパ・アメリカなどの言語・文字を探り入れた結果、ついに今日の複雑多様な国語が形成された。こうして国語問題は、わが国の文化政策としてどうしても避けることのできない重大問題になってきたのである。

(文字式)

わが国は古来、諸外国の文化を摂取してきたが、それに伴って、日本語とは系統のちがった言語・文字に接する機会が多かった。そして古くは中国、近くはヨーロッパ・アメリカなどの言語・文字を探り入れた結果、ついに今日の複雑多様な国語が形成された。こうして国語問題は、わが国の文化政策としてどうしても避けることのできない重大問題になってきたのである。

(符号式)

最初にもお断りしたように、文字式は習いやすく入りやすいかわりに、速度の方では一定の限界があります。この上さらに速度化を望むことは、

「入門」の段階では無理です。それは結局専門速記士の仕事になってきます。速記を専門の職業とすることになれば、それはもう一般のシロウトの速記ではなくなりますから、この本の目的とはちがってきます。それで私の速記の手引きも、一応この辺で暮にしたいと思いますが、その前に、どんな速記の方式でも、「これだけの言葉は必ず簡単に書けるようになっていなければならぬ」という言葉の表を掲げておきますから、余白に自分の使っている（または使おうと思っている）符号を書き込んで、比較研究の上、字書き作業を、手書きよく処理して、大いに能率をあげてください。ここに紹介したもの以外にも自分でいいと思う符号があったら、それもととして使ってみて、速記

のおもしろさを存分に味わっていただきたいと思
います。

5. 使用度数順に 並べた言葉の表

これは国立国語研究所の「語彙調査」（現代新聞用語の一例）の資料を、発音の同じものは品詞や用途の区別をしないで使用度数の順に並べたもので
す。

この表は、朝日新聞東京本社最終版の昭和二十四年六月一日から六月三十日までの一カ月間の全紙面（ただし、欄外の文字、広告、株式、ラジオ番組、スポーツその他催し物の通告等の欄や各種の表などは除外）から採集したもので、そのうち度数九七以上の三七四語だけのせてあります。これだけでも簡単に書けるようになれば、普通の筆記に比べて何倍か速くなるはずです。重点的に練習する為此の表を最大限に活用してください。

順位	語	使用 度数	(文字式)(原形式)	自 式	順位	語	使用 度数	(文字式)(原形式)	自 式
1	する	10816	S C		13	よう	1165	ヨー	
2	ある	4106	J っ		14	による	1070	ニ	
3	いる	3996	J 。		15	……会	1023	フ	
4	こと	2574	T ー		16	……者	1004	ク	
5	なる	2159	J ー		17	委員	985	ク	
6	いう	2000	J ー		18	問題	960	E. ン	
7	もの	1483	E ー ー		19	について	934	E ー	
8	ない	1387	J っ っ		20	など	867	ク	
9	この	1385	ー ー		21	ため	847	ク	
10	……的	1375	ク 。		22	して	842	ク ー	
11	これ	1283	ク 。		23	に対する	823	E 。	
12	その	1270	ー ー		24	……発	772	ク ー	

順位	種	使用 度数	(文字式) (符号式)	自 式	順位	種	使用 度数	(文字式) (符号式)	自 式
25	政府	771	セ		37	次	537	セ	
26	まで	765	-		38	経済	536	ケ	
27	……氏	726	シ		39	また	528	又	
28	第……	667	.		40	……側	512	…	
29	会議	668	キ		41	……中	485	キ	
30	おこなう	661	オ		42	開く	444	ケ	
31	みる	618	ミ		43	労働	443	ロ	
32	それ	610	ソ		44	……てくる	428	ソ	
33	……党	601	ト		45	思ふ	426	ト	
34	スト	595	シ		46	思ふ	425	.	
35	とこる(御)	575	ト		47	出す(……たす)	420	ダ	
36	できる	546	ケ		48	……区	399	ク	
			以下略						

49	午後	……	……		62	大会	……		
50	同……	……	……		63	計画	……		
51	……長	……	……		64	当局	……		
52	組合	……	……		65	および	……		
53	代表	……	……		66	発表	……		
54	今	……	……		67	学生	……		
55	関係	……	……		68	貿易	……		
56	新	……	……		69	約……	……		
57	……ら	……	……		70	地方	……		
58	だけ	……	……		71	……省	……		
59	決定	……	……		72	……員	……		
60	……法	……	……		73	外相	……		
61	しかし	……	……		74	持つ	……		

順位	語	(文字式) (符号式)	自式	順位	語	(文字式) (符号式)	自式
75	整理	セロ		87	場合	ハバ	
76	とろ	ト		38	引揚	ヒキ	
77	反対	ハバ		86	考える	カ	
78	現在	イザ		90	政策	セイ	
79	国会	コク		91	お……	オ	
80	国民	コク		92	各……	カ	
81	他	カ		93	全国	セ	
82	資金	シ		94	闘争	トウ	
83	国鉄	コク		95	結果	ケ	
84	政治	セイ		96	さらに	サ	
85	私	シ		97	……化	カ	
86	必要	ヒ		98	世界	セ	

99	……局	キョク		112	今後	コノ	
100	……人	ヒト		113	……ころ	コ	
101	に關する	キ		114	ておる	オ	
102	特約	キヤク		115	語る	カダ	
103	勞組	ロウ		116	國際	コク	
104	教育	キョウ		117	輸出	シュツ	
105	でる	デ		118	午前	……	
106	なお	ナオ		119	主義	シ	
107	……部	ブ		120	あいだ	カ	
108	企業	キギヤ		121	要求	ヨウ	
109	入る	ハク		122	以上	イ	
110	点	テン		123	……院	イ	
111	協定	キョウテイ		124	ほか	ホカ	

順位	語	(文字式)	(符号式)	自式	順位	語	(文字式)	(符号式)	自式
125	支部	sh	p		137	とまり	o	o	
127	産業	sa)		138	会社	o	o	
127	時	ke	r		139	……県	ka	o	
129	生産	se	u		140	……築	ka	o	
129	長官	cho	o		141	引き……	ka	o	
130	運動	u	o		142	意見	ka	o	
131	うち	u	o		143	行政	ka	o	
132	民主	u	o		144	大学	ka	o	
133	生活	se	o		145	我々	ka	o	
134	記者	ka	o		146	得る	ka	o	
135	団体	ka	o		147	受ける	ka	o	
136	対策	ka	o		148	……後	ka	o	

149	なか	na	o		162	……町	na	o	
150	方針	ka	o		163	みとめる	ka	o	
151	調査	ka	o		164	機関	ka	o	
152	まだ	ma	o		165	援助	ka	o	
153	で行く	ka	o		166	……間(空欄)	ka	o	
154	……軍	ka	o		167	……金	ka	o	
155	不……	ka	o		168	……費	ka	o	
156	わけ	ka	o		169	すでに	ka	o	
157	事件	ka	o		170	特電	ka	o	
158	交渉	ka	o		171	再……	ka	o	
159	最近	ka	o		172	首相	ka	o	
160	ともし	ka	o		173	新聞	ka	o	
161	中央	ka	o		174	昨年	ka	o	

順位	語	(文字式) (符号式)	自式	順位	語	(文字式) (符号式)	自式
175	ほど	ホ ○		187	何	ナ — ○	
176	態度	キ 、 ?		188	銀行	キ — ○	
177	……団	キ 、 		189	一般	キ 、 ○	
178	きめる	キ 、 ○		190	そろ	ソ 、 —	
179	やる	ヤ 、 /		191	とくに	ト 、 キ	
180	いい	イ 、 ○		192	自由	ジ 、 ヤ	
181	明らか	カ 、 ○		193	つくる	ク 、 ○	
182	人	ヒ 、 、		194	……斤	シ 、 ○	
183	前	マ 、 、		195	……制	セ 、)	
184	協議	ギ 、 、		196	ちかい	チ 、 ○	
185	……たち	チ 、 、		197	学校	ガ 、 ○	
186	……さん	サ 、 、		198	実施	シ 、 、	

199	博士	シ 、 ○		212	社会	シ 、 —	
200	専務	シ 、 ○		213	電車	シ 、 、	
201	…上げる	ア 、 ○		214	講和	コ 、 、	
202	多い	オ 、 、		215	失業	シ 、 、	
203	つよい	イ 、 、		216	本部	ホ 、 、	
204	一部	イ 、 、		217	……糖	シ 、 —	
205	予定	イ 、 、		218	示す	シ 、 、	
206	参加	サ 、 、		219	こんど	コ 、 、	
207	予算	サ 、 、		220	工場	コ 、 、	
208	処分	サ 、 、		221	方	ホ 、 、	
209	…こと	コ 、 、		222	金融	キ 、 、	
210	…間(期間)	カ 、 —		223	検討	ケン 、 、	
211	大きな	オ 、 、		224	再開	カ 、 、	

題位	語	(文字式)	(符号式)	自式	題位	語	(文字式)	(符号式)	自式
225	わかる	ワカ	○		227	……官	カ	—	
226	おたえる	オタ	○		228	情勢	セイ	○	
227	における	オケ	○		239	夜	ヨ	○	
228	くる	ク	○		240	外国	コク	○	
229	選挙	セ	○		241	……性	セイ	○	
230	管理	カ	○		242	……税	ゼ	○	
231	改正	カ	○		243	行く	キ	○	
232	……市	シ	○		244	談	タン	○	
233	……線	セン	○		245	議員	ギ	○	
234	きく	キ	○		246	対日	テイ	○	
235	において	オ	○		247	述べる	ショ	○	
236	……得る	ウ	○		248	事業	ジ	○	

249	占領	セ	○		262	元……	ゲン	○	
250	努力	リ	○		263	事實	ジ	○	
251	まづ	マ	○		264	うえ	ウ	○	
252	輸入	シュ	○		265	……派	ハ	○	
253	見	ミ	○		266	……分	ブン	○	
254	……内	ナイ	○		267	警察	セイ	○	
255	解決	ケ	○		268	審議	シ	○	
256	両……	リ	○		269	人民	ジン	○	
257	都	ト	○		270	指令	セイ	○	
258	拒否	キ	○		271	事掌	シ	○	
259	ぐらい	グ	○		272	一方	ヒ	○	
260	内閣	ナイ	○		273	課長	カ	○	
261	副……	フ	○		274	まま	マ	○	

順位	語	(文字式)	(特号式)	自式	順位	語	(文字式)	(特号式)	自式
275	責任	せきにん	せきん		287	当る	あはる	あはる	
276	手	て	て		288	期待	きたい	たい	
277	平和	へい	へい		289	さる	さる		
278	はじめ	はじめ	はじめ		290	数……	かず……		
279	非常	ひじょう	ひじょう		291	理由	りゆう		
280	協力	きょうりょく	きょうりょく		292	研究	けんきゅう		
281	復興	ふくげい	ふくげい		293	ここ	ここ		
282	工業	こうぎょう	こうぎょう		294	活動	かつどう		
283	総裁	そうざい	そうざい		295	新しい	あたら		
284	のち	のち	のち		296	知る	しる		
285	今日	こんにち	こんにち		297	準備	じゅんび		
286	……国	……こく	……こく		298	列車	れっせん		

299	以来	いらい	いらい		312	今回	こんかい		
300	主張	しゆげん	しゆげん		313	報告	ほうこく		
301	朝	あさ	あさ		314	財政	ざいせい		
302	臨時	りんじ	りんじ		315	会見	かいけん		
303	国	こく	こく		316	相当	さうたう		
304	選手	せんしゆ	せんしゆ		317	裁判	さいばん		
305	……丸	……まる	……まる		318	懸ける	かか		
306	業者	ぎやう	ぎやう		319	……家	……け		
307	記録	きらく	きらく		320	よい	よい		
308	配給	はいきつ	はいきつ		321	あげる	あ		
309	中心	ちゅうしん	ちゅうしん		322	本社	ほん		
310	提案	ていあん	ていあん		323	方法	はうほう		
311	話	わ	わ		324	組織	そくし		

順位	語	(文字式)	(符号式)	自式	順位	語	(文字式)	(符号式)	自式
325	公共	コキョウ	ノ		337	年度	ネンズ	ノ	
326	教授	ノ		338	制限	セズ	ノ		
327	程度	ノ		339	言明	コトワタ	ノ		
328	適合	ノ		340	こゝ	コ	ノ		
329	価格	ノ		341	にわたる	ニワタル	ノ		
330	知事	ノ		342	措置	チジ	ノ		
331	承認	ノ		343	同日	ツク	ノ		
332	決議	ノ		344	……品	モノ	ノ		
333	制度	ノ		345	違反	ノ			
334	ふくむ	ノ		346	彼	ノ			
335	わが	ノ		347	運転	ノ			
336	全……	ノ		348	声明	ノ			

349	局長	キョウチヤウ	ノ		362	許可	キョカ	ノ	
350	学部	ガクブ	ノ		363	代理	ダイリ	ノ	
351	(ト) Uas	ウエ	ノ		364	……者	モノ	ノ	
352	……上	ウヘ	ノ		365	意味	イミ	ノ	
353	旨	ノ		366	議長	ギヤウシヤ	ノ		
354	鉄道	ノ		367	諸国	ノ			
355	国家	ノ		368	ばかり	ノ			
356	絵……	ノ		369	方面	ノ			
357	提出	ノ		370	最高	ノ			
358	促進	ノ		371	条約	ノ			
359	次官	ノ		372	自分	ノ			
360	規定	ノ		373	重要	ノ			
361	または	ノ		374	正式	ノ			

使用度数が九七以下のためこの表にもれたものは、もちろんたくさんありますが、それはこの表と前に説明した各音記法の原則や運用の法則から類推して活用してください。国立国語研究所報告として昭和二十八年五月に出版された「現代語の基礎調査——婦人雑誌の用語（秀美出版社）も使用度数の研究には非常にいい本ですから、進んで研究したい人はその方も参照してください。

この表を見て特に感ずることは、スル・アル・イル・ナルなどのR尾音語が圧倒的に多いということと、コト、モノ、コノ、コレ、ヨウなどがどの記事にもかたよりなく非常に多く用いられているということとです。またヨウ（ダ）、ナド、タメ、マデ、ダケ、トコロなども多いことが目立ちます。これらは最も基本的な用語とっていいものから、特に簡単に書けるようにしておく必要があります。

三、速記者を志す人へ

最近「速記者になりたい」という人が急にふえてきたようです。何かしつかりした技術を身につけて、失業のない、安定した生活を営みたいという、堅実な願望のあらわれだとすれば、けっこうなことですが……。速記者は収入がいい、仕事も楽だ、第一、見た目がきれいでインテリらしく、文化的なおいもする、机の上でチョコチョコと手を動かすだけですから、少しぐらいからだが弱くてもつとまるだろう、手先の器用な人、ことに女性には一番適した職業……などと思つて、速記者になろうというのなら、とんでもない見当はずれですね。現実を決してそんな甘いものではない、ということをおまづハッキリと知っておいていただきたいのです。

速記をする人は、その向き向きによって使用度数の多い言葉がちがってきますから、その点に気をつけて、自分の扱う部門で多く用いられる言葉ほど簡単に速く書けるようにならねばならぬ研究をしておけば、それだけ速記がしやすくなります。それが速記をうまくするコツでもあるわけです。皆さんの今後の御勉強と成果を期待します。

これで短期速習・応用自在の習いやすく・読みやすいアマチュア用文字式速記法の説明を終わります。さらに進んで専門速記者用の符号式超高速速記法を習いたい人は、次の「速記士を志す人へ」をお読みください。

文字と言葉を扱うことを専門の職業としている言語技術者——速記士への道は、このコースを選ぶことが、最も安全で効果のある近道です。それは単に符号とその運用技術の面だけでなく、日本語とその表現技術全体の学習を意味しています。

1. 速記者の生活

速記者の生活は実に不規則です。きまった時間に出勤して、きまった時間に家へ帰ることなんかめったにありません。早番、遅番、夜勤、宿直、徹夜の仕事もめずらしくないのです。昼飯や休みの時間も相手しだいであつとんでしまいます。手洗いにゆくひまもおしいほど忙しいこともありまふ。からだの弱い人など、一ぺんにまいってしまふでしょう。アタマも使えば手も使う、からだ全体で仕事にぶつかっている、鉛筆を握った重労働者、というのが速記者の実感です。直接現場の声を聞いてみましょう。

△「朝日」の場合「大カメラ？大きな亀か」「そ

うだ大きな鐘だ」「鶴亀の亀だね」「ウンつり鐘の鐘だ」「もう一ぺん念を押すけど、動物のカメだね」「大仏の鐘サ」「スズデのことで照宮様に奈良二月堂で大カメ(亀)を御覧に入れようとした巨君も、今では中堅部員として活躍している。朝日では七時間労働拘束だが、四六時中一人の速記者もいないという時間はないわけで、朝出あり、昼出あり、夕出あり、さらに当直があるというふうに、出勤時間も三〜四段階に分れている。朝九時半ごろから午後三時ごろまでは夕刊原稿、午後一時ごろまでは地方版原稿、この間本紙朝刊用記事が殺到し、これが夜中の三時ごろまで流れてくる。もちろん突発事件の場合は全員出社して報道網を守り、より正確、より迅速な速記使命が遂行される。風水害の時など、十五時間ないし十八時間もクギづけされ、選挙の開票の時などは、全員二昼夜も徹夜する。こういう時はたいてい現地出

張が行われる。現地で特派員から生々しい記事速記して本社へ電話で送る。国会へも出張する。また座談会でも、即日掲載となると、電話で受稿中でも五分間交替で狩り立てられ、手持原稿と座談会原稿を書きながら忙しきは、必死の活躍ともいえよう。一日一人の受稿量は、少くとも三段(約三百行)、多いときは六段、平均四段というところ。

△「毎日」の場合 地方台(支局との間の専用電話)では、主要通信部との間の予約電話や申込電話も合せて全受稿量は五十版にも及ぶ各地方版のスペースの七、八割を埋め、本紙の政治・経済・社会・運動の相当部分を占めるから、速記者の大半がここで働いている。大阪台(東京・大阪・名古屋・門司をつなぐ専用電話)では、東京からの送稿(政治・経済・運動・社会・外電)が主である。ヘル(大阪台の専用電話線を共用)の操作、運用——テープに書き込まれた文字と原文との照

合、校閲も速記者の仕事。このほか国会開会中はその方へも毎日教名出勤し、週刊誌や本紙の座談会速記も受持つ。また地方で催される各種の運動競技大会とか、災害とか突発事件の現場へ、記事の中継や電話送稿のために出張するなど、一口に新聞速記といっても、その活動分野は実に多方面にわたっている。勤務体制は、日勤と宿直に二大別され、日勤は九時半の早出から午後三時出までを五、六段階に細分された時差出勤で、公休何人、早出何人、何時出何人、宿直何人(現在は三人)という区分があり、一方各人は、今日は何時出、明日は何時出と適当に組合わされた勤務をする。もちろん忙しい時は超過勤務もあるし、ことに宿直の場合は、最終版の締切の関係で深夜の二時、三時まで起きていることを覚悟しなければならぬ。

△「読売」の場合 「前橋からトキョウ、前

橋からトキョウ」「はい東京(忙しい時は「おう」だけになる)」「それじゃ一本たのむよ」

四時から七時ごろまでの多忙時は、あっちでリンリン、こっちでリンリン、頭の上で「札幌からトキョウ」「名古屋からトキョウ」その騒音! その活気! ある人にとっては神経衰弱の原因となり、ある人にとっては自己滅却の道となる。

速記課の仕事は普通朝九時から開始され、明け方の二時ごろ終る。突発事故が起ればいつでも二十四時間勤務の体制に切替えられるが、大体八時間労働を標準に朝十時の出番なら夕方六時まで勤めるといったぐあいに各自の出番表が課長(速記者出身)の手によってつくられる。宿直は月に一回か二回まわってくる程だ。実際労働量は日によって違うが、大体平均してみると、一日に、三十分ないし四十分速記して、それを五倍以内の時間で反訳し、一万字前後の字を書いている。反訳し

た原稿は速記主任（六人）の手もとに渡し、誤字、当用漢字を中心に検討され「提稿簿」に記入、同じ地方部の連絡係（デスク）にまわされ、そこで本版・県版の調整分類を行い、本版は社会部、整理部等へ、県版は地方部整理へ運ばれ、正確を期す仕組み。また手配、特報等が地方部長、デスク、編集局部から出されるが、その大部分は速記課が各地方支局へ渡すことになっている。

以上が職制上の執務内容であるが、このほか政治部経済部等で催す各種の座談会や読売主催の講演会などの速記を受持ち、また国会が開幕されると予算委員会を中心とした議事速記に従事する人がある。あるいは国体、駅伝、引揚げなどの際、現地に出張して原稿の吹込み（送稿）をやって電話連絡の能率向上に一役買っている。

それにしても読売の最も特色とするのはスポーツ記事であろう。シャイアンツの読売として全国

も容易なことではない。しかもその中にはドムニッキーやフリゲート艦から「君の名は」にいたるまで出てくるのだから、毎日の新聞や雑誌などに目を通していないととんだ恥をかくことになる。とにかくこうやって十分間の速記が終って速記者が議場から姿を消すと、世間一般から仕事が終わったと見られるところに速記者の悲劇があるらしい。

実はこれが大へんなのだ。たいてい、速記時間の五、六倍を要する反訳の仕事が待っている。ここで、きめられた文字づかいと正しい文字で、符号化された専門語や難解な漢語・外国語、それに保証と保障、更生と厚生などの同音異義語などを誤りなく漢字かなまじり文に直す。ときには発音者に問い合わせたり、言い違いを訂正してやったりもする。こうして主副二人が原稿を書き、点検して、初めて速記者の手から仕事は離れるわけである。したがってこの過程で相当の国語

小学校の児童にも名だたるように、野球を始め各種スポーツへの関心は読売社員の必須条件としてもよくくだらぬ。毎年行われる国民体育大会はその集中的表現であり、お祭騒ぎである。新聞社のお祭とは、社の有する全機能が徹底的に動員され、最も多忙になることだ。総選挙のときもそう。この多忙時は我を忘れる楽しみと悲しみを味わうときである。（以上三紙とも昭29・1「乗友」12号より要約転載）

△国会の場合 衆参両院で政府与党と野党との間に論戦が交えられるとき、影の形に添うように必ず速記者の姿が見られる。主と副と二人一組の速記者は、順番に各種の委員会や本会議に出て、十分間ずつ速記を担当する。議場では速記者は、最近ますます専門化の度を加えてきた質疑応答を忠実に追いかける。全国各地のお国なまりでまくしたてる早口の議員の発言を速記するのは必ずし

力や多方面の知識が必要になる。

職業の性質からか、あるいは国会という職場の特質か、両院の速記者の生活は、どうしても不規則にならざるを得ない。深夜まで待機の姿勢で待たされることもあるし、食事をするひまもなく速記をし、その原本が反訳できないまま一週間分もたまることもある。したがってこの仕事は、からだの弱いものにも勤まるような軽作業ではない。速記者の仕事はではない。むしろ脇役的な存在である。しかしその仕事の中にもまた人知れぬ喜びがあるのだ。（「高校時代」昭30・6月号）

△自営速記者の場合 私どもはN速記学校を半年で出しましたが、とても半年では速記はできません。それで大体一年以上お持ちして、それから自分で実習するわけですけれども、初めはなかなかうまく行かないのです。二年ぐらいたちまさんと一人前にはなれません。ですから始めてから大体

一人前になるのには三、四年くらいかかります。ですからすぐ飛びついて六箇月くらいで、できると思っておいでになる方がいらっしやると思いませんけれども、とても、とても――。

私どもは、ひどいときになりますと、午前中には科学関係の速記をとり、午後からは組合の速記をとり、晚には座談会をというふうに、いろいろなんです。ですからそのたびに頭の切りかえがなかなかできません。それに仕事というのが、雑誌社の座談会なんかですと、やはり一晩くらいであげなければならぬときがあるのです。二時間、三時間の速記を。それで徹夜なんかしましてやるわけです。今私の方では助手の方がたくさんいらっしやるものですから、相当無理な仕事でも、皆さんわけ合せてやってしまいますから。一日に四時間や五時間の仕事でしたら、あくる日まで間に合う。そういうふうにやっております。ですか

る八時間ないし十数時間の文字書き作業(反訳)に対する謝金だとしたら、別にボロイものでもなんでもないでしょう。速記料には一割の税金がかかって源泉(支払場所)で差引かれ、あとまた勤労所得で総合課税されるのです。それに交通費とか、鉛筆や速記用紙・原稿用紙の代金、参考書等の費用、なども必要経費として見なければなりません。手取二千元としても、毎日速記の需要があるわけではありません。速記をしに行く日、家で反訳(文字化)する日、わからない箇所を調査する日、でき上った速記原稿を届けに行く日などを考えると、一時間の速記を完成して料金を受取るまでには平均二、三日はかかります。そうすると月に十時間か十五時間マルマル一時間二千元の割で入ったとしても一月に二万円か三万円です。そのくらの収入を得る職業なら世の中にはザラにあるでしょう。別に速記だけがボロイことをし

ら一人でも欠けますと、やっぱり原稿ができ上らないわけですね。ですからみんなが協力して、その人柄ということがやはり仕事を進めて行くコツであるということによっております。(昭29・1・31NHK第二放送「勤労婦人の時間」に放送されたもの要旨)

2・速記料と速記者の待遇

「一時間二千五百円」(東京)とか「三千円」(大阪)とかいう話を聞くと、速記とはボロイ商売だなとだれもが一応は思うらしい。そんなボロイものうけのできるものが今どこに転がっているものかどうか――おかしいゾと考えてみるのが常識というものでしょう。なるほど、一時間二千五百円とか三千円とかいう計算はウソではないにしても、それは一時間で終ってしまう仕事に対して払われる報酬ではなくて、一時間の速記から始ま

ているのでもなんでもありません。一時間の速記を普通文字に書き直すと一万四千字から一万六千字、早口の人の速記だと二万字近くもあります。一万字以上の原稿を毎日続けて何日休まずに書けるか、ためしにやってみれば、それが不当な料金でも何でもないことがよくわかるでしょう。しかもそれはちゃんとでき上っている文章を書き写すのではなく、同音語、同義語、外国語、外来語、地名、人名、専門語(術語)、俗語、方言などの入りまじったものを、ものすごい速さで符号で書き取ってあとで判読するのです。一時間のもものを反訳するのに、二日も三日もかかるとしたら、二千数百円の手取りがあっても、日割計算をすれば千円以下ということになるでしょう。

速記料は、明治二十四年に一時間一元五十銭、同二十九年に二元、同四十年ごろ三元になり、第一次世界大戦後、大正九年ごろ八円になり、その

いといえるようです。もちろん、その人に天分があつて熱心に努力さえすれば、ものにならぬことはありませんが、さて就職という段になると、この職場でも、二十五歳以上の人は抜にくいのと初任給の格づけの関係があつて、よほどすぐれた技術の持ち主でない限り、まずあまり歓迎はされないでしょう。将来就職の機会に恵まれなるとなると、せっかくの努力もむだになるわけですから、速記者にならうとする人は、年齢という条件は、非常にきびしいものであることをまず覚悟すべきでしょう。「自分だけは例外だ」と考えないで、一般的に成功の確率の多い方に職業の選択はされるのが賢明というものです。

男女の別は、速記学習上の条件としては、何も優劣はありません。男子だから、女子だからという理由は一つもなく、素質(適性)や学力、努力の程度に個人的な差があるというだけです。た

だ、女子は、就職という点になると、新聞や雑誌で書き立てているほど容易なものではなく、まず男子の何十分の一しかチャンスがない、それほど女性の速記者に対する需要は少ないのだという事実だけはぜひ知っておいてください。それは女性が速記に向かないからではなく、雇う方の側で女性の速記者とは契約をしたがらないというだけです。そこに社会的な問題があるわけです。それは技術面の問題ではなく、経済的な面、または人事管理の面からくる問題ですから、ここであまり深入りはしません。これから速記を習おうとされる女の方は、その点よほどよく考えておかれないと、あとで「こんなはずではなかった」ということになるでしょう。女性の速記者は、労働基準法などにしばられない、フリーな自営速記の面でもっと伸びてよいし、伸びる余地があるのではないかと思います。

4・学習の方法

速記を習うには、どんな勉強の仕方したらよいかということですが、それには二つの面があります。一つは速記活動の前提になる記音行為(符号化)の勉強、もう一つは速記活動の仕上げである反訳行為(文字化)の勉強です。以下、この二つの面について、私の最善と信ずる勉強法を、自分の経験をもとにしてお話しましょう。

A 符号化の勉強について

速記は人の発言を符号で書き取る技術ですから、その符号が正確に運用されねばならぬことは当然です。従つて、速記の勉強はまず符号を習い覚えるということから始まります。符号は、一日数時間勉強すれば、普通三カ月ぐらいで大体覚えてしまうのですが、その覚え方に要領がありま

す。この段階で失敗すると、あとが大へんです。初めは、りくつ抜きに素材符号全部を丸暗記することです。カードでもノートでも、なんでもかまいません。とにかく教多くくりかえすことによつて、頭で理解するだけでなく、腕に覚えこましてしまうのです。そしてある発言を聞けば自然にスラスラとその符号が指先に出てくるまで続けます。ノートはポロポロになり、カードは捨ててしまつてもおしくないところまで、やってやつてやり抜くのです。「勉強」とか「努力」とか、口にしたり字に書いたりしているうちは、まだ本ものではありません。本気にやり始めたら、そんなこと気はずかしくて、口にも筆にも出て来はしません。からだ全体が符号になりきつたような感じがするまで、徹底的に書きまくります。歩きながらでも指先で符号を宙に書いてみます。目に見えるものごとごとくを符号に見立てて読んでみま

す。「蝸耳蝸目これ符号」で、練習の材料はいたる所に転がっています。バスに乗って、つり革にブラさがりながら、窓の外を流れるように通り過ぎる電柱を相手に、速度練習がりっぱにできることを私は実験しています。机に向って紙の上で鉛筆を走らせることだけが勉強ではありません。弓や鉄砲の方でいう「念射」というのと同じことです。ねらい定めて頭の中で想いうつだけでも実技は上達するものです。技術の練磨にかわりはありません。時間のたりないことばかりこぼしていいで、くふうのたりないことも、反省してみましよう。

次の段階で——同じ内容のものを何回もくりかえして練習することは、たまにはいいですが、いつもそればかりやっていると、速度の実感をつかみそこなうおそれがあります。次にどんな言葉が出てくるか予想できないで、胸をドキドキさせな

がら書いて行くところに速記の本質があるので。そろそろあの言葉が出るころだとか、この言葉の次にはあの言葉が出るということがわかっていたので、生きた練習はできません。同じ内容のものは二度とやらないところにほんとうの速記のすがたがあるのです。誤解のないように断っておきますが、書きにくい符号や、あるつながり符号の一部分だけを取り出して何回も練習することはもとより必要です。私はただ、文章全体、同じものを何度もくりかえして練習することは意味がない——あまり有効な方法ではない、というだけです。

また、話す側の人は、こちらの符号に都合のいいようにしゃべってくれるものではありません。従って、相手の発言をすぐ書いてしまわずに、少しためておいて、自分のペースで、符号のリズムにのせて書く呼吸を早くのみ込むようにしてください。

さ。それにはため書きを練習することです。新聞の社説などを三行か四行一気に読んで、それを別の紙に書き取り、次にまた三、四行を読んで前の紙の続きに書きたして行って、終いまで書いたら、初めから原文と照合して、間違ったところをたしかめてみる。この練習を何回も違った文章でやっている、初めはいくらも書けなかったものが、次第に長くため書きができるようになってくる、これこそ技術の進歩というものです。符号を書くだけが練習ではなく、文字で書かれたものを記憶しておいて、自分のペースに合わせて文字で再現することもまた技術の一部であることを自得してほしいですね。速記の勉強は一人ではできないとは、なんと融通のきかないたむごとか、と言いたくなる面もあるということです。

だいが書けるようになった、そろそろ検定試験でも受けてみようか、というクラスの人に、シロ

とクロの鑑別法を伝授しておきます。といっても犯人のあれではありません。速度、速度と、速度に目の色をかえている人たちにはわからないかもしれませんが、速記技術の水準は、速度だけでは正確にはかれません。難度（むずかしさの度合）というのも非常に重要な条件になります。十分間二六〇〇字とか、二九〇〇字とかいうほか、難度AかBかCかということもぜひ測定してもらいたいものです。その測定の基準になるものがシロとクロというわけです。実際をお目にかけてみましょう。これは目で読んでみるだけではわかりません。実際に符号で同じ速度のものを書いてみれば、いやおうなしにその難度が身にしみてわかるはずですよ。これを抜きにして、ただ速度ばかりを目的かたきにしていても技術は上達してきません。速記学習者にとって一番大事なことは、現実をハッキリ知ることです。

見通しがつきますれば、先例もあることとありますので、喜んでそういうことという見通しを思ひますけれども、それによつて支給する分を今日支給するということによつて従員諸君が暮れに苦しむ姿を見なければならぬかと思ひます。今、今のところは何とか仕方がない状況であるということをお答えせざるを得ないのであります。

他旧軍人恩給関係及び戦没者遺族保護関係費を約二十一億円、国民健康保険の厚生関係補助費、世帯更生運動費等の公共事業費を約七億円、文部省の学費を四億五千万円、河川港河川復旧費を一億四千万円、中小企業振興費を一億、移民促進機、関係資金に與費を合計八十八億円増額計上したのであります。

いかがです。もうシロとクロの意味はわかったでしょう。同じ字数、速度でもシロとクロとは、漢字の比較、黒さの比較、(最大%) (最小%)、カタカナ、ひらがな、(中) (一三・四) (二二・五) (四六・七)。

漢字 (中) (一三・四) (二二・五) (四六・七) (最大%) (最小%)、カタカナ、ひらがな、(一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (一〇) (一一) (一二) (一三) (一四) (一五) (一六) (一七) (一八) (一九) (二〇) (二一) (二二) (二三) (二四) (二五) (二六) (二七) (二八) (二九) (三〇) (三一) (三二) (三三) (三四) (三五) (三六) (三七) (三八) (三九) (四〇) (四一) (四二) (四三) (四四) (四五) (四六) (四七) (四八) (四九) (五〇) (五一) (五二) (五三) (五四) (五五) (五六) (五七) (五八) (五九) (六〇) (六一) (六二) (六三) (六四) (六五) (六六) (六七) (六八) (六九) (七〇) (七一) (七二) (七三) (七四) (七五) (七六) (七七) (七八) (七九) (八〇) (八一) (八二) (八三) (八四) (八五) (八六) (八七) (八八) (八九) (九〇) (九一) (九二) (九三) (九四) (九五) (九六) (九七) (九八) (九九) (一〇〇)。

難度がまるでちがいます。概して言えば、答弁はやさしく、質問や説明はむずかしいともいえます。ために速記してごらん下さい。これはどちらも衆議院の速記録(正式には会議録)の一部分をそのまま切抜いたものですが、このくらい極端

高段者は盤面のシロクロの模様をチラッと見ただけです。勝ち負けがわかるそうですが、速記の方でも教育の熟練者なら、ザッと目を通せば、A B ださう。

(難度 A)

夢を現実化することが芸術家であるならば、独禁法の改正を含んだ五大法案の中にフアッシュズムの夢を盛り込んだ吉田総理も、異なる意味においての偉大なる芸術家といふことができるでしょう。ただその作品と影響が、人民の怨嗟の的になるか、後世の歴史家のもの笑いになるか、未完成交響楽になるか、それは第一として、われわれはこの独禁法に盛り込まれた反動性についてその内容を検討、批判しつつ質問いたすものでございます。

質問の前に明確にしておきたいことは、われわれ日本社会党が多年主張してきたりました社会主義的計画経済をもってするならば、現行の独禁法もあるいはまた改正案

(難度 B)

ただいま議題となっております昭和三十年年度予算案三案そのものに對しまして、私は自由党を代表して自民両党提案の共同修正案に賛成いたします。両派社会党の組みかえ動議には遺憾ながら反対いたします。

私はまず政府提案の原案に對して批判を加えまして、自由党の立場を明らかにいたして、修正案の賛成の理由も述べてみたいと思ひます。そして各位の御了解を得たいのであります。その前提として一言、二言鳩山内閣の政局收拾に對する態度について不満足であり、また御意見も申し上げ、批判もいたしておきたいと思ひます。

(難度 C)

吉田内閣にかわりまして鳩山内閣ができて、国民は少くとも三つの面で鳩山内閣に期待をしておいたと思ひます。その第一は占領行政を切りかえまして、自主独立の体制を確立して、吉田内閣のアメリカ一辺倒政策を改めて、アメリカに對して自主性を主張されるであらうという点が一つの大きな国民の期待であったと思ひます。第二は中ソ兩國との国交を調整されるという点が大なる国民の期待であったと存するのであります。さらに第三は内政の面におきまして、旧時代的な無計画な放任経済をやりますのを改めまして、これを計画経済に切りかえ、経済自立と国民生活の安

もいずれも資本主義経済の矛盾と
破綻から生まれた資本主義末期の
あわれむべき変態的立法である
ということができるのでございま
す。いわゆる資本主義のかいらい
政権が行き詰まれる自由主義経済
を一時的に糊塗せんとするあわれ
むべき手段でもございましょう。
従っていかなる立法をもってして
も、戦後の弱められたる日本経済
の現況を顧みず、營利、私有を最
大の目途とする資本家群と連なり
無統制無計画なる自由主義経済政
策のもとにあっては、しよせん貿
易も、産業も、国民生活もあらゆる
不合理と混乱の中に巨大な組織
と物量と資本による国際的な圧力
について、自立経済どころか、
亡国への一途をたどることは火を
見るよりも明らかでございます。
この破綻と悲劇を克服し、真の
日本経済の自立を確立するため
は、すなわち国民大衆とともにあ
り、公共と社会性を根本理念とい

従来御存じの通り世間で言っ
ておりますが、わが党内閣は何とい
つてもとにかく信念がはっきりし
ておった。鳩山内閣を見ておると
どうもふらふらで、場当たりで、御
都合主義で、迎合主義だ、こうい
う批判は、相当聞くのでありま
す。これはどっから来るのかと私
はいろいろ考えてみたんでありま
すが、これは一つは百八十五とい
う比較多数という点もあると思
うのでありますが、もう一つ掘り
下げてみますと、比較多数という
ことに対しての認識そのものが十
分でないという点じゃないかと私
は思う。言いかえれば国民は強力
でかつ明らかな民主政治を望んでお
る。内外の時局は非常に動いてお
ります。一刻も政府は存在しなけ
ればならぬときに、比較多数党で
あれば何といつても国会乗り切り
は困難である。この点において政
府は真剣になって考えをめぐらさ
なければならぬ。ところが残念な

定を計画的にはかるといふこの体
制に對しまして、大きな期待をい
たしておたと存するのでありま
す。私はこの三点を追いまして、
鳩山内閣が今日までやられました
ことにつきまして、いろいろ御質
問をいたしたいと考えるのであり
ます。第一のアメリカに對する自
主性の回復という点につきまして
は、これはむざんに國民の期待が
裏切られたと思つております。
今度の予算編成がおくれまして、
そうしてそのために六月の暫定予
算も出さなければならぬというよ
うな事情になりました点は、本予
算提出がおくれた結果でありま
す。本予算の提出がおくれました
点は、防衛分担金を削って、内政
費、特に社会保険費に回すとい
う鳩山内閣の公約が完全に裏切ら
れて、あまつさへ予算編成に干渉さ
れる例を作った、将来にわたって
も内政干渉をされる結果となつた
のであります。本予算の提出がお

たしました社会主義的計画経済以
外に何もものないということを通
言してはばからないものでござい
ます。しかしながら今日わが党が
この独裁法を支持しているゆえん
は、よしんば自由主義経済の生ん
だものとはいへ、その法の精神、
すなわち私的独占と集中的支配力
の排除に賛成しているからであり
ます。またわが党は現に展開しつ
つある国際的な景気の停滞現象は
自由主義のアナーキーに基く当然
の結果であると判定しているだけ
に、現実の打開方式がどうあるべ
きかの根柢についてはすでに述べ
ましたごとく、計画ある。以下略。

がら組閣当初に当りましても勇ま
しく単独内閣の進軍ラッパを吹い
ちやつた。何とかなるだろうとい
つて国会へ出てきて、鳩山さんこ
こでいろいろ各党から御質問を受
けて、国会をどうして乗り切れる
のかと聞かれるとどうにも何とも
なりませんという御答弁が多い。
それじゃ國民が不安で、またどこ
へどうなっていくのかわからぬと
いう気が一ぱいになつてくると
私は思うのであります。そこで少
数党内閣であるところをはっきり
と反省と認識をされて、鳩山さん
が謙虚な気持とおっしゃるから一
つ謙虚にその点を十分。(以下略)

くれたのはここに原因がある。重
光外相が渡米を拒否されたといふ
不始末も、またこの防衛分担金の
問題のごたごたから来ておると存
ずるものであります。さらに同僚
議員から突っ込みましたように、
日米共同声明、これは声明の形で
はあるけれども、徳義的には少く
とも条約と同じようにわれわれは
これを守らなければならぬ義務
を持つておると存するのでありま
して、そういう点についても日本
の将来の予算を拘束するという意
味におきまして、私は鳩山内閣は
重大な責任を負われたと存するの
であります。(以下略)

夕調、デス調、デアル調、デアリマス調の順に
言葉が長くなるほどやさしいことは、常識的にわ
かることですが、内容の理解度―予備知識のいか
んできまることも忘れてはならない事実です。
某式のテキストに「参議院、衆議院の速記者採

用試験は一分間三〇〇字前後で、十分間でありま
す。本大会では最後の決戦(選?) 競技は一分間
四〇〇字の五分間でありました」とあります。こ
れだけ読むと、某式の大会の方がレベルが高いよ
うですが、果してそうでしょうか。衆議院の採用

試験(昭30)は十分間三五七一字、分速最高三七八字、難度も見なければ比較になりません。某式「自慢の大会優勝者が協会のC級検定試験で落ちた事実は何と説明しますかね。学生相撲の横綱が本職の相撲取りになれば、幕内はおるか、十両もあぶないのと同じことです。稽古の質と量がちがうのです。かといって私はあの大会の意義を否定するものでもなければ、高校生の実力を軽視するものでもありません。あれはあれで立派な行事であり、高校生に優秀な人がいることも知っています。ただ、事実をまげて、性質のちがうものをこゝとさら比較して、何にも知らない人をまどわしてはいけないというだけです。碁や将棋でも、シロウトの二段、三段が、クロウトの初段にコロコロとひねられても、だれも不思議に思わないのと同じわけです。一分間のテストなら、終りの十秒や二十秒は暗記しておいて書くこともできま

す。前に言ったため書きの名人なら、一分のものを一分二十秒で書くことなどお茶の子でしよう。その分速を十倍したからといって、決してほんとうの速度ではありません。それは紙の上の計算速度がそうなるというだけです。十分間に朗読されたものを十分二十秒で書くことはできますが、十分で読まれたものを十三分二十秒(一分二十秒の十倍)で書くことは、だれにもできないでしょう。ため書きできるのは最後の二十秒ぐらいのもので、五分練習のミスを一倍しても十分練習の現実のミスにはなりません。実際はそれにいつもプラスアルファがつくのです。そのアルファ(何ものか)が疲労度であり持続力、耐久力であるわけです。一分練習、三分練習、五分練習と長くなるほど実力がハッキリ出て来ます。速記の専門家になるうと志す人は、十分間の持続練習を怠ってはだめです。この点特に強調しておきます。実際

の速記は、座談会や講演なら二時間は普通、一時間は少い方です。会議や講習会などの速記になると六時間や七時間続けて書かされることもめずらしくないのです。十分間練習は最低持続時間といっても言い過ぎではありません。できるだけ将来役に立つ練習法を早くから実行するように心がけましょう。一人前の速記者になるには、方式のいかんを問わず、符号化の延時間一〇〇〇時間以上の練習があるものと覚悟して、今からすぐ実行することです。それを何年何カ月でやりうるか、まず最低二、三年はかかるものと覚悟してください。

B、文字化の勉強について

符号で書けたからといって速記ができたわけではありません。あとの仕上げ(普通文字に書き直すこと)ができれば仕事は半分しか終わっていません。だから文字化のことをハンブンという……

(これは冗談です——正しくは反文^{ゴッペン}反訳^{ハンペン}「ホンヤクとも言うのですが、英辞から日本語へ「ホンヤク」というのと区別する意味で、「繙」や「翻」の字は使わない習慣になっています。文字化するには非常に時間がかかります。普通文字の書速は十分間三〇〇〜五〇〇字ですから、通常符号化の五、六倍の時間があるわけです。それで独習者は符号の練習にばかり熱中して、読みかえし(符号で書き取ったものを声に出して読むこと、これを「反読」と書く、「判読」と同じ音になるので口ではヨミカエシという)や反訳をいやがるのですが、その方の練習をしなければ実力はつきません。十分間で符号化したものを十分以内で反読すれば秀、十五分で読めれば優、二十分ですめば良、三十分以内なら可、それ以上かかれば不可、と自分で自分の実力が簡単に判定できます。反訳したものを原文と照合した結果、ミステークが

○・五%以内(一〇〇〇字の速度で五点以内、二〇〇〇字で一〇点以内、三〇〇〇字で一五点以内)なら秀、一%なら優、二%なら良、三%なら可、それ以上は不可と自己判定ができますから、この二つの判定基準を自分の成績に適用し、直視することを常に怠ってはいけません。自分の実力を正視することをおそれたり、回避したりすることは、自分を愛することにはならないのです。自分を甘やかすことは決して自分を健全に育て上げるゆえんではないでしょう。自己訓練をきびしくすることこそ成功への近道であり、試験合格のキザであることを銘記しておきましょう。

文字化の勉強は文字通り文字の勉強から始まります。符号の勉強と並行して国語書取の勉強を即日开始することですね。それこそ「善は急げ」です。テキストは毎日内容のかわる新聞の社説が最適です。実例を示します。次に掲げたのは、ある

日の朝日新聞の社説(初めの半分)ですが、相当クロいですね。いきなりこれではちょっと無理かもしれませんが、わかってもらわなくても、とにかく毎日社説を写しているうちに、だんだん読めるようになり、書けるようになり、わかるようになってきます。初めのうちこそアタマが痛いでしょうが、一カ月、二カ月としんぼうして続けていると、いつの間にかスリッと楽になって、文字を書くことが苦にならなくなります。そうなったらもうしめたものです。こういう言葉こそ、われわれが当面する速記の対象なのです。日常家族や友人と話し合い談笑しているような言葉は、決して速記の対象にはなりません。同じ日本語でも種類がちがうのです。これに早く気がつかなければ速記の勉強は軌道に乗ったとは言えません。私はい

つも「速記教育の半分は国語教育だ」と言っていますが、文字と言葉の研究が伴わなければよい速記の勉強は軌道に乗ったとは言えません。私はいつも「速記教育の半分は国語教育だ」と言っていますが、文字と言葉の研究が伴わなければよい速記の勉強は軌道に乗ったとは言えません。私はいつも「速記教育の半分は国語教育だ」と言っていますが、文字と言葉の研究が伴わなければよい速記の勉強は軌道に乗ったと言

社説

金利は安く経営は合理的に

懸案だった、日本銀行公定歩合の調整を中心とする金利体系の正常化は、いよいよ差し迫った問題となった。ながい間、資金蓄積の不足ゆえに、ゆがめられていた金利体系を、正常な形にもどすことが、理屈でなく、現実的な課題となってきたというのも、このところ十分とはいえないが、国民の貯蓄がある程度蓄積してきたことを意味する。まだまだ、金融について問題はいろいろと残っているにせよ、金利問題が、一歩でも正常な道に引きもどされてくる情勢が熱したということは喜ぶべきことである。

このように金融事情に、いくらかでもゆとりが生れてきたからといって、金利問題が全部解決したわけではもちろんない。問題はこれからなのである。会社などの借入金の利子負担は相変らず重し、金融が緩和されたとして、その金が国家的にみて、必要な面に潤沢に流れるとは限らない。安い金利、そして、その合理的、計画的な運営を図る、ということは、なかなか困難な問題であるが、そ

の成否は、今後の経済の発展にも大いに関係するものである。問題の第一は、今日公定歩合制と高率適用制併用という変則的な日銀の金利体系を正常化するところにある。銀行の手元は次第に楽になり、日銀よりの借入金もだんだん減っていく、という金融事情の今日、金融緊迫時代の変態的制度である高率適用制に、金融調節の機能を期待することは意味がない。金融調節の機能を公定歩合に求め、日本銀行をその本来の姿に復帰させることは当然といわねばならない。今日は、まさにその時期が到来したといえよう。

ただ、問題は、今日なおも、高率適用制による貸出も皆無というわけではないので、金利体系の正常化を実施しようとするれば、日銀金利は高率適用金利と公定歩合との調整を必要とすることにもなる。そこで、現実問題として、金利体系は正後の実質的金利負担を現状の線におくか、それとも、少しでも低金利の方向にもって行くかという点になると、論議の余地の存するところであろう。

記者にはなれません。文字と言葉の参考書としては、次の両書を推薦します。

広田栄太郎編

「用字用語辞典」(東京堂刊)

石黒修著「日

本人の国語生活」

(東大出版部)

(二〇〇〇円)

この二冊は、ぜひ目を通しておいください。

学生だから高価なものには困るといふ人には

新聞用語懇談会編「新聞用語いかえ集」日本新報社刊
がいいでしょう。(定価四五円)ポケットに入るハンドブックで、二字漢語の使用度数の多いのが相当集めてあるので重宝です。これに載っている言葉は辞書なしに書けるまで勉強すること。

やや程度が進んで、地名や人名の研究とか符号化練習の課程に入ったら、最良の参考書は、
大毎校正部編「校正の研究」(春陽堂刊)

です。これは今では古本でないと思入らないのが残念ですが、内容は興味一〇〇パーセント、速記者のために、わざわざあつらえて作ったのではないかと思うくらいで、私はいつも速記者必読書の筆頭にあがっています。内容見本を紹介しますと――

- 字音の同一または類似
- 民衆Ⅱ民主 後援会Ⅱ講演会 偽証罪Ⅱ偽称罪 事
- 大思想Ⅱ時代思想 前代議士Ⅱ現代議士 学制を尊重Ⅱ学生を尊重 公約を無視Ⅱ口約を無視

これでおよそどんなものか、想像がつくでしょう。この本に書かれた程度を常識として知っていたら、どれほど速記の仕事が楽になることでしょう。その他、地名の参考書としては

- 地理調査所「郡市町町名便覧」(一八〇円)
- 交通公社「時刻表」(毎月発行一〇〇円)

前のは郡市町村名の読み方がわかって便利です。最近の新市名は載っていません。時刻表はへんだと思うでしょうが、駅名の読みにくいのは全部フリガナがつけてあるし、昔の国の名、鉄道の線名など利用の仕方によっては、これほどありがたい参考書はありません。固有名詞の符号の練習にも便利です。安い上に内容の充実していること!! 数字の練習にも最上のテキスト・ブックです。要は使い方のいかにあるわけです。

時事用語、外来語、経済用語、市場用語の参考書には、次の本をおすすめします。

○字義の類似

移動Ⅱ異同 悪臭Ⅱ悪習 皇女Ⅱ王女 解放Ⅱ開放
寄港Ⅱ帰港 化学Ⅱ科学 国債Ⅱ国際 地利Ⅱ地理
莠素Ⅱ莠草 不売Ⅱ不買 進行Ⅱ振興 前文Ⅱ全文

- 読みにくい地名
- 一口(いもあらい) 太秦(うずまさ)
- 不入斗(いりやまず) 動橋(いぶりばし)
- 十八女(さかり徳島) 石和(いさわ)
- 左沢(あてらざわ) 川内(せんだい)

言語同断(てくらーこれを「てくら」と読むのこそ言語同断)

- 誤りやすい地名
- 千葉―滋賀 宮崎―宮城 全丹―全但
- 豊前―備前 周防―諏訪 対馬―千島
- 岡山―和歌山 下田―島田 香川―神奈川―金沢
- 仙台(東一番丁) 和歌山(全市の半分以上が丁)
- 堺(甲斐町東二丁、錦ノ町西二丁) 水戸×町目
- 読みにくい人名
- 太(おおの)多(おおの)高(こおの)政(つかさ)
- 土師(はじ) 鷲見(すみ) 嘉悦(かや)
- 十河(そごう) 木全(きまた) 物集(ものづめ)

朝日新聞社編「新聞語辞典」(各年版一五〇円)
日本経済新聞社編「経済語辞典」(二八〇円)
同社編「商品株式市場用語辞典」(三〇〇円)
専門的であるだけに新聞速記を志望される人には、特に最後のが一番役に立ちます。朝日の「新聞語」は外国語が正確で信頼できます。

国会や地方議会(都道府県市議会等)を志望される人には

- 衆参両院記録部編「国会会議録用字例」(日速報刊) 二〇〇円
- 衆議院記録部編「国会のことば(第一集)」(日速報刊) 五〇〇円

が最適です。これで符号の練習をすれば、鬼に金棒です。参議院内日本速記協会で取次ぎます。

- 速記者全般に通ずる高度の教養書としては
- 手嶋史雄編「同音語・類音語集」(衆友会刊) 二〇〇円
- 武部良明著「国語学大要」(衆友会刊) 上下各一〇〇円
- 同 「国語速記概説」(上)(下) 二〇〇円
- ダイヤモンド社編「現代政治の基礎知識」(七〇〇円)

同 社編「経済記事の基礎知識(五八〇円)」
 野田全治著「新聞経済記事の解説」(栄光堂日本社刊)
 東洋経済新報社編「体系商品辞典」(二、三〇〇円)
 同 続編 (八〇〇円)
 新村出編「広辞苑」(岩波書店刊)
 (一、〇〇〇円)

これだけあれば、速記実務の参考書として、ま
 ずことを欠かないでしょう。経済方面の参考書が
 多いのは、その方面の速記需要が多いからで、専

外郭団体名 行宮 調査

運輸省(五二団体) 交通
 公社、全日本観光連盟、弘
 済会、交通協力会、運輸調
 査局、日本交通協会、鉄道
 貨物協会、日本航空協会、
 おとり会、日本婦人航空
 協会、日本青年飛行連盟、
 西日本軽飛行機協会、日本

海難防止会、海上保安協会
 平和の海協会、灯光会、水
 難救済会、海洋少年団、気
 象協会、日本乗合自動車協
 会、全国乗用自動車協会、
 日本トラック協会、全国通
 運業連盟、全国自家用車組
 合連合会、日本自動車整備
 振興会、全国小型自動車整
 備振興会連合会、日本自動
 車整備研究会、日本自動車
 会議所、日本自家用自動車
 協会、全国貨物自動車運送
 取扱事業組合連合会、日本
 海事振興会、日本海事集會
 所、日本船主協会、日本海
 洋少年団連盟、日本定期船
 協会、全国機関船組合総連
 合会、日本海事協会、日本
 造船工業会、日本船用発動
 機会、日本海員救済会、舟
 艇協会、日本海員会館、海
 洋会、船員厚生協会、日本
 船員奨学会、海技専門学院

門がちがえば、また別の参考書があるのは当然で
 す。それはだんだんに整備していけばよいのです。
 符号の練習とも関連するのですが、日本語の特
 徴の一つは、漢字熟語の多いことです。それも二
 字単語ではなく、そのさらに合成・複合された
 4~18字などという、一口では言いきれない言葉
 の書き方がうまく解決されていなければだめで
 す。その練習には次の材料をおすすめ致します。

商販売農協連合会、開拓信
 用基金協会、全国製粉製麵
 協組連合会、全国精麦工業
 協会協組連合会、全国パン
 協組連合会、全国食糧事業
 協組連合会、全国主食集荷
 協組連合会、全国米穀商組
 合連合会、全国穀粉協組連
 合会、全国菓子協組連合
 会、国際食糧農業協会、農
 業発達史調査会、組合金融
 協会、全国農業共済協会、
 全国指導農協組連合会、農
 民教育協会、全国農村工業
 連合会、協同組合経営研究
 所、農山漁村電氣導入技術
 指導相談所、全国販売農業
 協組連合会、全国購買農業
 協組連合会、大日本山林会、
 日本林業協会、日本林業技
 術協会、日本治山治水協会、
 日本林道協会、全国森林組
 合連合会、全国山林種苗協
 組連合会、日本猟友会、林

野会、日本木材加工技術協
 会、日本合格検査会、日本
 床板規格査定会、日本蒸協
 会、林業経済研究所、林野
 共済会、林業科学技術振興
 所、日本合板技術研究所、
 森林資源総合対策協議会、
 全国木炭協会
 厚生省関係(二〇団体)
 人口問題研究会、国立公園
 協会、皇居外苑保存協会、
 新宿御苑保存協会、日本温
 泉協会、日本厚生統計協会
 結核予防会、藤楓協会、水
 道協会、日本公衆衛生協会、
 日本社会福祉協議会連合、
 日本赤十字社、恩賜財団母
 子愛育会、日本肢体不自由
 児協会、全国社会保険協会
 連合会、健康保険病院協会、
 厚生団船員保険会、全国国
 民健康保険団中央会、引
 揚援護「愛の運動」中央会
 建設省関係(一七団体)

日本建設機械化協会、全国
 災害復旧促進連盟、全国治
 水砂防協会、日本河川協
 会、全国治水期成同盟会連
 合会、日本住宅協会、全日
 本不動産協会、日本建築士
 会連合会、水道協会、公園
 緑地協会、都市計画協会、
 戦災復興土地地区画整理委員
 会全国連合会、全国道路利
 用者会議、日本道路協会、
 都市不燃化同盟、全国収用
 委員会連絡協議会、国土計
 画協会
 文部省関係(九団体) 開
 国百年記念文化事業会、日
 仏会館、日本學術振興会、
 日本学校給食会、学徒援護
 会、大日本育英会、科学恩
 給財団、私学教職員共済会
 私立学校振興会
 総理府関係(八団体) 日
 本科学技術連盟、公正取引
 研究会、日本交通安全協会、

全国統計協会連合会、統計
 研究会、日本統計研究所、
 北海道科学技術連盟、地方
 財務協会
 郵政省関係(八団体) 郵
 政弘済会、電気通信共済会、
 通信協会、電気通信協会、
 通信教育振興会、通信文化
 振興会、電波振興会、日本
 放送協会
 外務省関係(三団体) 国
 際学友会、日本国際連合協
 会、国際文化振興会
 大蔵省関係(三団体) 大
 蔵財務協会、印刷局朝陽会、
 造幣局泉友会
 法務省関係(二団体) 法
 曹会、刑務協会
 通産省関係(二団体) 海
 外市場調査会、国際商事仲
 裁委員会
 労働省関係(二団体) 日
 本労政協会、全日本産業安
 全連合会

えらくゴツイ名前をたくさん並べましたが、これらの各部門でそれぞれ専門の術語が使われているので、速記者の知識がいかに広範囲にわたっているか、大よそ想像がつくでしょう。しかもそれはまだ一部にすぎないのです。

5、検定試験と採用試験

速記学習の最後の仕上げをするのが日速協の検定試験ですから、簡単に紹介しておきます。

毎年一月、五月、七月、十月には東京で、衆参両院の速記者養成所を試験場にして、奨励と検定の試験を同時に行います。試験日は受験者の便をはかっていつも日曜か祭日です。大阪は五月、神戸は七、八月、京都は十月か十一月、その他名古屋、広島、福岡または鹿児島、高松または松山、仙台、長野、富山（福井または金沢）、静岡または沼津などでも毎年一回行われます。

得るでしょう。今までの最短記録は、練習を始めてから九カ月目にA級をパスしたという人が一人いるだけで、普通は一年半から二年か三年というところですが、両院の養成所のように、国費で朝から晩まで勉強のできる所は別として、働きながら、余暇に速記を習うという人は、二年半、三年かかってでも当り前でしょう。あまりあせって功を急いではなりません。最近では、新聞社や国会、地方議会でも資格条件の一つとして検定合格の有無を調べるところがふえてきました。検定A、B級に合格すれば、申請により日本速記協会の速記士として登録され、速記士証を交付されます。ただ、A級とB級とは対職の際初任給がちがいますから、速記を専門の職業とする以上、A級合格を目標に技術水準の向上に努力すべきでしょう。同じ日速協の主催する最高速記技術競技会では、毎年秋分の日、十分間三五〇〇字の速度（一

試験の要項は次のとおりです。

試験種類	速度	回数	反訳時間	正確度	受験料
検定A級	三〇〇字	二回	各三分	九〇%以上	三〇〇円
B級	二〇〇字	〃	〃	〃	〃
C級	一〇〇字	〃	〃	〃	〃
奨励甲級	三〇〇字	〃	〃	100%以上	二〇〇円
乙級	二〇〇字	〃	〃	〃	〃
丙級	一〇〇字	〃	〃	〃	〃
丁級	一五〇字	〃	〃	〃	〃

この試験は、速記を習った者なら、方式、年齢、学歴、男女の別なく、だれでも受験できます。

ふだん練習している速度より一段下の級を受けるのが賢明です。ムリをしてストレスの級や上の級を受けることは賛成できません。符号を乱し、自信を失い、受験料を損するだけで、得るところは何もないでしょう。徐々に、かつ堅実に一つずつ、下の方からいつも良い成績で受かるように心がけて行けば、大体二年ないし三年でA級に達し

回勝負)でその年度のチャンピオンを選定し、三十年代から衆参両院議長賞(カップ)が授与されることになっています。

検定試験は技術の水準を認定する試験ですから、そのレベルに達していれば、人数に制限なく、何人でも合格させますが、採用試験は予算の関係で採用人員には制限があります。従って競争試験で、成績の上位の者から採っていきますから、A級合格者でも必ず採用になるとは限りません。現に衆議院速記課の採用試験では、専属の速記者養成所の生徒時代(たいてい二年生在学中)にA級に合格してさらに一年間教育訓練を受けた者が十数名受験しますから、それらのものと競争してなおかつ優秀な成績を示すためには、やはりA級合格後一年以上速度練習をして少くとも三五〇〇〜三六〇〇字のレベルに達していなければ合格の見込みは薄いわけです。それは実に容易ならぬ難関

大 好 評 入 門 書

ですから、国会速記士を志す人は、その覚悟で今から大いに技を練り術を磨いて他日に備えてください。新聞社その他の職場でも、応募者はいつも募集人員の十倍十数倍に達していますから、ここにも競争があります。それに採用試験ともなれば、だれでも緊張してふだんの実力の八割ぐらいしか發揮できないものですから、技力のほかに気力を練るくふうもいるわけです。

おわりに

速記という技術は、符号を運用する技力のほかに、物事に動じない気力（胆力または精神力、あくまで遂行する意思力）と、ものすごいスピードで書かれた符号を判読して適当な字に直していく知力（そのバックには広く各方面にわたった常識と言語文字に関する専門的な知識）とが総合されたもので、その裏づけになる原動力は体力ですか

ら、技力・気力・知力・体力がうまく調和して最高度に能率を發揮するとき、そこにはじめて優秀な速記者が実現するわけです。

以上いろいろな項目にわたって述べたところは技力と知力の造成に関する方法のそれもホンの一部分にふれたに過ぎません。気力と体力の育成についてはほかに適当な人があるでしょうから、私はその方にふれることは遠慮しておきます。

これにヒントを得られて、皆さんが大いに創意くふうをこらされ、速記法の窮極の目標である「ムダなく」「ムリなく」「ムラもない」合理的な勉強法を一日も早く心得られて、自信をもってこの世の中を渡って行かれるよう切望してやみません。

予定の枚数もつきたようですから、この辺でペンをおくことにします。(完)

日本麻雀連盟編集

麻 雀

(入門より)
戦術まで

川崎備寛・黄雀風・天野大三共著
この三大家が得意の部門を担当して入門より戦術の秘奥を詳述。

B 6・二七〇 P・価一八〇円

八段 原田 泰夫 著

将棋を始める人のために

最もやさしく書かれた将棋の手ほどき。自分で自分の実力測定できる詰将棋・実力養成の詰将棋満載

B 6・二二四 P・一五〇円

エセル・M・フィールズ、宮田峯一共著

婦人英語会話ブック

天野 大三 著

麻雀を始める人のために

近代麻雀の花形リーチの入門から初歩戦術について唯一の書。実践の解説書としても類のない新風。

B 6・二四八 P・二〇〇円

八段 原田 泰夫 著

やさしい基本戦法

一 続将棋を始める人のために
現棋壇で最も利用されている定跡のやさしい解説。初段実力養成書

B 6・二二四 P・一六〇円

英会話の実力をつけるのに最適。日常あらゆる場合に応用できます
コンサイス美装・価一九五円

千代田区神田
神保町1の29

ハンドブック社

東京 東18番
1955 春 版

各式素音符号比較一覽表

(Graham式)	田鎖式 (原始形)	衆議院式	参議院式
a i u e o	—	—	—
K	—	—	—
S	—	—	—
T	—	—	—
N	—	—	—
F	—	—	—
M	—	—	—
Y	—	—	—
R	—	—	—
W	—	—	—

ガントレット式	武田式	中根式
ア	—	—
カ	—	—
サ	—	—
タ	—	—
ナ	—	—
ハ	—	—
マ	—	—
ヤ	—	—
ラ	—	—
ワ	—	—

熊崎式	早稲田式	岩村式
ア	—	—
カ	—	—
サ	—	—
タ	—	—
ナ	—	—
ハ	—	—
マ	—	—
ヤ	—	—
ラ	—	—
ワ	—	—